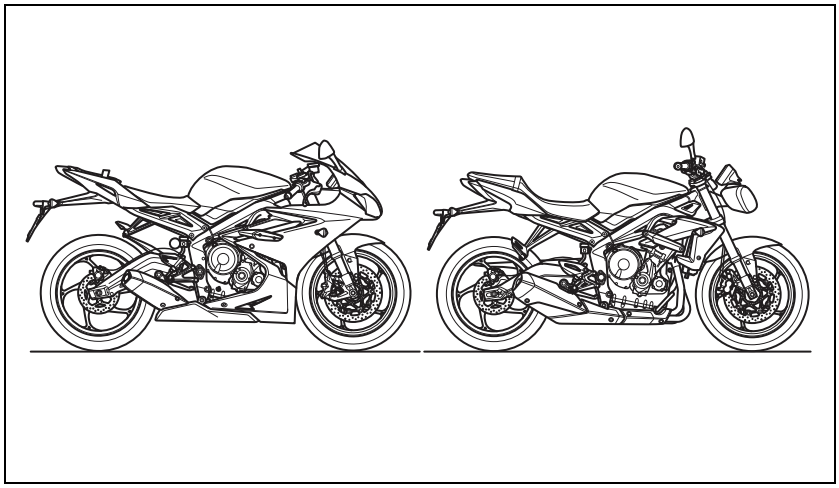
はじめに

本取扱説明書は、Triumph のモーターサイクル Daytona 675、 Daytona 675 R、 Street Triple および Street Triple R について解説したものです。この取扱説明書は必ずモーターサイクルと一緒に保管し、必要に応じて参照してください。



警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：

⚠ 警告

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 注意

この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- **この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。**

はじめに

警告ラベル

モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行なったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、*10*ページとページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。

最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウエブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

- 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、
- 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

イモビライザーとタイヤ空気圧モニタリングシステム

本装置はFCC規定パート15に準拠しています。

本装置の動作は次の2つの条件に基づきます。

- 本装置が有害な電波障害を引き起こさないこと。
- 本装置が、好ましくない動作を生じさせる可能性のある電波障害を含め、あらゆる受信障害に対応することができること。

本装置に変更や改良を加えた場合は、利用権限が無効となることがあります。

取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph 社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。

Triumph 社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

本取扱説明書は貴地のディーラーからも入手できます。

- イタリア語
- 英語
- オランダ語
- スウェーデン語
- スペイン語
- ドイツ語
- フランス語
- ポルトガル語。

⚠ 警告

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなくてはなりません。お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

Triumph へのご意見

お客様に Triumph をご購入頂いた後も、当社はお客様との関わりを大切にしています。当社製品をご購入およびご使用頂いたお客様からのご意見やご感想は、当社の製品開発とサービス向上において欠かすことができないものです。是非、正規販売店にお客様のメールアドレスをご登録頂き、お客様の声をお聞かせください。ご登録頂いたメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査のご案内を送信させていただきます。ご意見・ご感想をお待ちしております。

Triumph チームより

はじめに

情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

Triumph Motorcycles Limited の書面による許可なく、本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

© Copyright 06.2012 Triumph Motorcycles Limited, Hinckley, Leicestershire, England.

出版部品番号 3852189 第 1 版

目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

はじめに *1*

警告ラベル *10*

部品の名称 *14*

シリアルナンバー *20*

一般情報 *21*

モーターバイクの運転 *65*

アクセサリー、積載条件、同乗者 *77*

整備と調整 *81*

保管 *149*

仕様 *151*

はじめに－安全第一

モーターバイク

⚠ 警告

このモーターバイクはオンロード専用に設計されています。オフロードでの使用には適しません。

オフロード走行をした場合、モーターバイクのコントロールが失われて人身事故に帰する恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、トレーラーの牽引やサイドカーの取り付けを意図して設計されていません。サイドカー及び / 又はトレーラーの取り付けは、操縦性を損なって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、ライダーを単独で、または（タンデムシートが装備されている場合は）ライダーとひとりの同乗者を一緒に運べる二輪車として使用するように設計されています。

ライダー、（ある場合は）同乗者、アクセサリー、荷物の重量合計が、最大車載限度の195 kgを超過してはなりません。

燃料と排気ガス

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性の高い物質です：

給油の際は必ずエンジンを止めてください。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で給油したり、フューエルフィラーキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだり、目に入れてしまった時は、即座に医師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水で洗い落とさなくてはなりません。ガソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その他の深刻な損傷を与える結果になりかねません。

⚠ 警告

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけっぱなしにしないでください。排気ガスは有毒なので、短時間の内に意識が失われて死に至る恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

ライディング

⚠ 警告

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモータバイクを運転することは危険であり、モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

⚠ 警告

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- 通過する車両からの横風
- 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- 悪天候
- ライダーのミス

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

モータバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、ブーツ、防護メガネ、グローブ、（膝と足首まわりがフィットする）ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー（または同乗者）を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

⚠ 警告

頭をケガから守ってれくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー（または同乗者）を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。

ハンドルとフットレスト

⚠ 警告

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの操縦性と安定性に悪影響を及ぼし、バイクをコントロールしきれなくなって事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 警告

走行中は、ライダーも同乗者も常にフットレストに足をかけていなければなりません。

フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

駐車

⚠ 警告

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください：

モーターバイクのスタンドが上がって転倒するのを防ぐため、ギヤをファーストに入れます。

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

⚠ 警告

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、「Triumph モーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

整備 / 装備

⚠ 警告

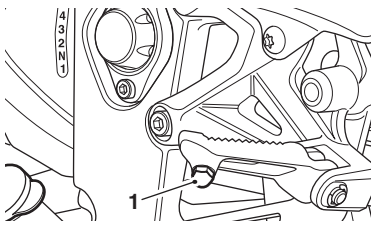
本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規 Triumph ディーラーに相談してください。

正しく機能していなモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

⚠ 警告

バンク角指示器の摩耗が許容限度を超えていると、モーターサイクルのバンク角が深くなりすぎる危険性があります。バンク角指示器の許容摩耗限度は、Street Triple の場合は 15 mm、Daytona 675 と Daytona 675 R および Street Triple R の場合は 5 mm です。

危険な角度まで横傾斜するとバイクを不安定な状態にし、制御しきれなくなって事故を起こす恐れがあります。



1. バンク角指示器（Street Triple R を図示）

⚠ 警告

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合もあります。不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

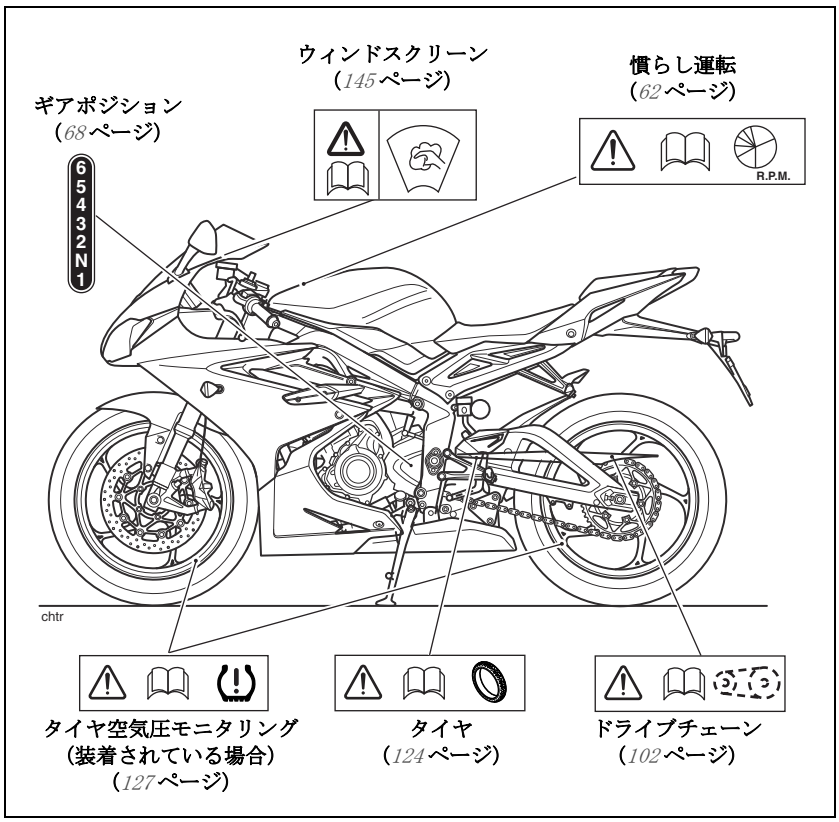
⚠ 警告

モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規 Triumph ディーラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

警告ラベル

このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。

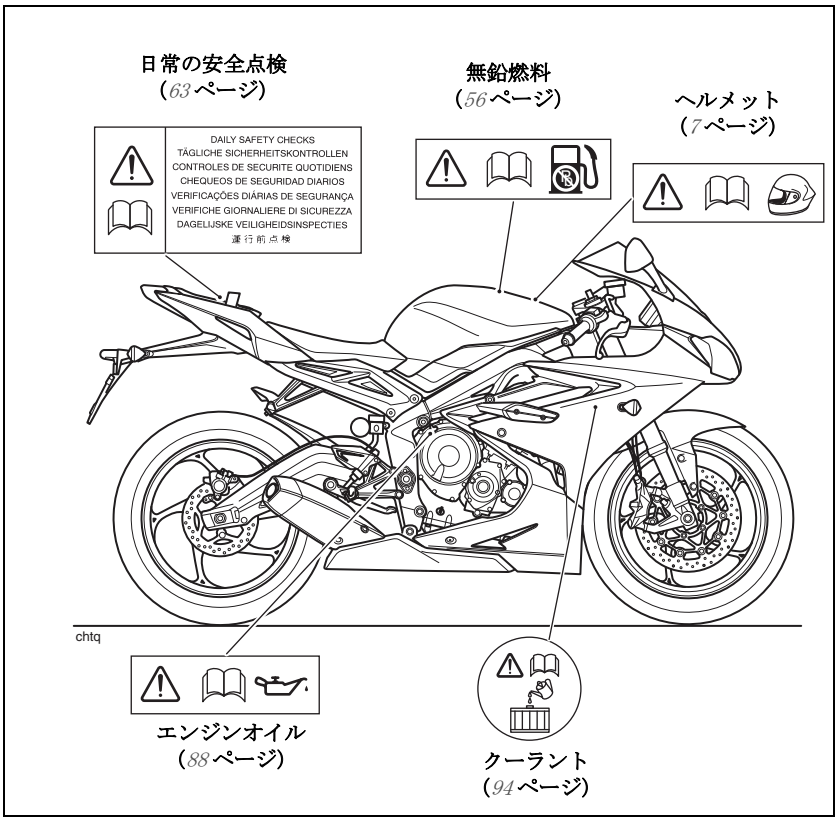
警告ラベルの位置 - Daytona 675 と Daytona 675 R



警告ラベルの位置 - Daytona 675 と Daytona 675 R（つづき）

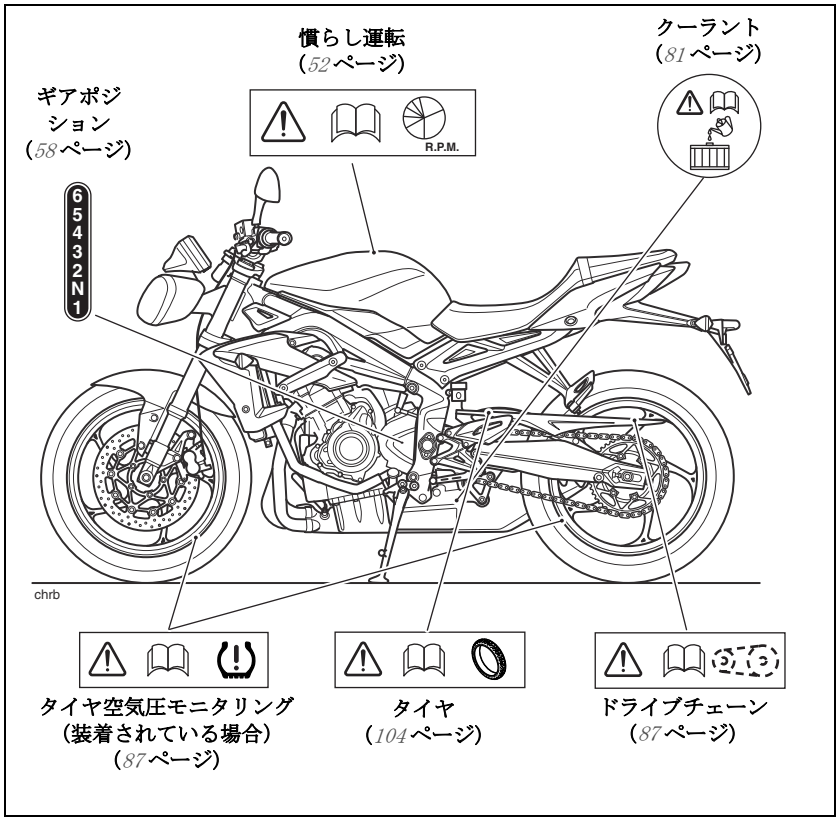
⚠ 注意

慣らし運転のラベル以外の警告ラベルやステッカーは、強力な接着剤でモーターサイクルに貼り付けてあります。場合によっては、ペイントラッカーを塗布する前にラベルが貼り付けられていることもあります。そのため、警告ラベルをはがそうとすると、塗装面や車体を損傷する恐れがあります。



警告ラベル

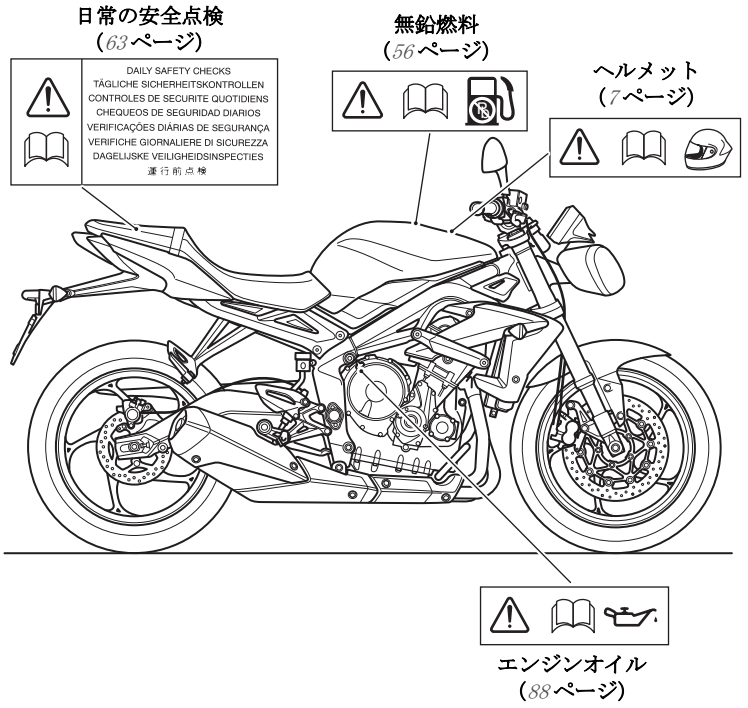
警告ラベルの位置 - Street Triple および Street Triple R



警告ラベルの位置－ Street Triple および Street Triple R (つづき)

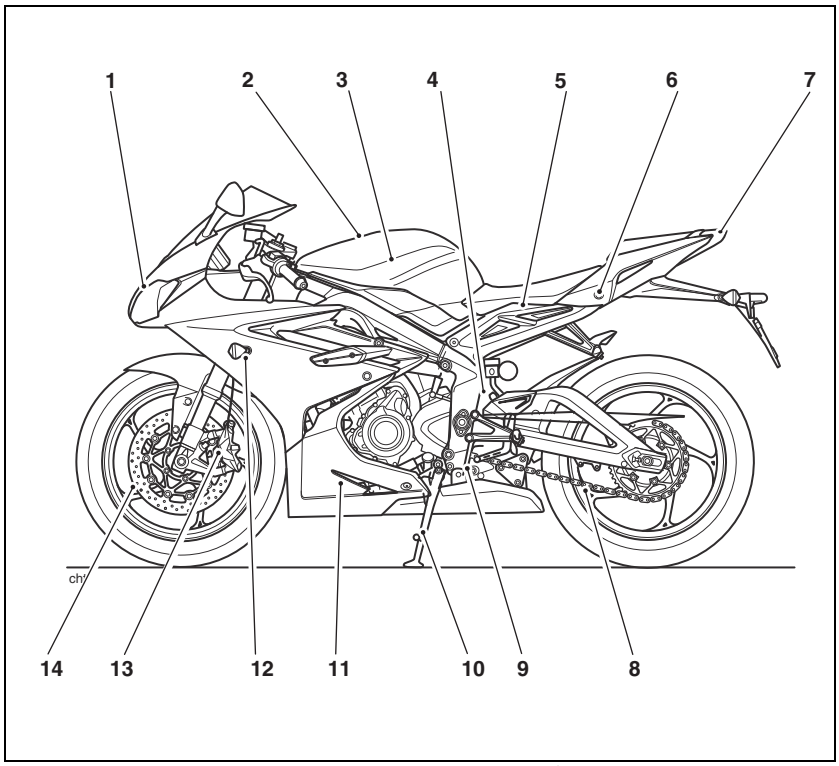
⚠ 注意

慣らし運転ラベルを除いた警告ラベルおよびシールは、強力な接着剤でモーターバイクに貼り付けてあります。場合によっては、ペイントラッカーを塗布する前にラベルを貼り付けている場合もあります。そのため、警告ラベルを剥がそうとすると、塗装面や車体を損傷する恐れがあります。



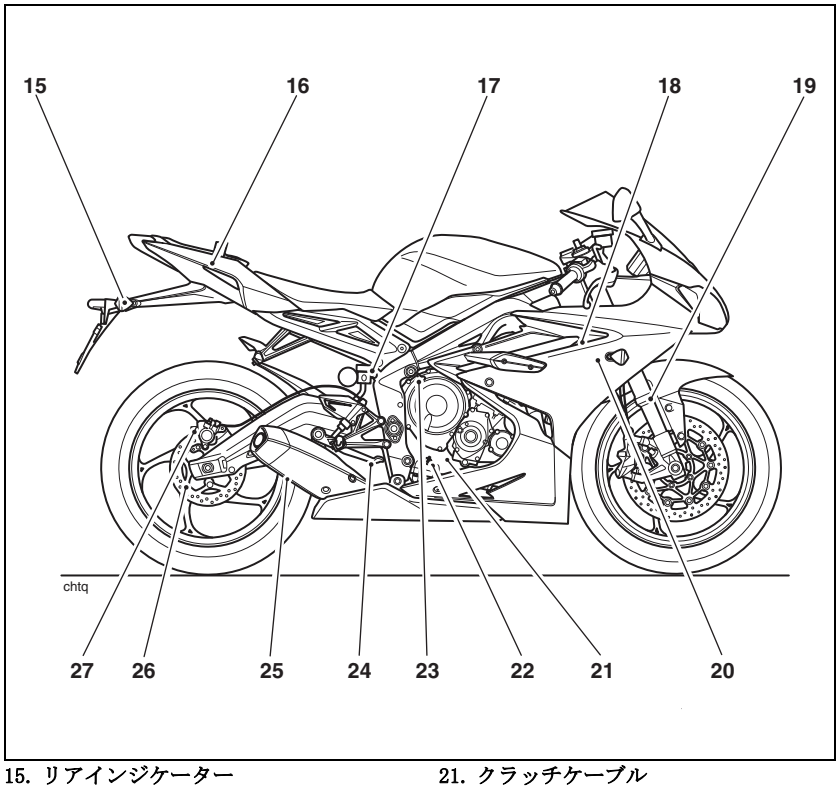
部品の名称

Daytona 675 と Daytona 675 R



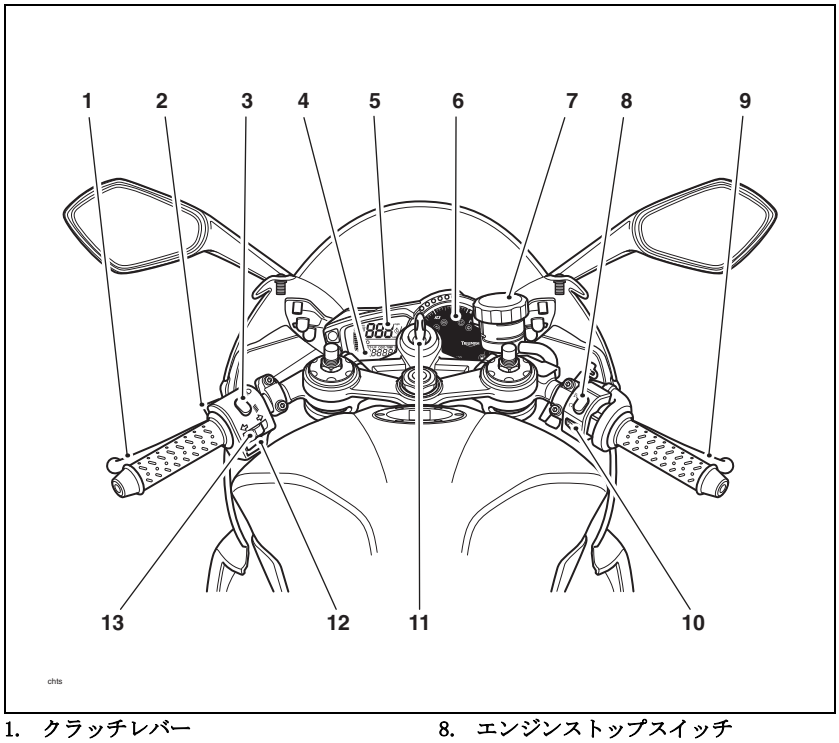
1. ヘッドライト
2. 燃料フィラーキャップ
3. 燃料タンク
4. リアサスペンションユニット
5. バッテリー
6. シートロック
7. リアライト
8. ドライブチェーン
9. ギアチェンジペダル
10. サイドスタンド
11. オイルクーラー / 熱交換器
12. フロントインジケーター
13. フロントブレーキキャリパー
14. フロントブレーキディスク

Daytona 675 と Daytona 675 R（つづき）



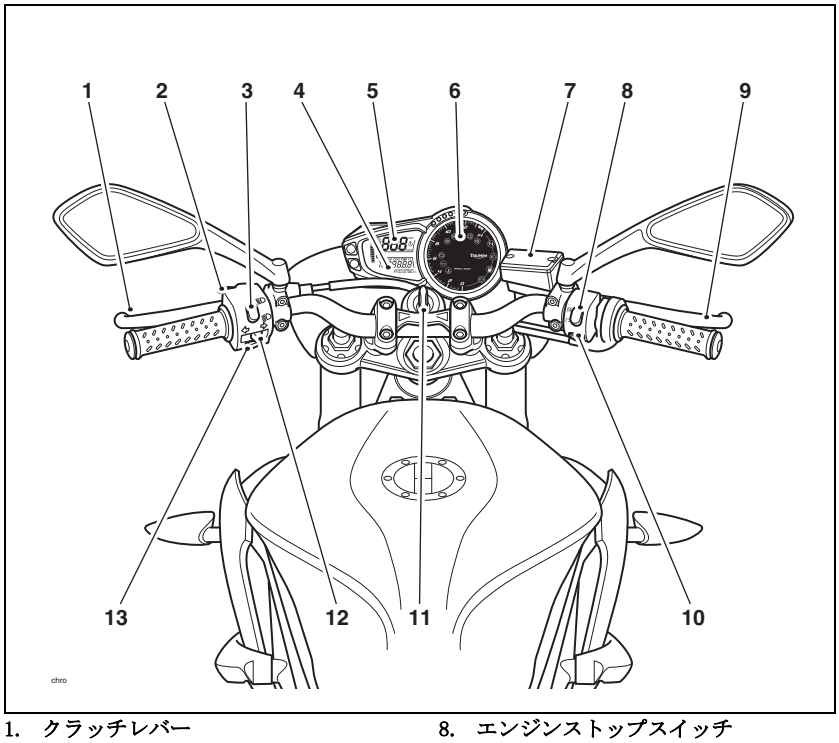
15. リアインジケーター
16. ツールキット
17. リアブレーキフルードリザーバ
18. ラジエーター / クーラントプレッシャーキャップ
19. フロントフォーク
20. クーラント膨張タンク
21. クラッチケーブル
22. オイルゲージ
23. オイルフィラーキャップ
24. リアブレーキペダル
25. サイレンサー
26. リアブレーキディスク
27. リアブレーキキャリパー

Daytona 675 と Daytona 675 R（つづき）



1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. ヘッドライトディップスイッチ
4. トリップコンピューター表示部
5. スピードメーター
6. タコメーター
7. フロントブレーキフルードリザーバ
8. エンジンストップスイッチ
9. フロントブレーキレバー
10. スターターボタン
11. イグニッションスイッチ
12. ホーンボタン
13. 方向指示器スイッチ

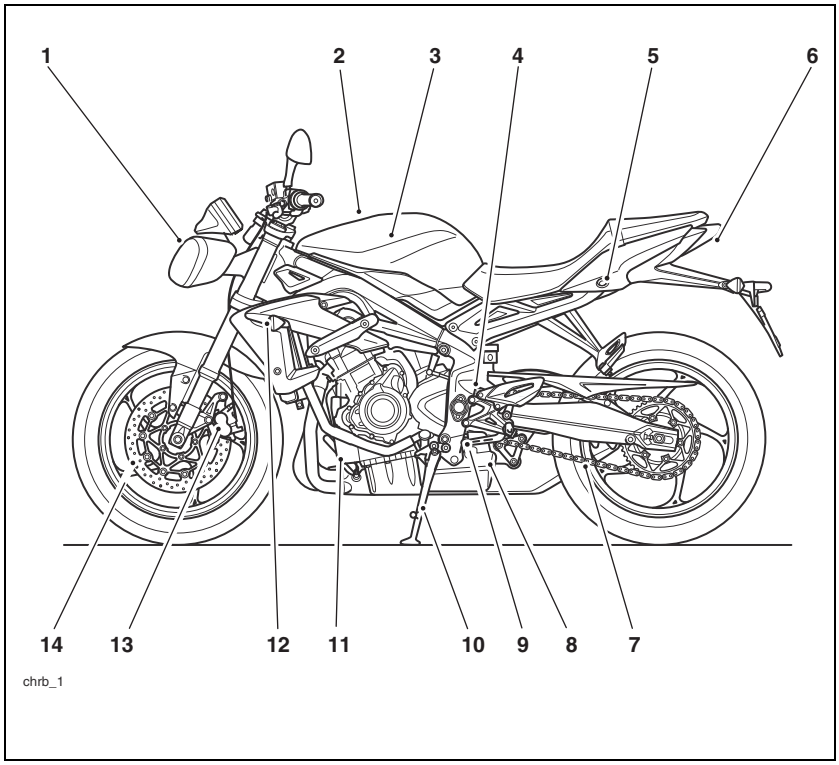
Street Triple と Street Triple R



1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. ヘッドライトディップスイッチ
4. トリップコンピューター表示部
5. スピードメーター
6. タコメーター
7. フロントブレーキフルードリザーバ
8. エンジンストップスイッチ
9. フロントブレーキレバー
10. スターターボタン
11. イグニッションスイッチ
12. 方向指示器スイッチ
13. ホーンボタン

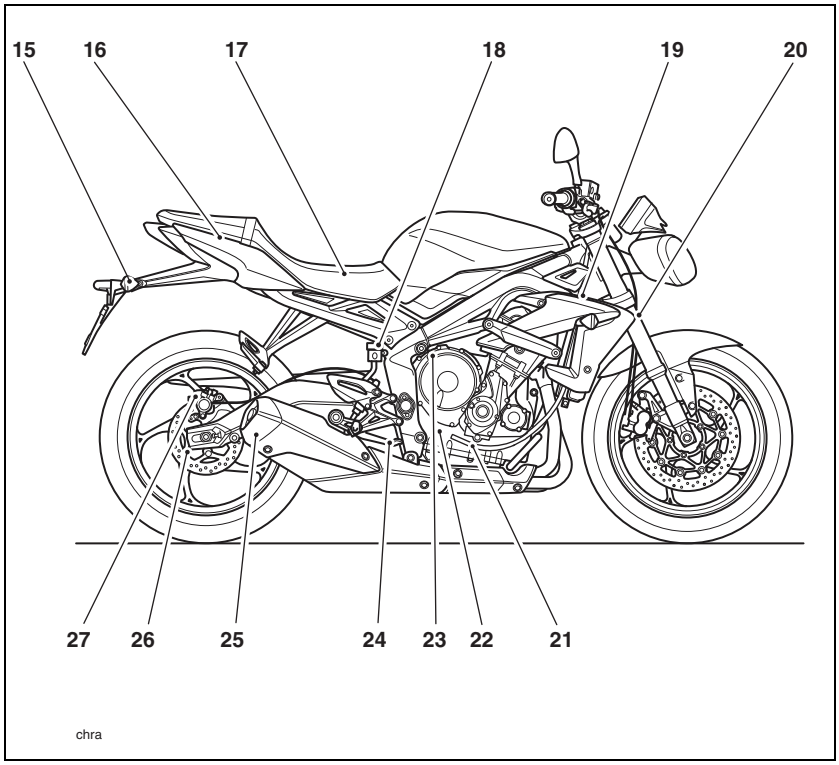
部品の名称

Street Triple と Street Triple R （つづき）



1. ヘッドライト
2. 燃料フィラーキャップ
3. 燃料タンク
4. リアサスペンションユニット
5. シートロック
6. リアライト
7. ドライブチェーン
8. クーラント膨張タンク
9. ギアチェンジペダル
10. サイドスタンド
11. オイルクーラー / 熱交換器
12. フロントインジケーター
13. フロントブレーキキャリパー
14. フロントブレーキディスク

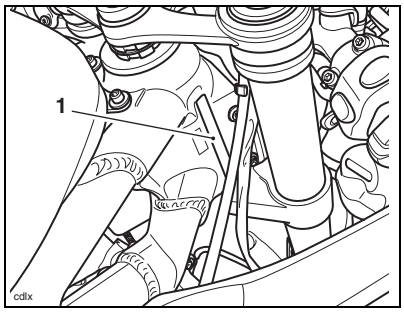
Street Triple と Street Triple R （つづき）



15. リアインジケーター
16. ツールキット
17. バッテリー
18. リアブレーキフルードリザーバ
19. ラジエーター / クーラントプレッシャーキャップ
20. フロントフォーク
21. クラッチケーブル
22. オイルゲージ
23. オイルフィラーキャップ
24. リアブレーキペダル
25. サイレンサー
26. リアブレーキディスク
27. リアブレーキキャリパー

シリアル番号

車体識別番号（VIN）

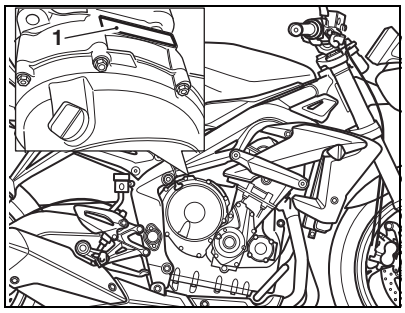


1. 車体識別番号（Daytona 675 を図示）

車体識別番号（VIN）は、フレームのステアリングヘッドエリアに刻印されています。また、ステアリングヘッドの左側にある、フレームにリベットで留められたプレートの上にも表示されています。

以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

エンジンシリアル番号



1. エンジンシリアル番号（Street Triple を図示）

エンジンシリアルナンバーは、クラッチカバーのすぐ上の、エンジンクランクケースに刻印されています。

以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

一般情報

目次

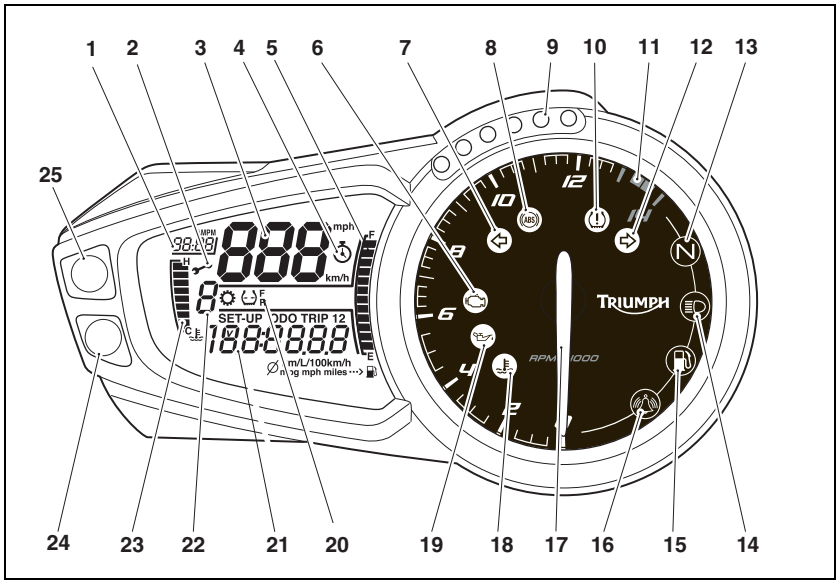
計器盤のレイアウト - Street Triple と Street Triple R 24
計器盤のレイアウト - Daytona 675 と Daytona 675 R 25
単位の変更（帝国、米国、メートル） 26
スピードメーターとオドメーター 27
タコメーター 27
トリップコンピューター 27
Daytona 675 と Daytona 675 R. 27
Street Triple と Street Triple R. 28
オドメーター / トリップメーター 29
オドメーター 29
トリップメーター 30
トリップメーターリセット 30
ABS サーキットモード 31
Daytona 675 の ABS 装着車と Daytona 675 R. 31
ABS の解除 32
ABS 搭載モデル 32
タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）- 装着されている場合 33
機能 33
TPMS センサー ID 番号 34
TPMS 表示部 35
センサーバッテリー 35
TPMS マーク 36
タイヤ空気圧 36
タイヤの交換 36
Return 表示 36
時計の調節 37
点検間隔インジケーター 38

一般情報

ギアチェンジライト 38
ギアチェンジライトモード 38
ギアチェンジライトリミットの設定 39
設定速度の変更 40
ギアチェンジライトの消灯 40
ラップタイマー 41
ラップタイマーのオンまたはオフ 41
データ記録モード 42
新しいラップの記録 42
データ検索モード 43
ラップタイマーのリセットと終了 44
ギアポジションディスプレイ 45
クーラント温度計 45
燃料計 46
Return 表示 46
警告灯 47
方向指示器 47
ハイビーム 47
燃料低下 47
ニュートラル 47
油圧低下警告灯 47
クーラント過熱警告灯 47
エンジン管理誤作動インジケータランプ 48
アラーム / イモビライザー作動状態表示灯 48
ABS （アンチロックブレーキシステム）警告灯 49
タイヤ空気圧警告灯 49
イグニッションキー 50
イグニションスイッチ / ステアリングロック 51
エンジンイモビライザー 51
イグニッションスイッチポジション 51
ブレーキレバーアジャスター - Street Triple、Street Triple R、Daytona 675. . 52
ブレーキレバーアジャスター - Daytona 675 R 53

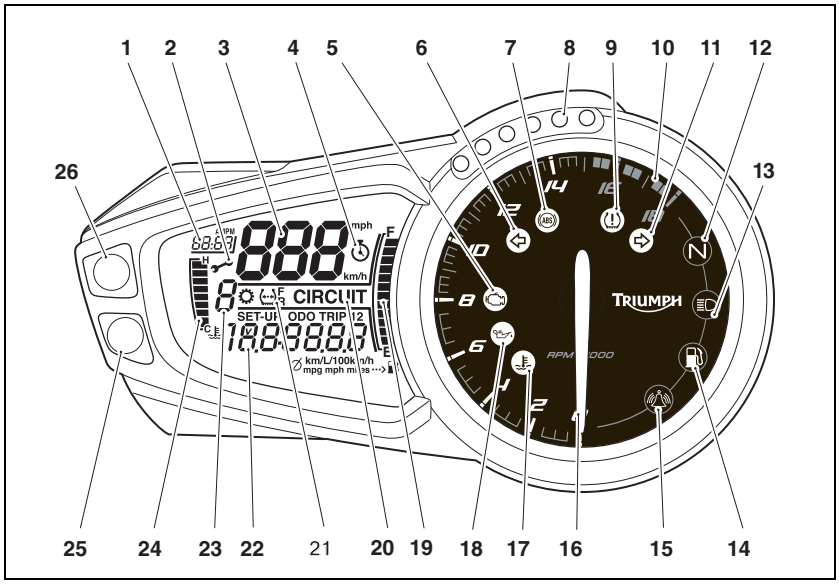
右ハンドルスイッチ 54
エンジンストップスイッチ 54
スターターボタン 54
左ハンドルスイッチ 55
ヘッドライトディップスイッチ 55
方向指示器スイッチ 55
ホーンボタン 55
パスボタン 55
燃料の条件 / 燃料補給 56
燃料の等級 56
フューエルタンクキャップ 57
燃料タンクへの給油 57
スタンド 58
サイドスタンド 58
シートロック 59
ライダーシート Street Triple と Street Triple R 59
ライダーシート Daytona 675 と Daytona 675 R 60
リアシート Daytona 675 と Daytona 675 R 60
シートケア 61
Triumph アクセサリー D ロック保管場所 61
Street Triple. 61
ツールキット 62
Street Triple と Street Triple R. 62
Daytona 675 と Daytona 675 R. 62
慣らし運転 62
安全運転 63
日常の安全点検 63

計器盤のレイアウト - Street Triple と Street Triple R



1. 時計
2. 点検間隔インジケーター
3. スピードメーター
4. ストップウォッチアイコン
5. 燃料計
6. エンジン管理システム誤動作表示灯
7. 左側の方向指示灯
8. ABS 警告ランプ（ABS モデルのみ）
9. ギアチェンジライト
10. タイヤ空気圧警告灯（タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）装着の場合）
11. タコメーター「レッドゾーン」
12. 右側の方向指示灯
13. ニュートラル表示灯
14. ハイビーム表示灯
15. 燃料レベル低下表示灯
16. アラーム / イモビライザー作動状態表示灯（アラームは取付アクセサリー）
17. タコメーター
18. クーラント過熱警告灯
19. 油圧低下警告灯
20. タイヤ空気圧表示マーク（タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）装着の場合）
21. 表示画面
22. ギアポジション表示
23. クーラント温度ディスプレイ
24. ボタン B
25. ボタン A

計器盤のレイアウト - Daytona 675 と Daytona 675 R



1. 時計
2. 点検間隔インジケーター
3. スピードメーター
4. ストップウォッチアイコン
5. エンジン管理システム誤動作表示灯
6. 左側の方向指示灯
7. ABS 警告ランプ（ABS モデルのみ）
8. ギアチェンジライト
9. タイヤ空気圧警告灯（タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）装着の場合）
10. タコメーター「レッドゾーン」
11. 右側の方向指示灯
12. ニュートラル表示灯
13. ハイビーム表示灯
14. 燃料レベル低下表示灯
15. アラーム / イモビライザー作動状態表示灯（アラームは取付アクセサリー）
16. タコメーター
17. クーラント過熱警告灯
18. 油圧低下警告灯
19. 燃料計
20. ABS サーキットモード表示
21. タイヤ空気圧表示マーク（タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）装着の場合）
22. 表示画面
23. ギアポジション表示
24. クーラント温度ディスプレイ
25. ボタン B
26. ボタン A

単位の変更（帝国、米国、メートル）

以下のように4種類の単位を選択することができます。

- mpg – 英ガロン
- mpg US – 米ガロン
- L/100 km – メートル法
- km/L – メートル法。

各表示についての詳細は次のとおりです。

mpg（英ガロン）

スピードメーターとオドメーターがマイル表示になります。燃料消費量は英ガロンで表示されます。

mpg US（米ガロン）

スピードメーターとオドメーターがマイル表示になります。燃料消費量は米ガロンで表示されます。

L/100 km（メートル法）

スピードメーターとオドメーターがキロメートル表示になります。燃料消費量は100 km の走行で何リットルの燃料を消費したかの値で表示されます。

km/L（メートル法）

スピードメーターとオドメーターがキロメートル表示になります。燃料消費量は燃料1リットル当たりの走行キロで表示されます。

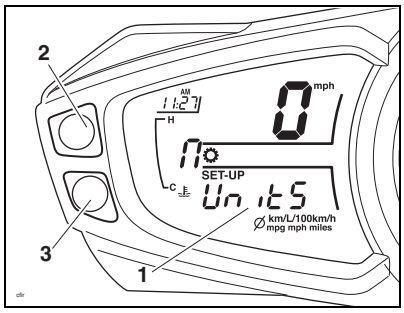
⚠ 警告

走行中に単位表示を変更することはおやめください。モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。

単位の画面を表示するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルに入れた状態で、イグニッションをオンポジションにします。

ボタン A を繰り返し押し、set up がスクリーンに表示されたら、次にボタン B を押します。

ボタン A を繰り返し押し、UnitS が表示されたらボタン B を押します。



1. **表示画面**
2. **ボタン A**
3. **ボタン B**

所期の画面が表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返してください。画面が以下の順番で切り替わります。

- mpg – 英ガロン
- mpg – 米ガロン
- L/100 km – メートル法
- km/L – メートル法。

スピードメーターとオドメーター

デジタルスピードメーターは、モーターバイクの走行速度を表示します。読出し数字表示部は、モーターバイクの走行速度を１km単位の時速で表示します。

電子オードメーターと2個のトリップメーターがスクリーンに表示されます。オドメーターとトリップメーターの使い方に関しては、以下のページを参照してください。

タコメーター

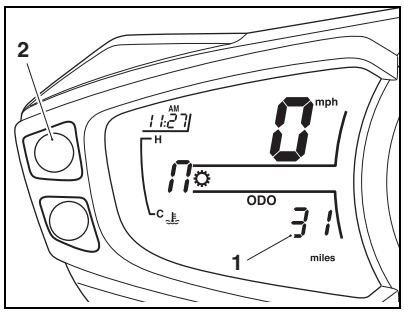
タコメーターは、エンジンの毎分回転速度を rpm (r/min) で表示します。タコメーターの片側はレッドゾーンです。毎分エンジン回転速度(r/min)がレッドゾーンにある時は、推奨エンジン速度の上限を超え、最高の性能を発揮するエンジン速度の範囲を超えています。

⚠ 注意

エンジンの rpm (毎分回転速度) がレッドゾーンに表示されるようなことは絶対に避けてください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。

トリップコンピューター

Daytona 675 と Daytona 675 R



1. **表示スクリーン**
2. **ボタン A**

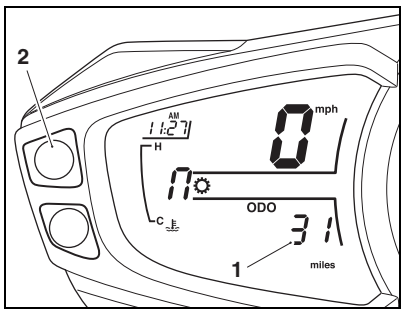
トリップコンピューター情報を得るには、その画面が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。この画面は順番にスクロールします。

- トリップメーター 1
- トリップメーター 2
- ABS (Daytona 675 と Daytona 675 R のみ)
- ラップタイマー
- タイヤ空気圧モニタリングシステム - 装着されている場合
- セットアップ。

注記：

- **セットアップのラップタイマー（ラップ）をオンにすると、ラップタイマーのみが表示されます（*41*ページを参照）。**
- **タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）は、正規 Triumph ディーラーに取り付けを依頼しなければならないアクセサリーです。取り付け後、正規 Triumph ディーラーが TPMS 表示部を起動させます。**
- **モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルに入れた状態でなければセットアップはできません。**

Street Triple と Street Triple R



1. **表示画面**
2. **ボタン A**

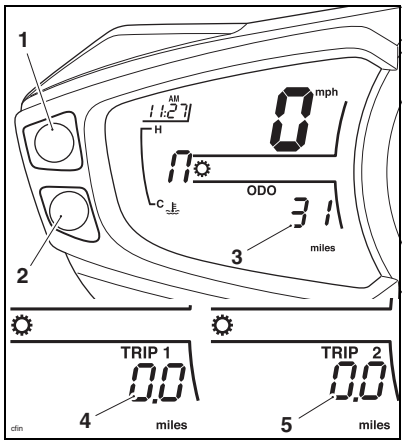
トリップコンピューター情報を得るには、その画面が表示されるまで、ボタン A を押して指を放すことを繰り返してください。画面が以下の順番で切り替わります。

- トリップメーター 1
- トリップメーター 2
- ラップタイマー
- タイヤ空気圧モニタリングシステム – 装着されている場合
- セットアップ。

注記：

- **ラップタイマー（LAP）は、set up（セットアップ）画面でラップタイマーをオンに設定すると表示されます（*41* ページ参照）。**
- **タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）は、正規 Triumph ディーラーに取り付けを依頼しなければならないアクセサリーです。取り付け後、正規 Triumph ディーラーが TPMS 表示部を起動させます。**

オドメーター / トリップメーター



1. ボタンA
2. ボタンB
3. オドメーター / トリップメーターディスプレイ
4. トリップメーター1ディスプレイ
5. トリップメーター2ディスプレイ

オドメーター

イグニッションをオンにすると、オドメーターが3秒間表示された後、前回選択したトリップメーターが表示されます。

オドメーターにはモーターサイクルの総走行距離が表示されます。

オドメーターを表示するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルに入れた状態でボタンAを繰り返し押し、画面にset upと表示されたらボタン Bを押します。その後、ボタンAを何度か押すとオドメーターが表示されます。

オドメーターの表示を終了させるには、ボタン Aを繰り返し押し、rEturn が表示されたらボタン Bを押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。

トリップメーター

ディスプレイ上のトリップメーターをリセットすると、そのトリップメーターにモーターバイクの走行距離、走行時間、平均燃料消費量、瞬間燃料消費量、平均速度が表示されます。

トリップメーター情報を入手するには、イグニッションをONにします。所期のトリップメーターが画面に表示されるまで、ボタンAを繰り返し押してください。

所期の画面が表示されるまで、ボタンBを繰り返し押してください。この画面は順番にスクロールします。

- 走行距離
- 残燃料ゼロまでの可航距離
- 走行時間
- 平均燃料消費量
- 瞬間燃料消費量
- 平均速度。

トリップメーターを前回リセットしているので、以下のように測定した情報が画面に表示されます。

走行距離

総走行距離。

残燃料ゼロまでの可航距離

タンクに残っている燃料で走行可能と思われる距離が表示されます。

走行時間

経過時間。

平均燃料消費量

平均燃料消費量の表示リセット後、0.1 kmに達するまではダッシュ記号が表示されます。

瞬間燃料消費量

瞬間の燃料消費量の表示。

平均速度

平均速度は、トリップコンピューターを最後にリセットした時から計算されます。リセット後、1 kmに達するまではダッシュ記号が表示されます。

⚠ 警告

モーターバイクの走行中にスイッチでオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。バイクを制御し損なって事故を引き起こす恐れがあるからです。

トリップメーターリセット

一方のトリップメーターをリセットするには、リセットするトリップメーターを選択して画面に表示し、ボタンBを2秒間押してください。2 秒経過すると、表示部上のトリップメーターはゼロにリセットされます。

注記：

- **トリップメーターをゼロにリセットすると、同時に走行時間、平均燃料消費量、平均速度もゼロにリセットされます。**

トリップメーターを終了するには、次の所期画面が表示されるまで、ボタンAを繰り返し押してください。

ABS サーキットモード

Daytona 675 の ABS 装着車と Daytona 675 R

⚠ 警告

ABS サーキットモードは、サーキットの乾燥した路面で使用するように設計されています。ABS サーキットモードを公道で使用してはいけません。モーターサイクルが正しく作動せず、制御不能となって事故を招く恐れがあります。

Daytona 675 と Daytona 675 R では、ABS サーキットモードを使用することができます。

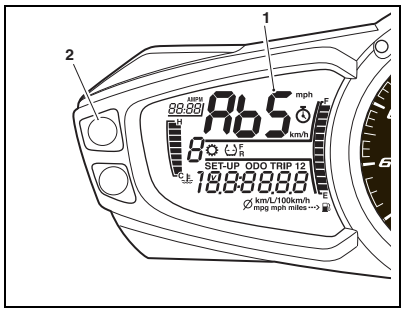
ABS サーキットモードをオンにすると、ABS が介入する前に、後輪を前輪よりも遅い速度で回転させると同時に、後輪のロックも防止することができます。

ABS の標準モードと比較すると、ブレーキング中に後輪がドリフトしやすくなります。

⚠ 警告

過度のブレーキングを行っても、タイヤのグリップ力が高ければ、十分に減速されるまでは前輪がロックしそうになることはありません。また、ABS は後輪の浮き上がりを防止するものではないため、過度のブレーキング時には後輪が浮く可能性があります。そういった状況では、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがありますので、過度なブレーキングは避けてください。

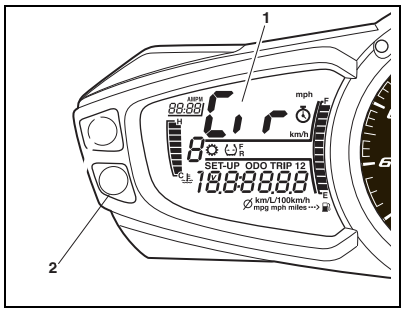
ボタン A を繰り返し押して、上側の表示画面に AbS を表示させます。



1. **上側の表示画面**
2. **ボタン A**

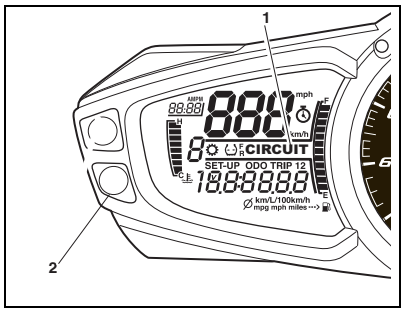
次にボタン B を押すと、上側の表示画面で On-Off-Cir が点滅します。
上側の表示画面で On-Off-Cir が点滅します。

ボタン A を繰り返し押して、上側の表示画面に Cir を表示させます。



1. **上側の表示画面**
2. **ボタン B**

ボタン Bを押してABSシステムのサーキットモードをオンにします。2秒後、中央の画面に CIRCUIT と表示されます。



1. **サーキットモード**
2. **ボタンB**

注記：

- **Cir に設定してモーターサイクルの走行を開始すると、画面表示がデフォルトのトリップ1に切り替わります。**
- **ABS　メニューを表示した状態でモーターサイクルの走行を開始した場合は、ABS メニューが終了し、何の変更もされないまま、トリップ1に切り替わります。**

ABS の解除

ABS 搭載モデル

ABS システムは、一時的に解除することができます。ABS システムを解除したままにすることはできません。イグニッションをオフしてから再びオンすると、自動的に ABS システムが有効な状態になります。

⚠ 警告

ABS が解除されている場合は、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして機能します。その場合、急ブレーキをかけるとホイールがロックされ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ABS 解除方法

ABS 解除機能を表示するには、イグニッションをオンポジションにします。

ボタン A を繰り返し押し、set up がスクリーンに表示されたら、次にボタン B を押します。

ABS が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押します。

ボタン B を押すと ABS システムが解除されます。ABS OFF というメッセージが2秒間表示され、ABS 警告灯が点灯します。

ABS 復帰方法

ABS システムを復帰させるには、イグニッションをオフしてからもう一度オンします。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）- 装着されている場合

⚠ 警告

TPMS が装着されていても、日常的なタイヤ空気圧点検を怠ってはいけません。正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ冷間時に空気圧を測定してください（*125*参照）。

TPMS をタイヤ空気圧の設定に使用すると、空気圧を正しく設定できず、モーターサイクルを制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。

機能

前輪と後輪にタイヤ空気圧センサーが取り付けられています。これらのセンサーによってタイヤ内部の空気圧が測定され、各計器に空気圧のデータが送信されます。モーターサイクルの走行速度が20 km/hを超えないと、センサーから空気圧のデータは送信されません。タイヤ空気圧の信号を受信するまでは、画面にダッシュ記号が 2 個表示されます。

タイヤ空気圧センサーはバルブの近くに取り付けられており、その取付位置を示すラベルが、ホイールリムに貼り付けられています。

タイヤ空気圧モニタリングシステムを装着していないモーターサイクルの場合：
タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）は、アクセサリーとして装着できますが、必ず正規 Triumph ディーラーに取り付けを依頼してください。タイヤ空気圧モニタリングシステム を取り付けなければ、計器盤の TPMS 表示部は起動しません。

TPMS センサー ID 番号

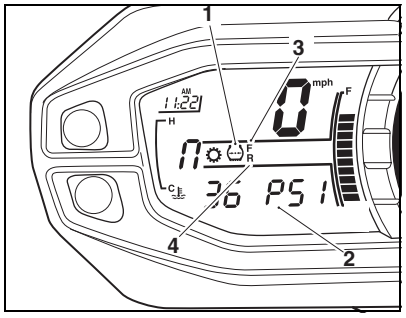
各タイヤ空気圧センサーの ID 番号は、センサーに貼り付けられているラベルに印字されています。正規販売店での点検時および診断時に、このシリアル番号が必要になることがあります。

TPMS が工場で取り付けられた場合は、フロントとリアのタイヤ空気圧センサーの ID 番号が印字されたラベルがそれぞれ以下の空欄に貼り付けられています。

TPMS をアクセサリーとして取り付ける場合は、フロントとリアのタイヤ空気圧センサーの ID 番号を、必ず正規販売店で記入欄に記入してもらってください。

フロント センサー	リアセン サー

TPMS 表示部



1. TPMS マーク
2. タイヤ空気圧の表示
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ

タイヤ空気圧を表示するには、まずイグニッションをオンポジションにします。

ボタン A を繰り返し押して、画面に psi または bAr を表示させます。

次にボタン B を繰り返し押して、前輪または後輪のタイヤ空気圧を選択します。

タイヤ空気圧モニタリングシステムを選択すると、モーターサイクルの走行速度が 20 km/h を超えてタイヤ空気圧の信号が受信されるまでの間、画面には － － psi または bAr と表示されます。

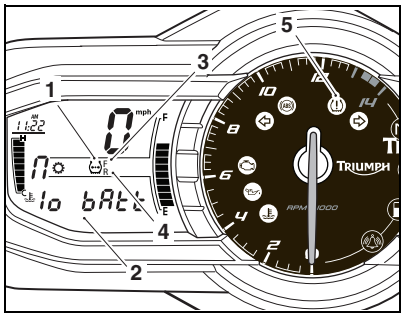
タイヤ空気圧の画面を終了するときは、ボタンAを繰り返し押して希望する表示に切り替えます。

TPMS を装着していないモデル： ボタン B を押します。画面に UnitS と表示されるまでは、ボタン A にもボタン B にも触れてはいけません。画面に UnitS と表示されたら、ボタン A を繰り返し押し、rEturn が表示されたらボタン B を押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。

TPMS を装着したモデル： ボタン B を押します。画面に PSI または bAr と表示されるまでは、ボタン A にもボタン B にも触れてはいけません。ボタン A を繰り返し押して希望する空気圧単位を表示させます。ボタン B を押し、画面に UnitS と表示されるまで待ってからボタン A を押します。rEturn と表示されたら、ボタン B を押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。

センサーバッテリー

空気圧センサーのバッテリー電圧が低い場合は、「lo bAtt」が 8 秒間表示され、どちらの空気圧センサーのバッテリー電圧が低いのかが TPMS マークによって表示されます。バッテリーが完全に消耗している場合は、画面にダッシュ記号だけが表示され、TPMS 警告灯が赤く点灯し、TPMS マークが点滅し続けます。正規 Triumph ディーラーに連絡してセンサーを交換してもらい、新しいシリアル番号を *34*ページの空欄に記入してもらってください。



1. TPMS マーク
2. 表示画面
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ
5. TPMS 警告灯

TPMS マーク

イグニッションスイッチがオンポジションの状態で、TPMS マークが 10 秒間点滅し、その後点灯したままとなる場合は、TPMS システムの故障です。正規 Triumph ディーラーに故障修理を依頼してください。

タイヤ空気圧

計器盤に表示されるタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表示を選択した時点の空気圧です。タイヤが運転中に温められるとタイヤ内の空気が膨張して空気圧が上がるため、タイヤ冷間時に設定した空気圧と表示された空気圧が異なる場合があります。Triumph 社は、このような空気の膨張を考慮して冷間時のタイヤ空気圧を規定しています。

タイヤ空気圧の調整は、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して必ず冷間時に行ってください（*125* ページを参照）。計器盤に表示された空気圧を見て調整してはいけません。

⚠ 警告

タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤ空気圧を調整するときにタイヤ空気圧ゲージとして使用するものではありません。タイヤ空気圧を正しく設定するには、必ず正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ冷間時に空気圧を測定してください（*125* を参照）。

TPMS をタイヤ空気圧の設定に使用すると、空気圧を正しく設定できず、モーターサイクルを制御しきれなくなって事故を招く恐れがあります。

タイヤの交換

タイヤを交換する際は、必ず正規 Triumph ディーラーにタイヤを取り付けてもらってください。また、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることをディーラーに伝えてください（*127*ページ参照）。

Return 表示

画面に rEturn と表示されているときにセットボタンを押すと、トリップ 1 の表示に戻ります。

時計の調節

⚠ 警告

モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

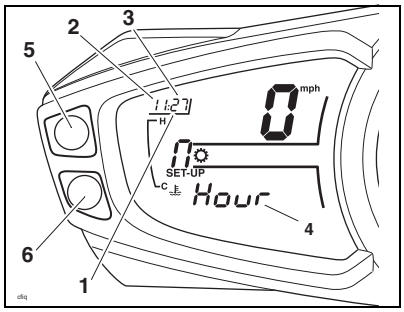
時計を設定するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルに入れた状態で、イグニッションをオンポジションにします。ボタン A を繰り返し押して、画面に set up を表示させます。続いてボタン B を押すと、画面に t-SEt と表示されます。

再びボタン B を押すと、24 Hr または 12 Hr 時間が表示されます。ボタン A を押して所期の時計ディスプレイを選択し、ボタン B を押します。時間表示が点滅し、Hour が画面に表示されます。

時刻表示をリセットする際、時間表示が点滅し、Hour が表示されていることを確認してください。ボタン A を押して設定を変更します。ボタンを 1 回押すごとに、設定がひとけたずつ変わります。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

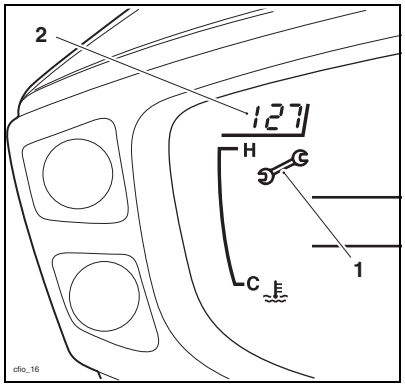
適切な時間が表示されたら、ボタン B を押します。分表示が点滅し、Min が画面に表示されます。分は、時と同じやり方で合わせます。

時刻と分を両方とも設定した後、ボタン B を押して確定すると、画面に t-SEt と表示されます。ボタン A を繰り返し押し、rEturn が表示されたらボタン B を押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。



1. **時計ディスプレイ**
2. **時**
3. **分**
4. **表示スクリーン（調整のため選択した Hour）**
5. **ボタン A**
6. **ボタン B**

点検間隔インジケーター



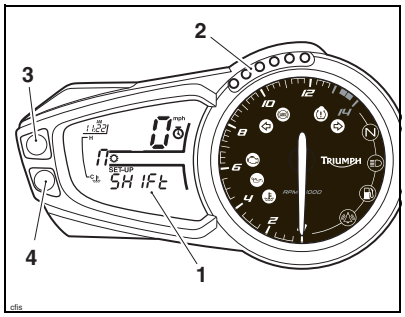
1. **点検インジケーター**
2. **点検までの走行距離**

イグニッションスイッチをオンしたときに、次回の点検までの距離が800 kmを切った場合、点検マークが3 秒間表示され、次回点検までの走行距離が時計表示部に表示されます。

点検までの走行距離が 0 km になると、正規Triumphディーラーが点検を実施してシステムをリセットするまで、点検マークが表示されたままになります。点検予定の走行距離を超えると、走行距離がマイナス表示されます。

ギアチェンジライト

ギアチェンジライトの点灯で、ギアチェンジが行われたことを示します。ギアシフトライトはすべて青い色です。



1. **表示スクリーン**
2. **ギアチェンジライト**
3. **ボタン A**
4. **ボタン B**

ギアチェンジライトモード

ギアチェンジライトには、以下のように設定可能な 4 通りの操作モードがあります:

- 3 LED モード : 最初の 3 つのライトは限界に達すると点灯し、エンジン回転速度が設定を下回るまで点灯した状態を保ちます。
- 6 LED モード : 6 個のライトはそれぞれ設定値に達すると点灯し、エンジン回転速度が設定値を下回るまで点灯した状態を保ちます。
- OFF モード:ギアチェンジライトが OFF です。
- SE モード : 設定速度に達するまでは、ライトが 250 rpm 単位で点灯します。設定速度に達すると、6個のライトがすべて点灯します。

ギアチェンジライトリミットの設定

ギアチェンジランプは、ランプがアイドルの状態で作動するのを避けるために、3,500 rpm 以下で作動します。

ギアチェンジライトモードを変更するには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルに入れた状態で、イグニッションをオンポジションにします。

set up が画面に表示されるまで、ボタンAを繰り返し押し、次にボタン B を押してください。

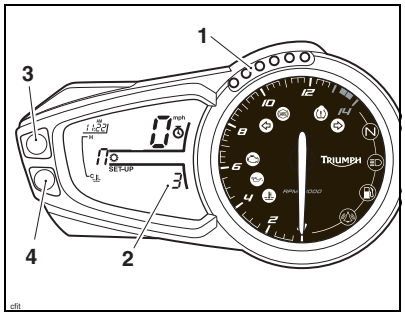
SHIFt が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。現在のモードが表示され、対応するギアチェンジライトが点灯します。

所期ギアチェンジライトモードが表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。この画面は順番にスクロールします。

- SE（Scale モード）
- 3（3 LED モード）
- 6（6 LED モード）
- OFF（ギアチェンジライト消灯）。

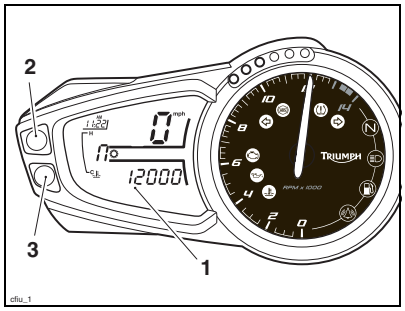
注記：

- **本モーターサイクルのギアチェンジライトは、設定速度3,500 rpmで6 LED モードに設定されて出荷されています。**



1. **ギアチェンジライト**
2. **表示スクリーン（図は 3 モード）**
3. **ボタン A**
4. **ボタン B**

ギアチェンジライトモードを選択すると、タコメーターの針が前回設定した位置に行きます。1,000 単位で点滅し、rpm が画面に表示されます。



1. **1,000 単位 rpm**
2. **ボタン A**
3. **ボタン B**

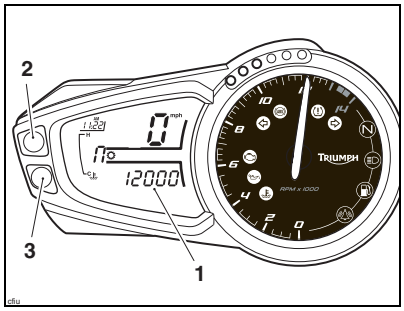
設定速度の変更

設定を変更するときは、ボタン A を押します。そうすると設定速度を 1,000 rpm 単位で増加させることができます。最高回転数に達するまで、ボタン A を押すごとに 1,000 rpm ずつ設定速度が増加します。最高回転数に達すると、3,500 rpm に戻ります。

注記：

- **1,000 単位の rpm が最大 rpm に設定されると、SHIFt が表示されます。**

適切な設定が表示されたら、ボタン B を押して 100 単位の rpm を点滅させます。



1. **100 単位 rpm**
2. **ボタン A**
3. **ボタン B**

最大 rpm まで、100 rpm 単位で設定を変えることができます。

注記：

- **本モードで 900 に達し、さらにボタン A を押すと、表示が 000 にリセットされます。**

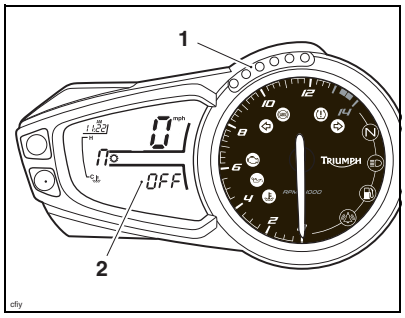
ボタン A を押すごとに、設定が 100 rpm ずつ増加します。

適切な設定が表示されたら、ボタン B を押して設定を確定すると、SHIFt が画面に表示され、ギアチェンジライトがすべて点滅します。

ボタン A を繰り返し押して rEturn が表示されたら、ボタン B を押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。

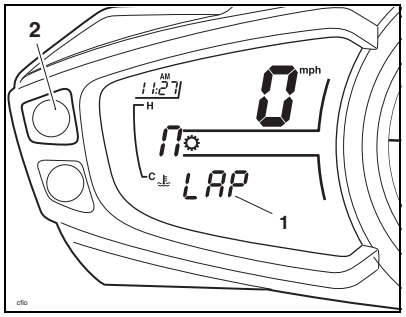
ギアチェンジライトの消灯

OFF モードを選択するときは、まず画面に OFF と表示されていることを確認します。ボタン B を押すと画面に SHIFt が表示されます。ボタン A を繰り返し押して rEturn が表示されたら、ボタン B を押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。



1. **ギアチェンジライト**
2. **表示スクリーン（図は OFF モード）**

ラップタイマー



1. **表示スクリーン**
2. **ボタン A**

ラップタイマーは以下のデータを表示します：ラップタイム、ラップタイムナンバー、平均速度、最大速度、走行距離。各ディスプレイに以下のデータが表示されます：

ラップタイム

ラップの経過時間（ラップナンバーがスピードメーターディスプレイに表示されます）。データは前回リセットして以降から記録されてます。

注記：

- **100 分後、ラップタイマーがゼロにリセットされます。**

ラップのナンバー

最後にリセットされた時から記録されたラップのナンバーが表示されます。ラップタイマーには最高 50 ラップが記録されます。

最高速度

ラップあたり達成した最高速度とラップナンバー。

平均速度

ラップあたり達成した平均速度とラップナンバー。

走行距離

ラップあたり達成した走行距離とラップナンバー。

ラップタイマーのオンまたはオフ

ラップタイマーのオン/オフを切り替えるには、モーターサイクルを静止させ、ギアをニュートラルに入れた状態で、イグニッションをオンポジションにします。

set up が画面に表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。ボタン B を押します。

Lap が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。ON またはOFFにすると表示スクリーンが点滅します。

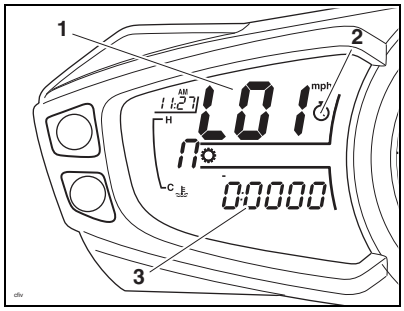
ボタン A を押して ON または OFF を選択したら、ボタン B を押します。画面に Lap と表示されるまでは、ボタン A にもボタン B にも触れてはいけません。次にボタン A を繰り返し押し、rEturn が表示されたらボタン B を押します。そうすると、画面にトリップ 1 が表示されます。

ラップタイマーには、データ記録とデータ検索の 2 種類のモードがあります。

⚠ 警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こす恐れがあるため、走行中にラップタイマーの表示モードを切り替えないでください。

データ記録モード



1. **ラップディスプレイ**
2. **ストップウォッチアイコン**
3. **ラップタイム**

注記：

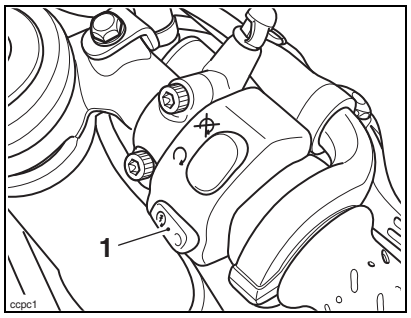
- **ラップタイマー（ラップ）をオンにすると、データ記録モードとデータ検索モードのみ作動します。**

データ記録モードを選択するには、イグニッションキーをONポジションにします。

Lap が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。L01 とストップウォッチのアイコンがスピードメーターディスプレイに表示され、ラップタイマーが表示スクリーンに表示されます。

スターターボタンを押すと（エンジンがかかっている場合）ラップタイマーがスタートします。ディスプレイには分、秒、100分の 1 秒単位のラップタイムが表示され、ストップウォッチアイコンが点滅します。

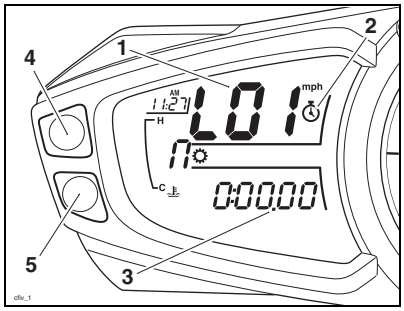
新しいラップの記録



1. **スターターボタン**

ラップの終わりに再度スターターボタンを押すと、新しいラップのスタートが登録されます。5秒間にわたって前のラップタイムがディスプレイに表示され、続く次の 5 秒間は新ラップタイムが表示されます。その後、スピードメーターディスプレイに現在のラップナンバーが表示され、表示スクリーンに現在のラップタイムが表示されます。

データ検索モード



1. **ラップナンバー**
2. **ストップウォッチアイコン**
3. **ラップタイマー**
4. **ボタンA**
5. **ボタンB**

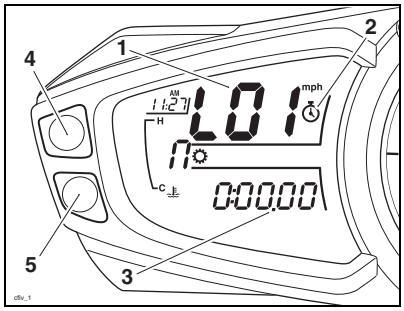
データ検索モードに切り替えるには２つの方法があります：

- イグニッションを ON ポジションにして、ラップタイマーディスプレイの B ボタンを押します。
- エンジンがかかっていてバイクを停車させた状態で、データ記録モードのスターターボタンを 2 秒間押します。すると、ディスプレイが「Lap」に戻ります。そしたら、ボタン B を押します。

注記：

- **モーターバイクで走行中、データ検索モードに切り替えることはできません。**

データ検索モードに切り替えると、一番目のラップのタイムが表示されます。ラップナンバーがスピードメーターのディスプレイに表示されます。

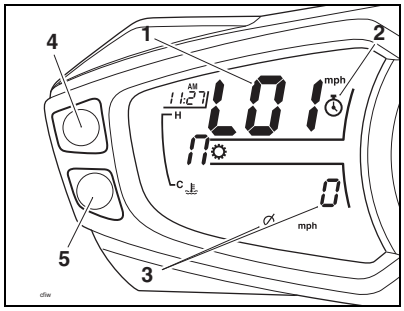


1. **ラップナンバー**
2. **ストップウォッチアイコン**
3. **ラップタイマー**
4. **ボタンA**
5. **ボタンB**

所期のラップ（最高 50 ラップまで）が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。

ボタン B を繰り返し押して、以下の順序でデータをスクロールします。

- 平均速度（ラップ毎のまたはラップ全体）
- 最高速度（ラップ毎またはラップに記録されている最高速度）
- 走行距離（ラップ毎のまたはラップ全体）
- ラップタイム。



1. **ラップナンバー**
2. **ストップウォッチアイコン**
3. **データ検索モード（図は平均速度）**
4. **ボタン A**
5. **ボタン B**

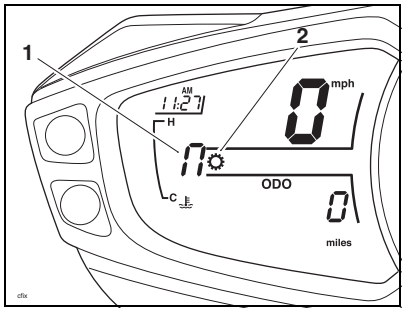
速度と距離は、スピードメーターの単位に基づき、キロメートルまたはマイルで表示されます。

ラップタイマーのリセットと終了

ラップタイマーのリセットと終了は、2 秒間ボタン B を押します。2 秒後、ラップタイマーがリセットされてLapがスクリーンに表示されます。これで保存されている全ラップのデータが削除されます。

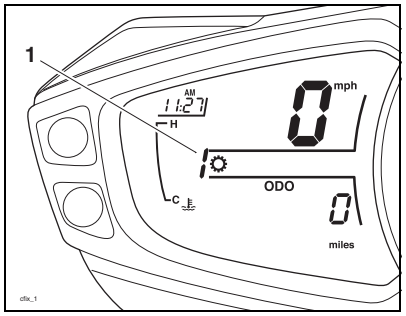
ラップタイマーをリセットせずにデータ検索モードを終了するには、2秒間ボタンAを押すと表示スクリーンにLapが表示されます。所期の画面が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。

ギアポジションディスプレイ



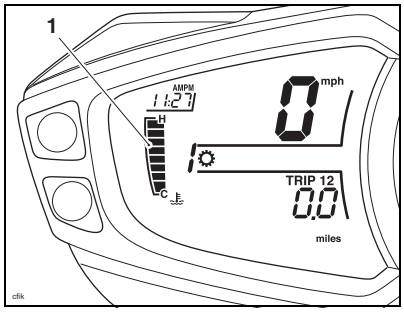
1. **ギアポジションディスプレイ（図はニュートラルの位置）**
2. **ギアポジションマーク**

ギアポジションディスプレイは、どのギア（1 ～ 6）に入れているかを表示します。トランスミッションがニュートラル（ギアが選択されていない）の時、ディスプレイには「n」と表示されます。



1. **ギアポジションディスプレイ（図はファーストギア）**

クーラント温度計



1. **クーラント温度計**

クーラント温度計はエンジンクーラントの温度を表示します。

イグニッションスイッチを入れると、表示部の 8 本のバーすべてが表示されます。冷えた状態でエンジンをスタートすると、バーが 1 本だけ表示されます。温度が上がるにつれて、ディスプレイに表示されるバーの数も増えます。エンジンが暖まっている状態で始動すると、エンジンの温度に応じた数のバーが表示されます。

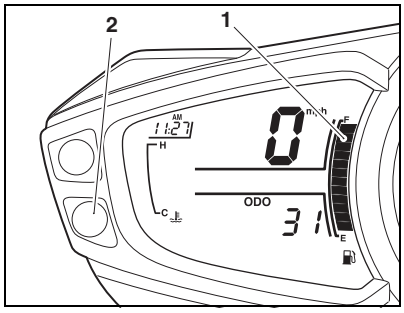
通常の温度の場合、バーが 3 ～ 5 本表示されます。

クーラント温度が高くなり過ぎると、ディスプレイに表示されるバーの数が8本となり、点滅します。タコメーターのクーラント過熱警告灯も点灯します。

⚠ 注意

エンジンに多大な損傷をもたらす恐れがあるので、過熱警告が表示された場合はエンジンを止めてください。

燃料計



1. 燃料計
2. ボタンB

燃料計には、タンク内の燃料レベルが表示されます。

イグニッションがオンの状態のとき、燃料レベルが画面上のバーの本数で示されます。

燃料タンクが満タンの場合、ディスプレイに 12 本のバーが表示され、空の場合は全く表示されません。それ以外の場合は、燃料レベルに応じた本数のバーが表示されます。

バーが 2 本になると、燃料の低下を知らせる警告ランプが点灯します。これは、タンクに約3.5リッターの燃料しか残っていないことを示し、速やかに給油するように促すものです。トリップメーターの画面が表示されている場合は、ボタンBを繰り返し押して残燃料ゼロまでの可航距離を表示することができます。

給油後、燃料計と残燃料ゼロまでの可航距離の情報は、モーターサイクルを走行させないと更新されません。走行方法にもよりますが、情報が更新されるまで最大 5 分かかります。

Return 表示

画面に rEturn と表示されているときにセットボタンを押すと、トリップ 1 の表示に戻ります。

警告灯

方向指示器

インジケータースイッチを左右いずれかに回すと、ターンインジケーターランプがターンインジケーターと同じテンポで点滅します。

ハイビーム

ハイビーム警告ランプは、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディップスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

燃料低下

タンク内の残存燃料が約3.5 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

ニュートラル

ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチがONの状態でギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

油圧低下警告灯

エンジンがかかっている状態で、エンジン油圧が危険レベルに低下した場合、タコメーターの油圧低下警告灯が点灯します。

⚠ 注意

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターの油圧低下警灯が点灯します。

クーラント過熱警告灯

エンジンがかかっている状態でエンジンクーラントの温度が危険レベルになった場合、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

⚠ 注意

クーラント過熱警告灯が点灯したら、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

クーラント過熱警告灯が点灯している状態でエンジンが回転していると、エンジンに多大な損傷をもたらします。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

エンジン管理誤作動インジケータランプ

エンジン管理システムの誤作動表示灯は、イグニションスイッチをオンにした時に（それが機能していることを示すために）点灯しますが、エンジンがかかっている時に点灯することはありません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないほど深刻な故障でなければ、走行を続けられるようにエンジン管理システムがスイッチを「リンプ・ホーム」モードに切り替えます。

⚠ 警告

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにした時に誤作動表示灯が点滅（点いたり、消えたりをくり返す）する場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、そのような状態を正常化してもらってください。このような状態の時、エンジンは始動しません。**

アラーム / イモビライザー作動状態表示灯

この Triumph モデルには、エンジンイモビライザーが装着されています。イモビライザーは、イグニッションスイッチをオフポジションにすると作動します。モーターサイクルにTriumph純正アクセサリーのアラームが装着されている場合は、イモビライザーは通常通り動作しますが、アラーム / イモビライザー作動状態表示灯は以下のように動作します。

アラーム付きの場合

アラーム/イモビライザー作動状態表示灯は、Triumph 純正アクセサリーアラームの説明書に記載されている条件が満たされた場合のみ点灯します。

アラームなしの場合

イグニッションスイッチをオフにすると、アラーム/イモビライザー作動状態表示灯が 24 時間点滅を繰り返し、エンジンイモビライザーがオンであることを示します。イグニッションスイッチをオンにすると、イモビライザーが解除され、アラーム / イモビライザー作動状態表示灯が消灯します。

アラーム/イモビライザー作動状態表示灯が点灯したままの場合は、イモビライザーの誤作動であり、点検が必要です。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。

ABS （アンチロックブレーキシステム）警告灯

注記：

・ABS システムに故障があり ABS 警告灯が点灯している場合は、ABS は機能しません。

イグニッションスイッチをオンポジションにしたときに、ABS 警告灯が点滅を開始するのは正常な状態です。エンジン始動後も ABS 警告灯の点滅は続き、モーターサイクルの速度が10 km/hを超えると消灯します。

ABS システムを解除しない限り（*32*ページを参照）、あるいは ABS システムに故障がない限り、エンジンを再始動させるまで ABS警告灯が再度点灯することはありません。

それ以外の場合で、走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS に誤作動が生じており、点検が必要です。

⚠ 警告

ABS が機能していない場合、ブレーキシステムは非ABS型ブレーキシステムとして、作動します。ABS 警告灯が点灯したままの状態で、必要以上に走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。そのような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

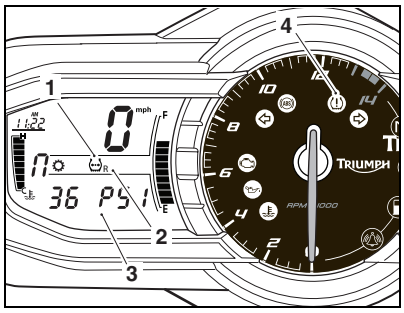
69 ページの「ブレーキ操作」も参照してください。

タイヤ空気圧警告灯

タイヤ空気圧警告灯は、タイヤ空気圧モニタリングシステムと連動して作動します（*46*ページを参照）。

フロントタイヤまたはリアタイヤの空気圧が推奨値より低い場合のみ、警告灯が点灯します。タイヤ空気圧が推奨値より高い場合は点灯しません。

タイヤ空気圧警告灯が点灯すると、どちらのタイヤの空気圧が低いかを示す TPMS マークと空気圧の値が自動的に画面に表示されます。



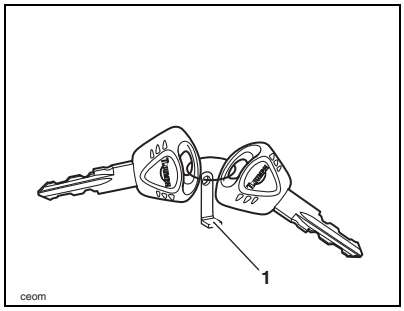
1. **TPMS マーク**
2. **リアタイヤ**
3. **タイヤ空気圧**
4. **タイヤ空気圧警告灯**

タイヤ空気圧警告灯が点灯するときのタイヤ空気圧は、20° C での空気圧に補正された値ですが、画面に表示される空気圧は補正された値ではありません(*46*を参照)。画面に表示された空気圧が標準空気圧か、またはそれに近い値であったとしても、警告灯が点灯しているということはタイヤ空気圧が低いということであり、パンクしている可能性が高いと考えられます。

⚠ 警告

タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、モーターサイクルを停止してください。タイヤを点検し、冷間時のタイヤ空気圧が推奨値であることを確認するまでは、モーターサイクルを運転しないでください。

イグニッションキー



1. キーナンバータグ

イグニッションキーは、ステアリングロック/イグニッションスイッチを作動させるだけでなく、シートロックとフューエルタンクキャップを操作する際にも必要です。

モーターサイクルが工場から出荷される際には、イグニッションキー2 本とキーナンバーを記載した小さなタグ1個が支給されます。キーナンバーを書き留めたら、スペアキーとキーナンバータグをモーターサイクルから離れた安全な場所に保管してください。

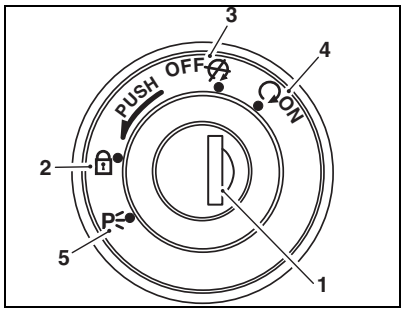
イグニッションキーには、エンジンイモビライザーをオフにするためのトランスポンダーが内蔵されています。イモビライザーを正常に機能させるため、イグニッションスイッチの近くでは常にイグニッションキーを1本だけ持つようにしてください。イグニッションスイッチの近くでイグニッションキーを 2 本持つと、トランスポンダーとエンジンイモビライザーとの間の許可信号が妨害される場合があります。その場合、どちらかのイグニッションキーを遠ざけないと、エンジンイモビライザーが解除されません。

キーを交換する場合は、必ず正規 Triumph ディーラーでお求めください。正規 Triumph ディーラーに、交換したキーをモーターサイクルのイモビライザーに連動させてもらわなければなりません。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

イグニションスイッチ / ステアリングロック



1. イグニションスイッチ / ステアリングロック
2. LOCK ポジション
3. OFF ポジション
4. ON ポジション
5. PARK ポジション

エンジンイモビライザー

イグニッションバレルハウジングは、エンジンイモビライザーのアンテナとして機能します。

イグニッションスイッチをオフポジションにしてイグニッションキーを抜くと、エンジンイモビライザーがオンになります (*48* ページを参照)。イグニッションキーをイグニッションスイッチに差し込んでオンポジションに回すと、エンジンイモビライザーがオフになります。

イグニッションスイッチポジション

これはポジションが４つある、キー作動型スイッチです。キーは OFF、LOCK、または P (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

ロックするには:キーを OFF ポジションまで回し、押してからキーを完全に放します。それから LOCK ポジションまで回します。

駐車 : LOCK ポジションから P ポジションにキーを回してください。ステアリングはロックされたままです。

注記 :

- **ステアリングロックを長い間 P ポジションにセットしたままにしないでください。バッテリが上がる原因となります。**

⚠ 警告

モーターバイクから離れる場合、万一のために必ずイグニションスイッチを OFF ポジションにしてキーを抜き取ってください。

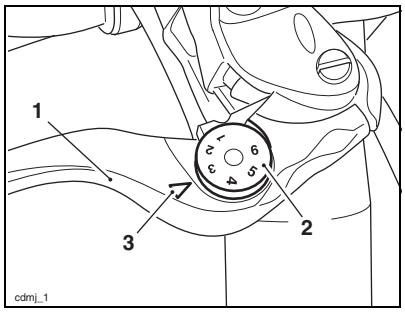
モーターバイクを無免許で乗り回した場合、ライダー自身や他の道路使用者、歩行者の負傷の原因となり、バイクの損傷にもつながりかねません。

⚠ 警告

キーが LOCK や P ポジションにあると、ステアリングがロックされます。

バイクが走行中は、絶対に、キーを回して LOCK または P ポジションに入れたりしないでください。ステアリングがロックされるからです。ステアリングがロックされると、バイクは制御不能に陥って事故を招くことがあります。

ブレーキレバーアジャスター - Street Triple、Street Triple R、Daytona 675



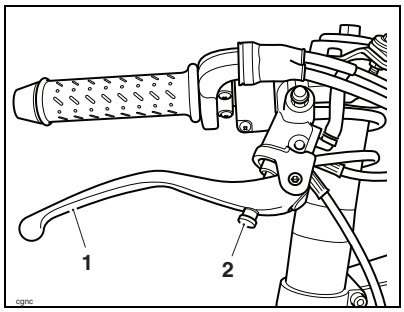
1. **レバー (Street Triple R を図示)**
2. **アジャスターホイール**
3. **三角マーク**

フロントブレーキレバーにはアジャスターが付いています。このアジャスターを使えば、ハンドルからレバーまでの間隔をライダーの手の大きさに合わせて調節することができます。Street Triple R の場合は 6 段階、Street Triple の場合は 4 段階の調節が可能です。

ハンドルからブレーキレバーまでの間隔を広くするときは、レバーを前方に押し、アジャスターホイールをライディングポジションから見て反時計方向に回し、Street Triple Rの場合はレバーに付いている三角マークに、Street Tripleの場合はレバーホルダーに付いている三角マークに希望する数字を合わせます。間隔を狭くするときは、アジャスターホイールを時計方向に回します。

ブレーキレバーを握っていない状態のとき、ハンドルまでの間隔は、Street Triple Rでは6番に合わせたとき、Street Tripleでは4番に合わせたときに最も狭くなります。1番に合わせるとハンドルまでの間隔が最大になります。

ブレーキレバーアジャスター - Daytona 675 R



1. **ブレーキレバー**
2. **調整ネジ**

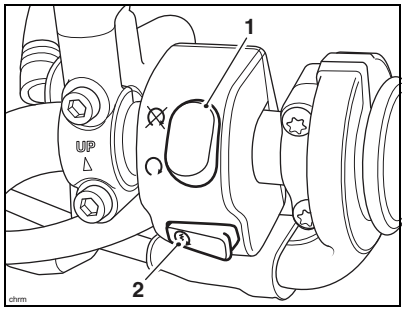
ブレーキレバーとハンドルまでの間隔を広げるときは、レバーを前方に押し、調整ネジをライディングポジションから見て反時計回りに回します。間隔を狭くするときは、調整ネジを時計回りに回します。

⚠ 警告

どのモデルであろうと、モーターサイクルの走行中にレバーを調整しようとしてはいけません。モーターサイクルが制御不能となり事故を招く恐れがあります。

レバーを調整したら、交通のない安全な場所でモーターサイクルを操縦し、新しいレバーの設定に馴染んでください。お持ちのモーターサイクルを他人に貸してはいけません。借り手が、あなたの手に馴染んだレバー設定を変えた場合、モーターサイクルが制御不能となり事故を招く恐れがあります。

右ハンドルスイッチ



1. **エンジンストップスイッチ**
2. **スターターボタン**

エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチをRUNポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- **エンジンストップスイッチはエンジンを停止させますが、電装回路をすべてオフにするわけではないので、バッテリーが上がってエンジンの再始動を困難にする恐れがあります。通常は、エンジンンを止めるのに、イグニッションスイッチだけを使うべきです。**

⚠ 注意

電装コンポーネントを損ない、バッテリーが放電する恐れがあるので、エンジンが回転していない時は、イグニッションスイッチを ON ポジションのままにしないでください。

スターターボタン

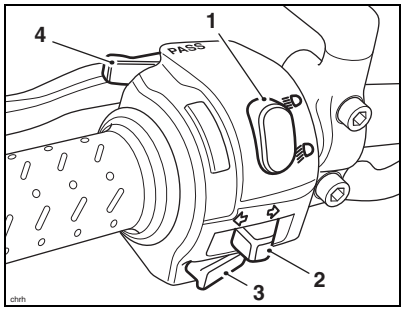
スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

注記：

- **クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。**

エンジンがかかっていると、スターターボタンがラップタイマー「トリガー」ボタンとして機能します。スターターボタンを瞬間的に押すと、ラップタイマーが次のラップを記録し始めます。

左ハンドルスイッチ



1. **ヘッドライトディップスイッチ**
2. **方向指示器スイッチ**
3. **ホーンボタン**
4. **パスボタン**

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを後方に押します。ハイビームに入れると、ハイビーム表示灯が点きます。

注記：

- **このモデルには、ライト用のオン / オフスイッチは付いていません。ヘッドライト、テールライト、ライセンスプレートライトはすべて、イグニッションを ON ポジションにすると自動的に作動します。**

方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチを左または右に押してから放すと、対応している方向指示器が点滅します。指示器の作動を停止させるには、スイッチを押してから放します。

ホーンボタン

イグニッションスイッチが ON になっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

パスボタン

パスボタンを押すと、ヘッドライトメインビームのスイッチが入ります。パスボタンを押している間は、ヘッドライトのスイッチは入ったままで、ボタンを放すと途端に消えます。

⚠ 注意

ヘッドライトのパスボタンは、押し続けたままにしないでください。パスボタンを長時間押したままにしておくと、ヒューズが切れてヘッドライトが点灯しなくなることがあります。

燃料の条件 / 燃料補給

燃料の等級

お買い上げの Triumph のエンジンは、無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使用すればその性能が十分に発揮されます。

- Street Triple と Street Triple R の場合は、オクタン価 91 RON 以上の無鉛燃料を使用できます。
- Daytona 675 と 675 R モデルには、オクタン価 95 RON 以上の無鉛燃料を使用してください。

⚠ 注意

排気装置には、排ガスレベルを低減するのに役立つ触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

⚠ 注意

たいていの国、州、地域などで、有鉛ガソリンの使用が法的に禁止されています。有鉛ガソリンを使うと、触媒作用コンバーターに損傷を与えることがあります。

⚠ 警告

燃料補給関連の危険を減らすため、以下の安全確保のための指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチを OFF にしてください。

禁煙厳守。

携帯電話は使用しないでください。

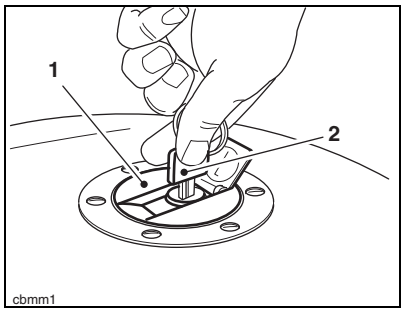
給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

燃料がフィラーネックに来るほどの満タンに、決してしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

フューエルタンクキャップ



1. フューエルタンクキャップ
2. キー

フューエルタンクキャップを開けるには、ロック自体を覆っているフラップを持ち上げます。キーをロックに差し込んで時計回りに回します。

キャップを閉じてロックするには、キーを差し込んだまま、ロックがカチッと音をたてて所定の場所におさまるまでキャップを押し下げます。キーを引き抜いてキーカバーを閉じます。

⚠ 注意

キーを差し込まずにキャップを閉じると、キャップ、タンク、ロック装置に損傷を与えることがあります。

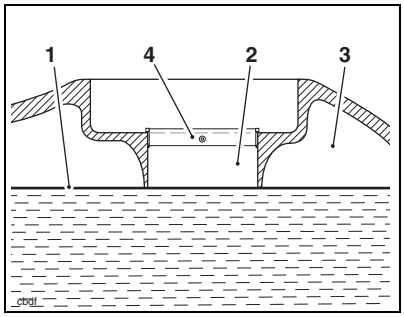
燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

⚠ 注意

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフィラーネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。



1. 燃料レベルの上限
2. フューエルフィラーネック
3. 空隙
4. 燃料ノズルリストリクター

⚠ 警告

タンクをいっぱいにすると、燃料の流出を招く恐れがあります。

燃料をこぼした場合は、きれいに拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他のモーターバイクの部分に燃料をこぼさないよう注意してください。

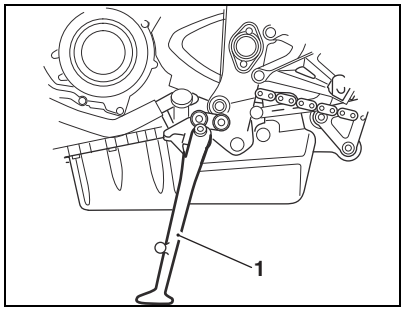
ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤ付近あるいはタイヤ上に燃料をこぼすと、タイヤの路面グリップ能力が落ちます。その結果、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を生じさせることがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

スタンド

サイドスタンド



1. サイドスタンド（Street Triple を図示）

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。

⚠ 警告

本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

注記：

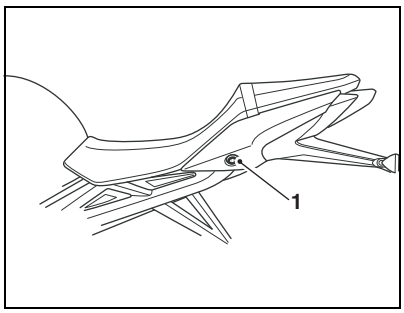
- **サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。**

サイドスタンドを使用した場合、モーターバイクにまたがってスタートする前に、必ずサイドスタンドが格納されていることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

シートロック

ライダーシート Street Triple と Street Triple R



1. シートロック

シートロックは、車体後部の左側に、フットレスト取り付けレールと並んで取り付けられています。シートを取り外すには、イグニッションキーをシートロックに差し込み、シートの後部を押し下げながらキーを反時計方向に回します。そうするとシートがロックから外れるため、シートを後方にずらしてモーターサイクルから取り外すことができます。

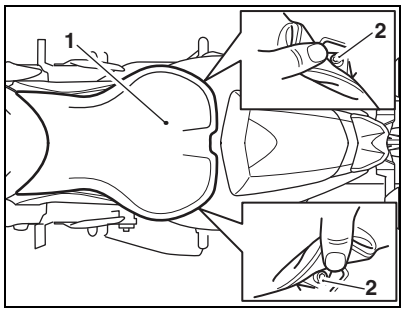
シートを再び取り付けるときは、シートのタングを燃料タンクの下側にはめ、シート後部を押し下げてシートロックにはめ込みます。

シートがシートロックにしっかりはまると、カチッと音がします。

⚠ 警告

走行中にシートが外れないようにするため、取り付け後には必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートが適切に固定されていない場合は、ロックから外れてしまいます。シートがしっかり固定されていなかったり外れたりすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

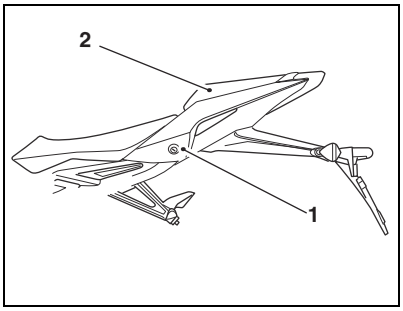
ライダーシート Daytona 675 と Daytona 675 R



1. ライダーシート
2. 固定具

ライダーシートの取り外し:シートパッドの下にある固定具を取り外します。ライダーシートを後方にずらして、モーターサイクルから取り外します。シートを再び取り付けるときは、シートの突起部を燃料タンクの下側にはめ、固定具を取り付けて **9 Nm** で締め付けます。

リアシート Daytona 675 と Daytona 675 R



1. シートロック
2. リアシート

シートロックは、車体後部の左側に、フットレスト取り付けレールと並んで取り付けられています。リアシートを取り外すときは、イグニッションキーをシートロックに差し込み、シートの後部を押し下げながらキーを反時計方向に回します。そうするとリアシートがロックから外れるため、シートを前方にずらしてモーターサイクルから取り外すことができます。

リアシートを再び取り付けるときは、シートの突起部をブラケットの下側にはめ、シート後部を押し下げてシートロックにはめ込みます。シートがシートロックにしっかりはまると、カチッと音がします。

シートケア

シートやシートカバーの損傷を防ぐには、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つける可能性のある場所に立てかけたりしないように気をつけることが必要です。

⚠ 注意

シートやシートカバーの損傷を防ぐには、シートを落とさないよう気をつけてください。シートをモーターサイクルに立てかけたり、シートやシートカバーを傷つける可能性のある場所に立てかけたりしてはいけません。シートは、シートカバーを上に向けた状態にして、柔らかい布でできた清潔な平面に置いてください。

シートカバーを傷つけたり、汚したりする可能性のあるものを、シートの上に置いてはいけません。

⚠ 警告

走行中にシートが外れないようにするため、取り付け後には必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートがしっかりはまっていないと、ロックから外れてしまいます。シートがしっかり固定されていなかったり外れたりすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

Triumph アクセサリー D ロック保管場所

Street Triple

Triumph のアクセサリーである D ロック（Triumph 正規販売店で購入可能）を収納するためのスペースが、リアシートの下にあります。

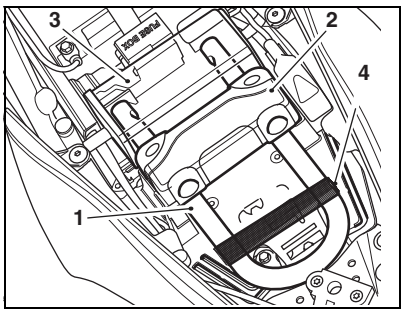
U ロックの固定方法：

U ロックの開口端がモータサイクル前方に向くように、U 字部をリアマッドガードの支持部にセットします。

下図のように、面ファスナーで U 字部を固定します。

ロック部をリアマッドガードのトレーにセットします。

リアシートを取り付けてロック部を固定します。



1. U 字部
2. ロック部
3. カーボンキャニスター（装着されている場合）
4. 面ファスナー

ツールキット

Street Triple と Street Triple R

ツールキットはリアシートの下側、バッテリーボックスの後方に保管されています。

ツールキットに入っている工具は以下のとおりです。

- ドライバー
- 4 mm の六角棒スパナ
- 5 mm の六角棒スパナ

Daytona 675 と Daytona 675 R

ツールキットはリアシートの下側、バッテリーボックスの後方に保管されています。

ツールキットに入っている工具は以下のとおりです。

- ドライバー
- 5 mm の六角棒スパナ。

慣らし運転

「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こなう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km：

- フルスロットルにしないでください。
- 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- 最高速度の４分の３を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで：

- エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方：

- エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦闘」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

安全運転

日常の安全点検

毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。

⚠ 警告

毎日、走行する前にこれらの点検を行なうことを怠ると、モーターバイクに多大な損傷を与えるか、重大な人身事故を招く結果になりかねません。

点検：

燃料：タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（*56*ページ）。

エンジンオイル：オイルゲージ上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充。エンジンやオイルクーラーからの漏れがないか（*88*ページ）。

ドライブチェーン：適切な調整（*102*ページ）。

タイヤ / ホイール：空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗状態、タイヤ / ホイールの損傷、パンクなど（*124*ページ）。

ナット、ボルト、固定部品： ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり / 傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

ステアリングの動き： スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルにひっかかりがないか（*112*ページ）。

ブレーキ： ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー / ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検（*106*ページ）。

ブレーキパッド： フロントパッドのライニングが 1.5 mm 以上、リアパッドのライニングがキャリアプレートも含めて 4.5 mm 以上残っていること（*106*ページ）。

ブレーキフルードレベル： ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか（*106* ページ）。

フロントフォーク： 動きがスムーズか。フォークシールからの漏れはないか（*114* ページ）。

スロットル： スロットルグリップの遊びが 2 – 3 mm あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか（*98*ページ）。

クラッチ：スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か（*101*ページ）。

クーラント： クーラントに漏れはないか。膨張タンク内のクーラントレベルを点検（エンジンが冷えている時に）（*92*ページ）。

電装品： すべてのライトとホーンが適切に機能するか（*47*ページ）。

エンジン停止：ストップスイッチでエンジンが停止するか（*66*ページ）。

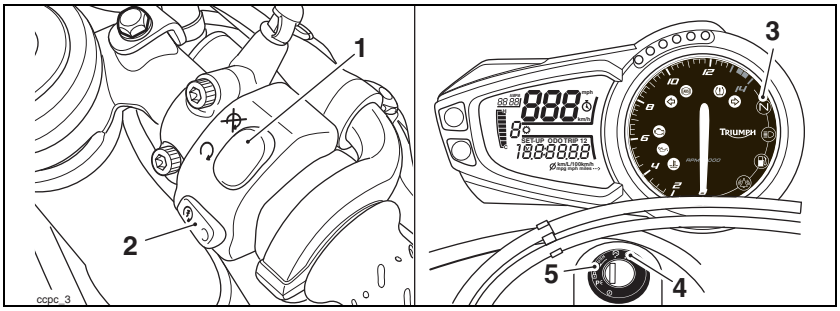
スタンド： バネの張力で一番上まで戻ること。リターンスプリングが弱くなっていたり、傷んだりしていないこと（*58* ページ）。

モーターバイクの運転

目次

エンジンの停止 66
エンジンの始動 66
発車 67
ギアチェンジ 68
Daytona 675 R クイックシフター（装着されている場合） 68
ブレーキ操作 69
ABS （アンチロックブレーキシステム）- ABS モデルの場合 71
駐車 73
高速走行の際の注意 74
一般事項 75
ステアリング 75
荷物 75
ブレーキ 75
タイヤ 75
燃料 76
エンジンオイル 76
クーラント 76
電装品 76
その他 76

エンジンの停止



1. **エンジンストップスイッチ**
2. **スターターボタン**
3. **ニュートラル表示灯**
4. **ON ポジション**
5. **イグニッションスイッチ**

スロットルを完全に戻します。

ニュートラルを選びます。

したがって、イグニッションスイッチをオフにします。

ローギヤに入れます。

固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。

ステアリングをロックします。

⚠ 注意

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態でイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

エンジンの始動

エンジンストップスイッチがRUNポジションにあることを確認してください。

確実にギアをニュートラルに入れてください。

イグニッションスイッチをオンにします。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにすると、タコメーターの針がゼロから最高にサッと上がってから再びゼロに戻ります。計器警告灯が点灯して直ぐに消えます（通常、エンジンが始動するまで点灯している計器を除きます－「警告灯」の *47*ページを参照）。エンジンを始動させるのに、針がゼロに戻るまで待つ必要はありません。**

クラッチレバーを切ります。

スロットルを全閉にした状態で、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。

⚠ 警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

⚠ 注意

スターターを5秒以上継続して作動させないでください。スターターモーターが過熱してバッテリーが上がってしまうことがあるからです。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで15秒の間隔を置いてください。

エンジンを長い間アイドル状態にしておかないでください。過熱に至る恐れがあり、エンジン損傷の原因となることがあるからです。

⚠ 注意

油圧低下警告灯は、エンジンが動き始めたらまもなく消えるはずです。

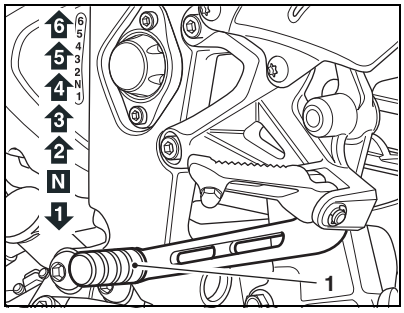
エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

- 本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下りていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。
- エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。

発車

クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開き、クラッチレバーをゆっくりつなげます。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。

ギアチェンジ



1. **ギアチェンジペダル (Street Triple を図示)**

6 5 4 3 2 N 1

クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

⚠ 警告

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

注記：

- **ギアチェンジの仕組みは 「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダルを 1 回動かす毎に、ギアは上か下の方向に 1 段ずつ切り換わる仕組みです。**

⚠ 警告

高速走行中に低速ギアに切り換えないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。エンジン速度を確実に落として、低速ギアへの切り換えを行なう必要があります。

Daytona 675 R クイックシフター (装着されている場合)

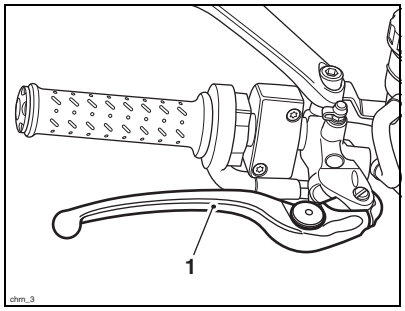
Daytona 675 R には、レースで使用されているクイックシフターが装着されているため、スロットルを絞ったりクラッチを操作したりしなくても、瞬間的にエンジンの点火をカットしてギアを入れることができます。

クイックシフターは、シフトアップ時のみ作動します。また、エンジン回転速度が 2500 rpm以上でなければ作動しません。停止および発進を含めて、その他のギアチェンジの場合には、クラッチを使用しなければなりません。

クラッチを操作した場合またはギアが6速に入っている時に誤ってシフトアップしようとした場合には、クイックシフターは作動しません。

ギアチェンジをスムースに行うには、ペダルを「しっかり」と踏んでください。

ブレーキ操作



1. フロントブレーキレバー
   (Street Triple を図示)

⚠ 警告

ブレーキをかける時は、以下の事を守ってください：

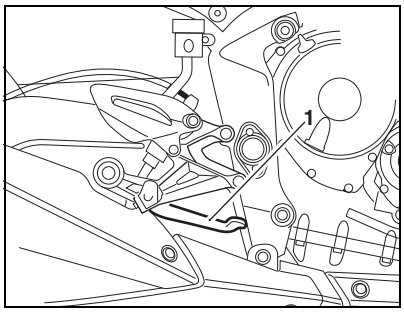
モーターバイクの速度を落とすためにクラッチを噛み合わせたままで、スロットルを完全に閉じてください。

モーターバイクが完全に停止した時、ギアはファーストに入っているよう、ギアを一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同時にかけてください。普通は、フロントブレーキはリアブレーキより少し強めにかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを完全に切ってください。エンストを起こさないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでください。モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こしかねません。



1. リアブレーキペダル
   (Street Triple を図示)

⚠ 警告

急ブレーキをかける時は、ギアのシフトダウンは無視し、横滑りすることなく前後のブレーキを可能な限り強くかけることに集中してください。ライダーは、車の通らない所で急ブレーキのかけ方を練習しなくてはなりません。

Triumph は、ライダー全員に教習を受けることをお勧めします。教習では安全なブレーキ操作についてのアドバイスが受けられます。間違ったブレーキテクニックは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

安全を確保するため、ブレーキ操作、加速、コーナリングには充分注意を払ってください。不注意な行為はコントロールを失わせ、事故のもととなる可能性があります。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけると前後いずれかの車輪をロックさせる恐れがあり、バイクの制御性が低下して事故のもととなりかねません。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくなめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。

⚠ 警告

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯するため、他の道路使用者は表示を誤解する恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

ABS （アンチロックブレーキシステム）- ABS モデルの場合

⚠ 警告

ABS は車輪のロックを防止します。したがって、緊急時にも、滑りやすり路面を走行しているときにも、ブレーキシステムの効力が最大限に発揮されます。ABS によって特定の状況下で制動距離が短くなることがありますが、ABS は安全な走行を保証する装置ではありません。

必ず法定制限速度の範囲内で走行してください。

決して不注意な運転をしてはなりません。天候や路面状況、交通状況に応じて必ず減速してください。

コーナリング時は十分に注意してください。コーナーに入ってからブレーキをかけると、ABS がモーターサイクルの重量と推進力に対応できません。そうすると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

状況によっては、ABS を装着したモーターサイクルの方が、同等の機種の ABS なしのモーターサイクルよりも、制動距離が長くなることがあります。

⚠ 警告

過度のブレーキングを行っても、タイヤのグリップ力が高ければ、十分に減速されるまでは前輪がロックしそうになることはありません。また、ABS は後輪の浮き上がりを防止するものではないため、過度のブレーキング時には後輪が浮く可能性があります。そういった状況では、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがありますので、過度なブレーキングは避けてください。

ABS 警告灯

イグニッションスイッチをオンポジションにしたときに、ABS 警告灯が点滅を開始するのは正常な状態です(*49*ページを参照)。ABS 警告灯が点灯したままの場合は、ABS 機能が以下の理由で無効になっています。

- ライダーが ABS を解除したため(*32*を参照)
- ABS　が故障しており点検が必要なため。

走行中に ABS 警告灯が点灯した場合は ABS の故障であり、点検が必要です。

注記：

- **通常、ブレーキレバーやブレーキペダルの感触が硬くなったり、振動が伝わったりすることで、ABS が作動したことがライダーに分かります。ABS はブレーキシステムに一体化されたシステムではなく、フロントブレーキとリアブレーキの両方を同時に制御するものではないため、ブレーキレバーかブレーキペダル、または両方から体に振動が伝わることがあります。**
- **突然上り坂や下り坂になると、ABS が作動することがあります。**

⚠ 警告

ABS が機能していない場合でも、ブレーキシステムは非ABS型ブレーキシステムとして、作動し続けます。ABS 警告灯が点灯したままの状態で、必要以上に走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。そのような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

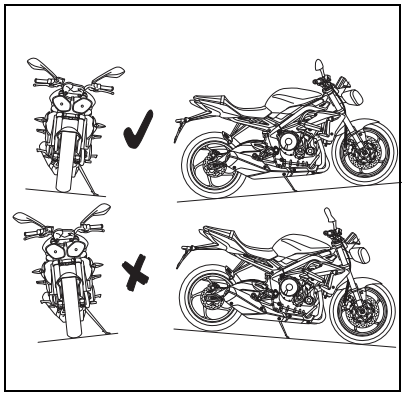
モーターサイクルをスタンドで支えた状態で、後輪を 30 秒 以上高速で回転させると ABS 警告灯が点灯します。これは故障ではありません。

イグニッションスイッチをオフにして、モーターサイクルを再始動すると、モーターサイクルが時速30 km/hを超えるまで、ABS 警告灯が点灯したままになります。

⚠ 警告

ABS コンピューターは、フロントホイールとリアホイールの相対速度を比較することによって作動します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイール速度が変化し、ABS が作動しなくなる恐れがあります。そのため通常なら ABS が機能するはずの状況下でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

駐車



ニュートラルにしたら、OFF ポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターバイクの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。

斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。バイクが動くのを妨げるためにギアをファーストに入れます。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6°以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

注記：

- **夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチを P（PARK）にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。**

スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。バッテリーが上がることがあるからです。

⚠ 警告

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所で駐車すると、モーターバイクが倒れて損傷したりケガをしたりします。

⚠ 警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

⚠ 警告

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもたちがモータバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。

熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

高速走行の際の注意

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

⚠ 警告

以下に列挙された事柄は極めて重要なので、絶対に軽視してはなりません。普通の速度で走行中は気づきもしないような問題が、高速走行時には大問題になりかねません。

一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整備されてきていることを確認してください。

ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎる部分もなく、スムーズに回転するか調べてください。コントロールケーブルがステアリングの邪魔にならないことを確認してください。

荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じてロックし、モーターバイクにしっかり固定してください。

ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能しているか調べてください。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全走行には、タイヤのコンディションが良好であることが極めて大切です。タイヤの全体的な状態を調べ、適正空気圧になるまで空気を入れて（タイヤが冷えた状態で）、ホイールバランスを点検してください。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検とタイヤの安全性確保に関しては、整備の章と仕様の章の指示に従ってください。

燃料

高速走行すると燃料の消費量が増大するので、燃料は十分用意してください。

⚠ 注意

排気装置には、排ガスレベルを低減するのに役立つ触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

エンジンオイル

エンジンオイルのレベルが適正であることを確かめます。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

クーラント

クーラントの液面が膨張タンクの上限ラインにきているか調べてください。（液面レベルは、必ずエンジンが冷えている時に点検します。）

電装品

ヘッドライト、テール / ブレーキライト、方向指示灯、ホーン等、すべてが適切に作動することを確かめてください。

その他

締め具はすべて堅くしまっているか目で点検します。

アクセサリー、積載条件、同乗者

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にしてください。

⚠ 警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量の 195 kg を絶対に超えないようにしてください。

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、装着されたアクセサリーおよび積載荷物の重量を合計したものです。

⚠ 警告

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。また、自分が、照明具の可視度、ロードクリアランス、バンキング性能（すなわち傾斜角度）、コントロール走行、ホイールトラベル、フロントフォークの動き、あらゆる方向の視界、モーターバイク操縦に関わる他の要素に悪影響を与えていないことを確認してください。

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

アクセサリー、積載条件、同乗者

⚠ 警告

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性があると伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください。

- 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

⚠ 警告

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

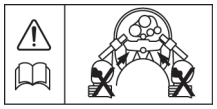
同乗者が乗っていると、モーターバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかなければなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてはなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモーターバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

どんな物であろうと、フレームと燃料タンクの間に保管しようとしてはなりません。これはステアリングのじゃまになる可能性があり、制御性を損なって事故につながることがあります。

ハンドルあるいはフロントフォークに重さが加わると、ステアリングアセンブリーのかさが増すため、ステアリングの制御性が損なわれて事故を引き起こす結果になりかねません。



⚠ 警告

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

⚠ 警告

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。

許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は 130 km/h より低減することを忘れないでください。

⚠ 警告

リアシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合は、荷物の重量は 5 kg 未満とし、モーターサイクルの制御性を損わないようなものでなければいけません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなければなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

たとえ小さな荷物がリアシートに適切に積載されている場合であっても、モーターサイクルの最高速度は 130 km/h までとする必要があります。

このページは意図的に空白にしてあります

整備と調整

目次

定期整備 84
エンジンオイル 88
オイルレベルの点検 88
オイルとオイルフィルターの交換 90
使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分 91
オイルの仕様と等級 91
冷却装置 92
腐食防止剤 92
クーラントレベルの点検 93
クーラントレベルの調整 94
クーラントの交換 98
ラジエターとホース 98
スロットルコントロール 98
点検 99
調整 100
クラッチ 101
点検 101
調整 101
ドライブチェーン 102
チェーンの注油 102
チェーンのたるみ点検 103
チェーンのたるみ調整 103
Street Triple と Street Triple R. 103
Daytona 675 と Daytona 675 R. 103
チェーンとスプロケットの磨耗点検 104
ブレーキ 106
ブレーキの磨耗点検 106
フロントブレーキ 106
リアブレーキ 106
新ブレーキパッドおよび新ブレーキディスクの慣らし運転 107
ブレーキパッドの磨耗補整 107

整備と調整

ディスクブレーキフルード 108
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整 108
リアブレーキフルードのレベル点検と調整 110
ブレーキライトスイッチ 111
ステアリング / ホイールベアリング 112
ステアリングの点検 112
ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検 112
ホイールベアリングの点検 113
フロントサスペンション 114
フロントフォークの点検 114
フロントサスペンションの調整 - Street Triple 114
フロントサスペンション設定一覧表ー Daytona 675 のみ 115
フロントサスペンション設定一覧表ー Daytona 675 R のみ 115
フロントサスペンション設定一覧表 - Street Triple R 115
フロントサスペンションの調整 116
スプリングプリロード - Daytona 675 と Street Triple R 116
伸側減衰の調整 - Daytona 675 と Street Triple R 117
Daytona 675 R. 117
圧側減衰の調整 - Daytona 675 と Street Triple R 118
リアサスペンション 119
リアサスペンションの点検 119
リアサスペンション設定一覧表ー Daytona 675 のみ 120
リアサスペンション設定一覧表 - Daytona 675 R のみ 120
リアサスペンション設定一覧表 - Street Triple R のみ 120
スプリングプリロードの調整 - Street Triple 121
リアサスペンションの調整 - Daytona 675、675 R、Street Triple R 122
伸側減衰の調整 - Street Triple R 122
圧側減衰の調整 - Street Triple R 122
低速ストローク用と高速ストローク用の圧側減衰 - Daytona 675 123
タイヤ 124
タイヤ空気圧 125
タイヤ空気圧モニタリングシステム（装着されている場合）. 125
タイヤの磨耗 125
トレッドの深さ推奨最小値 125
タイヤの交換 126

バッテリー 129
バッテリーの取り外し 129
バッテリーの処分 130
バッテリーの整備 130
バッテリーの放電 130
モーターサイクル保管時と使用頻度の低いモーターサイクルのバッテリー放電 131
バッテリーの充電 131
バッテリーの取り付け 132
ヒューズボックス 132
ヒューズの識別 132
Daytona 675 と Daytona 675 R. 133
Street Triple と Street Triple R. 134
ライト 136
ヘッドライト 136
ヘッドライトの調整 - Daytona 675 と Daytona 675 R 136
ヘッドライトの調整 - Street Triple と Street Triple R 137
ヘッドライトバルブの交換 - Daytona 675 と Daytona 675 R 138
ヘッドライトバルブの交換 - Street Triple と Street Triple R 141
方向指示灯 142
バルブの交換 142
ライセンスプレートライト 143
バルブの交換 143
リアライト 143
リアライトの交換 143
洗車 143
洗車の準備 144
注意すべき部分 144
洗車後 145
シートケア 145
ウィンドスクリーンの洗浄 145
塗装されていないアルミニウム部品 146
排気装置の清掃 147
保護 147

定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

⚠ 警告

整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動のモーターバイクは、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph ディーラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規 Triumph ディーラーで実施してください。

正規販売店が実施する定期整備には、モーターサイクルの年間走行距離に応じて、12ヶ月定期整備、一定の走行距離ごとの整備、またはその両方を組み合わせた整備の3種類があります。

1. モーターサイクルの年間走行距離が10,000 km未満の場合は、12ヶ月ごとに整備を受けなければなりません。それに加え、一定の走行距離ごとに整備する項目についても、その走行距離に達したときに点検整備を受ける必要があります。
2. モーターサイクルの年間走行距離が約10,000 kmの場合は、12ヶ月定期整備と一定の走行距離ごとの整備の両方を同時に受けなければなりません。
3. モーターサイクルの年間走行距離が10,000 kmを超える場合は、モーターサイクルが一定の走行距離に達したときに、その距離に応じて定められている整備を受けなければなりません。それに加え、12ヶ月ごとに整備が必要な項目についても点検整備を受ける必要があります。

いずれの場合も、表に示す整備時期に達する前または達した時点で整備を受けなければなりません。ご所有のモーターサイクルに最適な定期整備プランについては、正規Triumphディーラーにご相談ください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間のいずれか先に達した方					
		初回整備	12ヶ月整備	一定の走行距離ごとの整備		
	間隔	800 1ヶ月	年	10,000 と 30,000	20,000	40,000
エンジンオイルクーラー ― 漏れ点検	日	•	•	•	•	•
エンジンオイル - 交換	-	•	•	•	•	•
エンジンオイルフィルター - 交換	-	•	•	•	•	•
バルブクリアランス－点検 / 調整	-				•	•
カムシャフトタイミング - 調整 - **初回 20,000 km 整備時のみ**					•	
エアクリーナー - 交換	-				•	•
オートスキャン - Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを実施	-	•	•	•	•	•
ABS（装着されている場合）とイモビライザーの各 ECM - DTC の確認	-	•	•	•	•	•
スパークプラグ - 点検	-			•		
スパークプラグ - 交換	-				•	•
スロットルボディー－バランス調整	-			•	•	•
スロットルボディプレート（バタフライ）- 点検 / 清掃	-			•	•	•
スロットルケーブル－点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
冷却システム - 漏れ点検	日	•	•	•	•	•
クーラントレベル－点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
クーラント - 交換	走行距離に関係なく、3 年ごと					
燃料システム - 漏れ、擦り切れ等の点検	日	•	•	•	•	•
ライト、計器類、電気系統 - 点検	日	•	•	•	•	•
ステアリング - 作動点検	日	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－点検 / 調整	-		•	•	•	•

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間のいずれか先に達した方					
		初回整備	12ヶ月整備	一定の走行距離ごとの整備		
	間隔	800 1ヶ月	年	10,000 と 30,000	20,000	40,000
ヘッドストックベアリングー潤滑	–				•	•
フォークー漏れ / 作動点検	日	•	•	•	•	•
フォークオイル – 交換	–					•
ブレーキフルードレベルー点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキフルードー交換	走行距離に関係なく、2 年ごと					
ブレーキパッド – 摩耗状態点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキマスターシリンダーフルード漏れ点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキキャリパーフルード漏れとピストンの焼き付き点検	日	•	•	•	•	•
リアサスペンションリンケージー点検 / 注油	–				•	•
ドライブチェーンー注油	300 キロごと					
ドライブチェーンー摩耗点検	800 キロごと					
ドライブチェーンのたるみー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
ドライブチェーンラビングストリップー点検	–	•	•	•	•	•
締め具類ー締まり具合を目視点検	日	•	•	•	•	•
ホイール – 損傷がないか点検	日	•	•	•	•	•
ホイールベアリングー摩耗 / 作動点検	–	•	•	•	•	•
タイヤの摩耗 / 損傷 – 点検	日	•	•	•	•	•
タイヤ空気圧ー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
クラッチケーブルー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
セカンダリーエアインジェクションシステムー点検 / 清掃	–				•	•

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間のいずれか先に達した方					
		初回整備	12ヶ月整備	一定の走行距離ごとの整備		
	間隔	800 1ヶ月	年	10,000 と 30,000	20,000	40,000
スタンド一作動点検	日	•	•	•	•	•
排気バタフライバルブケーブルー点検 / 調整 (Daytona 675 のみ)	–	•	•	•	•	•
排気バタフライバルブアクチュエーター – 電気配線コネクターの点検 / 清掃 / グリース塗布 (Daytona 675 のみ)	–	•	•	•	•	•
排気管クランプボルトー点検 / 調整	–	•	•	•	•	•
燃料ホースと蒸発ロスホース – 交換 *	–					•
* 蒸発システムは特定市場向けのモデルにのみ装着						

エンジンオイル

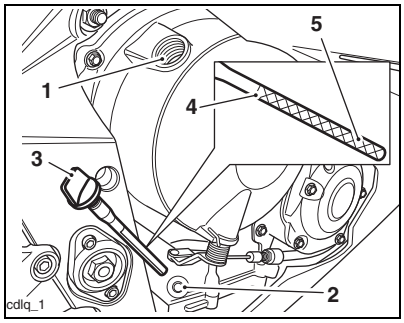
cbnz

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

⚠ 警告

エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンまたはトランスミッションが焼付きを起こすと、突然制御不能に陥って事故を起こしかねません。

オイルレベルの点検



1. **フィラー**
2. **クランクケース内のオイルゲージ**
3. **オイルゲージ**
4. **上限マーク**
5. **下限マーク**

⚠ 警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

⚠ 注意

オイル不足の状態でエンジンを回転させると、エンジンを損傷します。油圧低下インジケーターがオンになったままの場合は、即座にエンジンを停止し、原因を詳しく調べてください。

エンジンを始動し、約5分間空転させます。

エンジンを止めてからオイルが落ち着くまで、少なくとも 3 分間待ちます。

ディプスティックを取り外し、ブレードをきれいに拭いてから所定の位置にねじ込みます。

注記：

- **エンジン内のオイルレベルが正確に表示されるのは、エンジンが通常の運転温度であり、モーターバイクが（サイドスタンドを使用せずに）真っ直ぐに立てられ、ディプスティックが完全にねじ込まれている状態の時だけです。**
- **クランクケースのオイルゲージ用の穴から燃料を補給しないでください。**

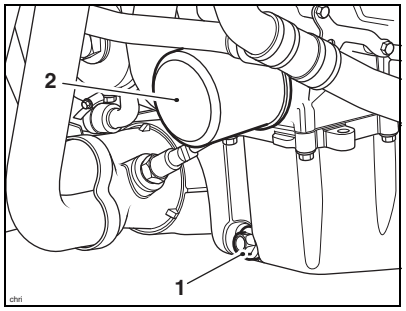
オイルゲージを取り出します。

オイルレベルがディプスティックに線で示されます。満タンの場合、オイルレベルはオイルゲージの上限マークと同じ高さになります。

オイルレベルが下限マーク以下になっていたら、フィラープラグを取り外し、クラッチカバーのフィラープラグホールから適正レベルのオイルを補充します。

適正レベルに達したら、オイルゲージとフィラープラグを取り付けます。

オイルとオイルフィルターの交換



1. **オイルドレンプラグ（Street Triple を図示）**
2. **オイルフィルター**

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

⚠ 警告

エンジンオイルに長く触れたり繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。その上、使用済みエンジンオイルには発ガン性の有害汚染物質が含まれています。必ず適切な防護服を着用し、使用済みオイルが皮膚に触れないようにしてください。

エンジンを完全に暖めてから止め、モーターバイクを平らな地面に真っ直ぐに立てます。

フェアリングを取り外します(Daytona 675 と 675 R のみ)。

エンジンの下にオイルドレンパンを置きます。

オイルドレンプラグを取り外します。

⚠ 警告

オイルは触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。

Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。オイルフィルターを環境にやさしい方法で処分してください。

新しいオイルフィルターのシーリングリングに新しいエンジンオイルを薄く塗りつけます。オイルフィルターを取り付けて **10 Nm** で締め付けます。

オイルドレンプラグを元に戻し**25 Nm**で締めつけます。

API SH（またはそれ以上）**および** JASO MA の仕様に適合する半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイルをエンジンに充填してください。例としては、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）が挙げられますが、このエンジンオイルは、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されている場合もあります。

エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

⚠ 注意

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう 30 秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。

⚠ 注意

エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転しているのにこのランプが消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

エンジンが始動するとまもなく油圧低下警告灯が消えることを確認します。

イグニッションを切り、前述の要領でオイルレベルを点検し、オイルゲージ上の上限と下限レベルを示す線の間に液面がくるようにオイルを補充します。

フェアリングを再び取り付けます(Daytona 675 と 675 R のみ)。

使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済みオイルフィルターを普通のごみと一緒に置かないでください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

オイルの仕様と等級

Triumph の高性能な燃料噴射式エンジンは、API SH （またはそれ以上）**および** JASO MAの仕様に適合する半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイルを使用するように設計されています。例としては、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40(完全合成) が挙げられますが、このエンジンオイルは、Castrol Power RS Racing 4T 10W-40 (完全合成) として販売されている場合もあります。

エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。

鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。

冷却装置

効率的にエンジンを冷やすには、毎日モーターバイクに乗る前にクーラントレベルを点検し、液面が低くなっていたら補充してください。

注記：

- **年間を通じて、ハイブリッド有機酸テクノロジー（ハイブリッドOATまたはHOAT）クーラントを冷却装置に注入した状態で、モーターバイクを工場より出荷しています。色はグリーンであり、50%濃度のエチレングリコール基の不凍液を含有し、凝固点は-35° Cです。**

腐食防止剤

冷却装置を腐食から護るために、クーラントに腐食防止剤を入れることが極めて重要です。

腐食防止剤の入っているクーラントを使わなければ、冷却装置のウォータージャケットやラジエターに錆びや湯垢がたまります。これはクーラントの通路を塞いで、冷却装置の能率を著しく低下させます。

⚠ 警告

アルミニウムエンジンとラジエターに適した、腐食防止剤と不凍剤入りのHD4Xハイブリッド OATクーラントを使ってください。必ず、メーカーの指示に従って不凍剤を使ってください。

不凍剤と腐食防止剤が混ざったクーラントには、人体に有害な有毒物質が含まれています。不凍剤やモーターバイクのクーラントは、絶対に飲み込まないでください。

注記：

- **Triumphが供給するHD4Xハイブリッド OATクーラントは事前に混合してあるので、冷却装置への補充や注ぎ足し時に希釈する必要はありません。**

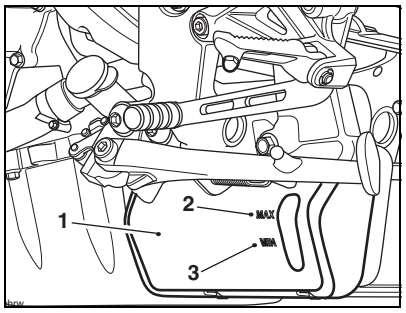
クーラントレベルの点検

Street Triple と Street Triple R

膨張タンクのキャップはモーターサイクルの左側、サイドスタンドの隣りにあります。

注記：

- **クーラントレベルは、エンジン冷間時に（室温または大気温度で）点検します。**



1. **膨張タンク**
2. **上限マーク**
3. **下限マーク**

モーターサイクルを平らな場所に置いてまっすぐに立てます。

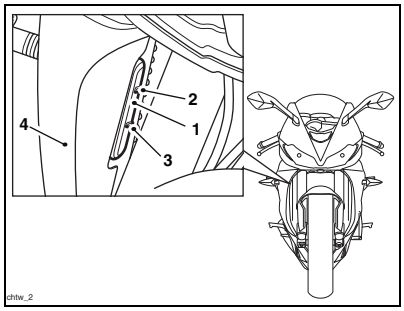
膨張タンク内のクーラントレベルを点検します。クーラントレベルは上限マークと下限マークの間でなければいけません。クラーントレベルが下限マークより下にある場合は、クーラントレベルを調整しなければなりません（*97*ページ参照）。

Daytona 675 と 675 R

クーラント膨張タンクはラジエターの右側に取り付けられており、右側のフェアリングに覆われています。

モーターサイクルを平らな場所に置いてまっすぐに立てます。

モーターサイクルの前部からフロントフォークの間を見ると膨張タンクを見つけることができます。クーラントレベルは上限マークと下限マークの間でなければいけません。クラーントレベルが下限マークより下にある場合は、クーラントレベルを調整しなければなりません（*97* ページ参照）。



1. **膨張タンク**
2. **上限マーク**
3. **下限マーク**
4. **右側フェアリング**

注記：

- **クーラントレベルは、エンジン冷間時に（室温または大気温度で）点検します。**

クーラントレベルが低い場合は、以下の手順で補充する必要があります。

右側のフェアリングを取り外します（*94* ページ参照）。

クーラントレベルの調整

⚠ 警告

エンジンが高温のときには、ラジエターキャップを取り外さないでください。エンジンが高温のときは、ラジエター内のクーラントの温度が高く、加圧状態になっています。加圧された状態の高温のクーラントに触れると、火傷をしたり皮膚を傷めたりすることがあります。

エンジンが冷えるのを待ちます。

Daytona 675 と 675 R

膨張タンクは右側のフェアリングの下にあり、ラジエターに取り付けられています。膨張タンクにクーラントを補充するときは、まず右側のフェアリングを取り外す必要があります。

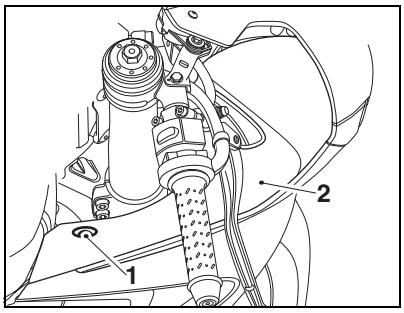
ライダーシートを取り外します。

バッテリーストラップを取り外します。

バッテリーのリード線を、マイナス（黒）から先に取り外します。

コックピットインフィルパネルを固定しているネジを取り外します。

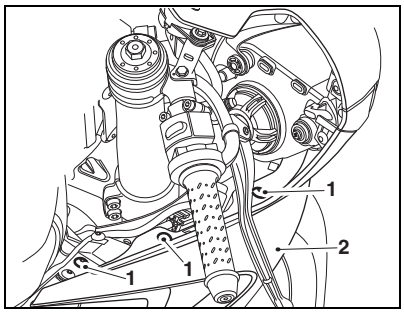
コックピットインフィルパネルを少し持ち上げて後方に引き、ヘッドライトの後部にあるグロメットからタグを引き離して、コックピットインフィルパネルを取り外します。



1. ネジ
2. コックピットインフィルパネル

パネルを取り外します。

フェアリングをコックピットに固定しているネジ 3 個の位置を確認したら、ネジを取り外します。

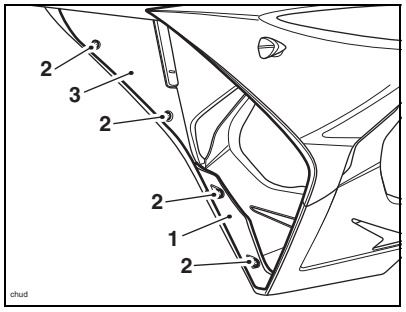


1. ネジ
2. 上側フェアリング

注記：

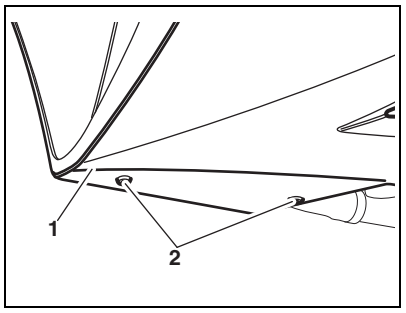
- **フェアリングを取り外すときに、ラジエターインフィルパネルを取り外す必要はありません。**

フェアリングをラジエターインフィルパネルに固定しているスクリベット4個の位置を確認したら、スクリベットを取り外します。



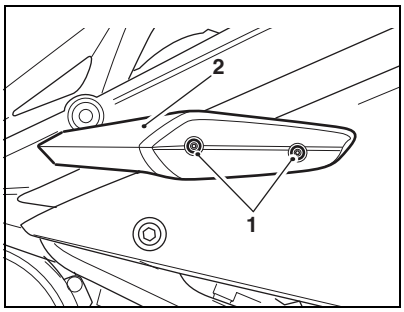
1. 下側インフィルパネル
2. スクリベット
3. 上側インフィルパネル

左右のフェアリングを連結しているネジ2個を取り外します。



1. フェアリング
2. ネジ

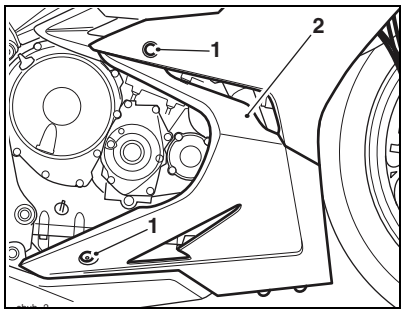
フレームプロテクターがあれば、フレームプロテクターを固定しているネジをゆるめて取り外します。



1. ネジ
2. フレームプロテクター

フレームプロテクターを取り外します。

フェアリングをフレームに固定しているネジ2個を取り外します。



1. ネジ
2. フェアリングのスタッド / グロメットの位置

注記：

- 上下のフェアリングは単一ユニットとして取り外します。

ロワーフェアリングのスタッドをフレームのグロメットから外します。

フェアリングの上端部はフック2個でコックピット内に配置されています。フェアリングを後方にずらしてフック2個を溝から外します。

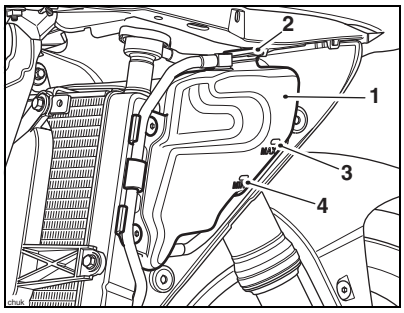
フェアリングを取り外します。

方向指示器の電気コネクターの接続を外します。

⚠ 注意

クーラントレベルが低いことに気付いた場合、またはクーラントを定期的に補充しなければならないような場合は、冷却システムからクーラントが漏れていないか点検してください。必要に応じて冷却システムの圧力テストを実施し、漏れの原因を突き止めて修理してください。クーラントが失われると、エンジンがオーバーヒートし、深刻な損傷につながる可能性があります。

膨張タンクのキャップを取り外し、クーラントレベルが上限マークに達するまでクーラント混合液を補充します。キャップを再び取り付けます。



1. **クーラント膨張タンク**
2. **クーラント膨張タンクのキャップ**
3. **上限フルードレベル**
4. **下限フルードレベル**

取り付け

取り付けは、以下に注意して、取り外し手順を逆に行ないます。

フェアリングをフレームに固定するネジを取り付けて、**5 Nm** で締め付けます。

フェアリングの下半分をそれぞれ連結するネジを取り付けて、**3 Nm** で締め付けます。

フレームプロテクターがある場合はそのネジを **9 Nm** で締め付けます。

コックピットをフェアリングに固定するネジを取り付けて、**3 Nm** で締め付けます。

右側のコックピットインフィルパネルを取り付けて、**3 Nm** で締め付けます。

プラス（+）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

ライダーシートを取り付けて、ネジを**9 Nm** で締め付けます。

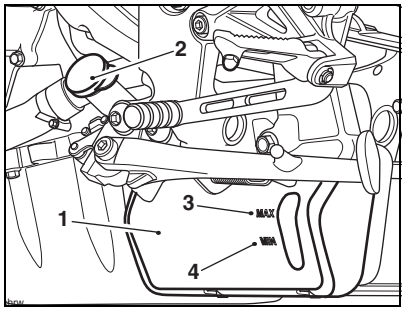
Street Triple と Street Triple R

膨張タンクのキャップはモーターサイクルの左側、サイドスタンドの隣りにあります。

⚠ 注意

クーラントレベルが低いことに気付いた場合、またはクーラントを定期的に補充しなければならないような場合は、冷却システムからクーラントが漏れていないか点検してください。必要に応じて冷却システムの圧力テストを実施し、漏れの原因を突き止めて修理してください。クーラントが失われると、エンジンがオーバーヒートし、深刻な損傷につながる可能性があります。

リザーブタンクのキャップを取り外し、液面レベルが上限マークに達するまで、補給口からクーラント混合液を補充します。キャップを再び取り付けます。



1. クーラント膨張タンク
2. クーラント膨張タンクのキャップ
3. 上限フルードレベル
4. 下限フルードレベル

全モデル

注記：

- クーラントの過熱が原因でクーラントレベルを点検するのであれば、ラジエター内の液面レベルも点検し、必要があれば補充してください。
- 緊急で止むをえない場合には、冷却装置に希釈水を補充しても構いません。ただし、なるべく早めにクーラントを抜き取り、HD4X ハイブリッド OAT クーラントを補充してください。

⚠ 注意

冷却装置に硬水を使用すると、エンジンやラジエーターに酸化膜が蓄積して、冷却装置の効率を著しく低下させます。冷却装置の効率が低下すると、エンジンを過熱させて多大な損傷を与えることになりかねません。

クーラントの交換

定期整備表の指示に従い、正規 Triumph ディーラーに依頼してクーラントに交換してもらってください。

ラジエターとホース

定期整備表の指示に従って、ラジエターホースに亀裂や劣化がないか、ホースクリップが硬くなっていないか点検してください。欠陥のあるものは、正規 Triumph ディーラーに付け替えてもらってください。

ラジエターグリルとフィンに昆虫や枯葉、泥などが詰まっていないか点検してください。低圧の放水で詰まっているゴミを洗い流してください。

⚠ 警告

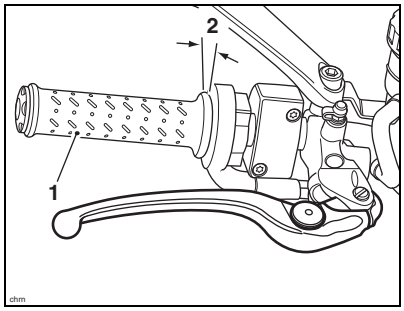
ファンは、エンジンが回転している間は、自動的に作動します。常に手や衣服をファンから遠ざけておいてください。回転中のファンに触れると負傷する可能性があるからです。

⚠ 注意

洗車場にある高圧ウォータースプレーや家庭用の加圧洗浄機を使うと、ラジエターフィンに損傷を与えて漏れやラジエターの能力低下を引き起こす可能性があります。

承認されていないアクセサリーをラジエターの前や冷却ファンの後ろに装備して、ラジエターを通る空気の流れを遮断したり、そらせたりしないでください。ラジエターの空気の流れを妨げると、過熱してエンジンに損傷を与える恐れがあります。

スロットルコントロール



1. **スロットルグリップ**
2. **適切な設定値、2 – 3 mm**

⚠ 警告

スロットルグリップは、スロットルボディー内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆるすぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行なってください。

⚠ 警告

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph ディーラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかったり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

点検

⚠ 警告

調整や配線が不適当になされていたり、滑らかに動かないあるいは損傷しているスロットルケーブルを装着したモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰することがあります。

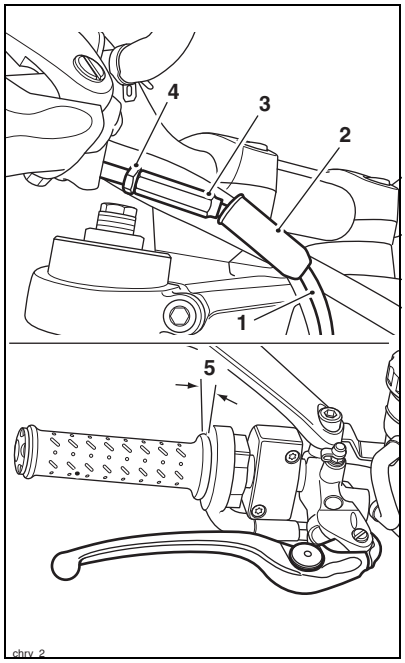
不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph ディーラーにスロットルを点検、調整してもらってください。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規 Triumph ディーラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。

スロットルグリップを前後に軽く回した時に、スロットルグリップに 2 - 3 mm の遊びがあるかを調べてください。

遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph ディーラーにしてもらうことをお勧めします。しかしながら、非常時の場合は、以下の手順でスロットルを調整できます：

調整



1. **オープニングケーブル**
2. **ゴム製カバー**
3. **オープニングケーブルアジャスター**
4. **ロックナット**
5. **オープニングケーブル－遊び測定箇所**

ケーブルの遊びを調整するには、まずアジャスターからゴム製カバーをずらします。

オープニングケーブルアジャスターのロックナットをゆるめます。

ツイストグリップ先端でオープニングケーブルアジャスターを回して、ツイストグリップの遊びが 2 - 3 mm になるようにします。ロックナットを **2.5 Nm** で締め付けます。

ゴム製カバーを再び取り付けます。

⚠ 警告

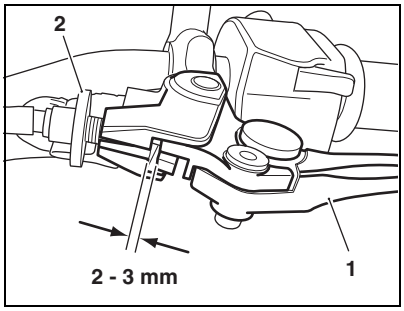
アジャスターのロックナットをしっかりと締め付けてください。ロックナットがゆるんでいると、スロットルが固着する恐れがあります。

スロットルの調整が不適切であったり、スロットルが固着していたり引っ掛かっていたりすると、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。

走行を再開する前に、最寄りの正規 Triumphディーラーまで慎重にバイクを走らせ、そこでスロットルシステムを徹底的に調べてもらってください。

クラッチ



1. クラッチレバー（Street Triple を図示）
2. アジャスター

本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大き過ぎると、クラッチが完全に切れない恐れがあります。そうなると、ギヤチェンジやニュートラルに入れる際に困難が生じることがあります。これは、エンストやモーターバイクを制御困難な状態に陥らせる原因になりかねません。

逆に、クラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチが完全にかみ合わずに、スリップを招く恐れがあります。これは、クラッチの性能を低下させ、磨耗を早める原因になることがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

点検

レバーのところでクラッチレバーに2 - 3 mmの遊びがあるか調べてください。

遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

調整

クラッチケーブルのレバー側のきざみ付きロックナットを緩め、クラッチレバーの遊びの大きさが適正になるまでアジャスタースリーブを回します。

きざみ付きロックナットをクラッチレバーアッセンブリに嵌めて締めます。

レバーアジャスターで適切な調整ができない場合は、ケーブルの下端にあるケーブルアジャスターを使ってください。

アジャスターロックナットを緩めます。

クラッチレバーのところに2 – 3 mmの遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。

ロックナットを締め付けます。

ドライブチェーン

ドライブチェーンは、安全走行のためと過度の磨耗防止のために、定期整備表の求めるところに従って定期的に点検、調整、潤滑注油しなければなりません。塩分や砂が多いといった極端にコンディションの悪い道路の場合、点検、調整、注油を通常より頻繁に行なってください。

ひどく磨耗していたり、(きつ過ぎ、ゆる過ぎのいずれでも)調整が適切でないチェーンは、スプロケットから外れたり、壊れたりする恐れがあります。磨耗や損傷したチェーンの場合、速やかに正規 Triumph ディーラーで供給している純正 Triumph パーツに替えてください。

⚠ 警告

ゆるい、磨耗している、壊れている、スプロケットから飛び出す、このようなチェーンは、エンジンスプロケットに絡まったり後輪をロックする場合があります。

エンジンスプロケットに絡まったチェーンでケガをしたり、モーターバイクのバランスを崩して事故になる恐れがあります。

同様に、後輪が動かなくなると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

チェーンの注油

チェーンは 300 km 走行する毎に、あるいは雨天時や濡れた路上での走行後は、潤滑注油が必要です。また、チェーンが乾いている時も常に注油してください。

仕様の章で推奨されている、特別のチェーン潤滑剤を使用してください。

ローラー両側に潤滑油を注油し、8 時間が経つまではモーターバイクに乗らないでください (一晩置くのが理想的)。そうすることにより、チェーン O リングなどにオイルがゆきわたります。

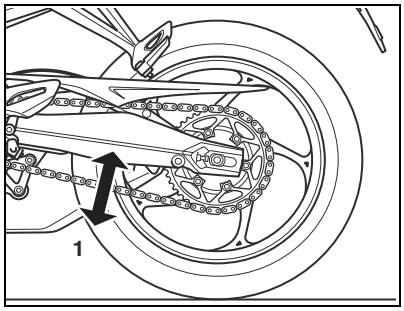
乗る前に、余分なオイルを拭き取ります。

チェーンの汚れが特にひどい時は、まず汚れを落とし、それから前述の要領で注油します。

⚠ 注意

チェーン系コンポーネントを損傷するので、チェーンの汚れ落としに加圧洗浄機を使わないでください。

チェーンのたるみ点検



1. 最大ムーブメントポジション

⚠ 警告

作業を開始する前に、モーターバイクが安定しており、適切に支えられていることを確かめてください。作業者をケガから守り、モーターバイクが損傷するのを防ぎます。

平らな場所にモーターバイクを置き、積載せずに真っ直ぐ立てます。

モーターバイクを押してリアホイールを回転させ、チェーンが最もきつくなるポイントを見つけ、2 枚のスプロケットの中間でたるみを測定します。

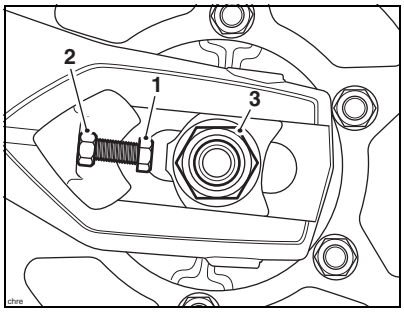
チェーンのたるみ調整

Street Triple と Street Triple R

ドライブチェーンのたるみは、13 - 32 mm の範囲でなければなりません。

Daytona 675 と Daytona 675 R

ドライブチェーンのたるみは、28 - 38 mm の範囲でなければなりません。



1. アジャスターボルト
2. アジャスターボルトロックナット
3. リアホイールスピンドルナット

ホイールスピンドルナットを緩めます。

左右のチェーンアジャスターボルトのロックナットを緩めます。

両アジャスターを均等に調整する形で、チェーンのたるみを大きくする場合はアジャスターボルトを時計回りに、小さくする場合は反時計回りに回します。

チェーンのたるみが適切なものになったら、アジャスターとぴったり接するようにホイールを押します。両アジャスターロックナットを 27 Nm で、リアホイールスピンドルナットを 110 Nm で締め付けます。

チェーンの調整点検を繰り返します。必要な場合は再調整します。

⚠ 警告

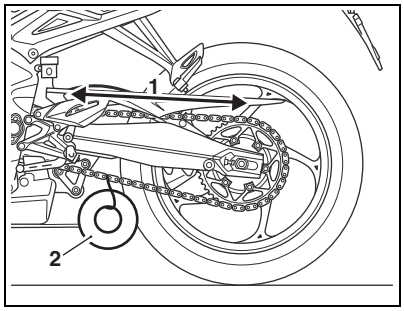
アジャスターロックナットが締まっていなかったり、ホイールスピンドルが緩んでいたりした状態でモーターバイクを運転すると、バイクの安定性と操縦性が損なわれることになりかねません。安定性と操縦性が損なわれると、制御しきれなくなって事故につながる恐れがあります。

リアブレーキの効き具合を調べてください。必要があれば直します。

⚠ 警告

ブレーキに欠陥のある状態でモーターバイクを運転するのは危険であり、走行を再開する前に最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検修理してもらってください。点検修理をしなかった場合、ブレーキ制動が甘くなり、バランスを崩して事故を引き起こしかねません。

チェーンとスプロケットの磨耗点検



1. 20 環分を測定
2. おもり

チェーンガードを取り外します。

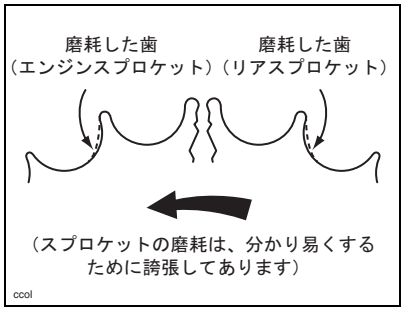
チェーンに 10 – 20 kg のおもりを吊り下げて、チェーンを張ります。

1 番目のピンの中心から 21 番目のピンの中心まで、20 環分のチェーンの直線部分の長さを測ってください。チェーンは不均等に磨耗していることがあるため、数カ所測定してください。

長さが使用限度である 319 mm を超えていた場合、チェーンは交換しなければなりません。

リアホイールを回転させ、ドライブチェーンのローラーに損傷がないか、ピンや環が緩んでいないか点検してください。

スプロケットの歯が不揃いになっていないか、過度に磨耗していないか、歯が欠けていないかといったことも点検してください。



異常があった場合、最寄りの正規 Triumph ディーラーにドライブチェーンやスプロケットを交換してもらってください。

チェーンガードを交換します。

⚠ 警告

認定されていないチェーンを使用すると、チェーンの破損やスプロケットから飛び出す原因となる場合があります。

Triumphパーツカタログに記載されているように、純正 Triumph 供給チェーンを使ってください。

チェーンのメンテナンスは絶対に怠らないでください。取り付けは正規 Triumphディーラーに実施してもらってください。

⚠ 注意

スプロケットの磨耗に気づいた時は必ず、スプロケットとドライブチェーンを一緒に交換してください。

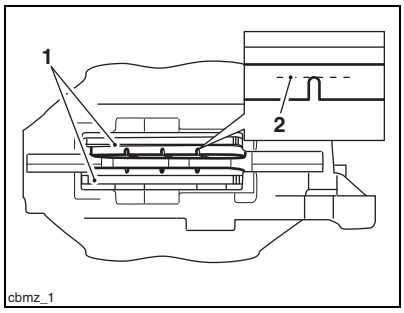
チェーンも一緒に交換しないで、磨耗したスプロケットだけを交換すると、新しいスプロケットの耐久性を損なうことがあります。

ブレーキ

ブレーキの磨耗点検

ブレーキパッドは、定期整備表にしたがって点検し、摩耗が使用限度に達している場合は交換しなければなりません。

フロントブレーキ

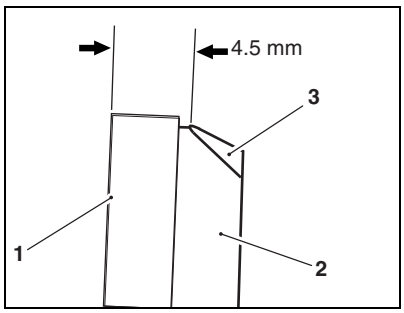


1. **ブレーキパッド**
2. **厚さの下限ライン**

フロントブレーキパッドのライニングが 1.5 mm より薄くなった場合、またはパッドの摩耗が溝の底まで達した場合は、そのホイールのパッドをすべて交換します。

リアブレーキ

リアブレーキパッドのライニングがキャリアプレートを含めて 4.5 mm より薄くなった場合、またはパッドの摩耗が面取り部まで達した場合は、そのホイールのパッドをすべて交換します。



1. **キャリアプレート**
2. **ライニング**
3. **面取り**

新ブレーキパッドおよび新ブレーキディスクの慣らし運転

交換用ブレーキディスクおよび/またはブレーキパッドをモーターサイクルに取り付けた後、ディスクとパッドの性能を最適化し、耐用寿命が長くなるように、慎重に一定期間慣らし運転を行うことをお勧めします。新しいパッドとディスクの慣らし運転として、300 km ほど走行していただくのが理想です。

新しいブレーキディスクおよび/または新しいブレーキパッドを取り付けた後、慣らし運転を行っている間は、過剰なブレーキングを避け、慎重に運転し、制動距離を長めにとってください。

⚠ 警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合、同じホイールにキャリパーが 2 つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッドを全部交換してください。

パッドを個々に交換すると、制動効率が低下し、事故を招く恐れがあります。

ブレーキパッドを交換した直後は、新しいパッドが「よく馴れる」まで、慎重に運転してください。

ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとブレーキパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの動きに影響を及ぼしません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

⚠ 警告

ブレーキをかけた時に、ブレーキレバーやペダルがソフトに感じられたり、あるいはレバー/ペダルの遊びが大きすぎる場合、ブレーキパイプに空気が入っているか、ブレーキに欠陥がある恐れがあります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。必ず、走行前に最寄りの正規Triumphディーラーに故障を修理してもらってください。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

ディスクブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。仕様の章で推奨されているように、DOT 4 のブレーキフルードだけを使ってください。ブレーキフルードに水分やその他の汚染物質が混入した場合、又はその疑いがある場合も、ブレーキフルードを交換する必要があります。

⚠ 警告

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていなかったり、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

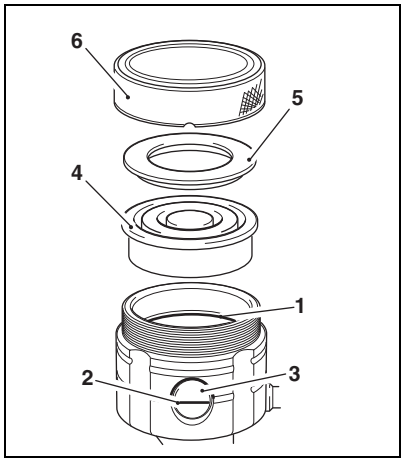
ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。

故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

フロントブレーキフルードレベルの点検と調整

Daytona 675 R と Street Triple R (装着されている場合)



1. **上限ライン**
2. **下限ライン**
3. **点検窓**
4. **ダイアフラム**
5. **ダイアフラムサポートリング**
6. **リザーバキャップ**

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、(リザーバが水平の状態で) 上限 / 最大ラインと下限/最低ラインの間になるようにしなければなりません。

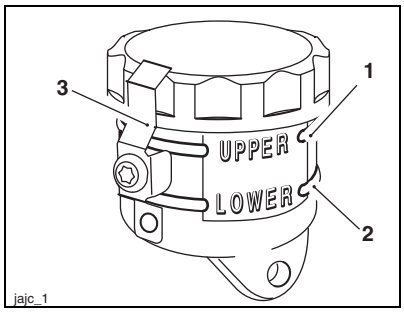
リザーバキャップを取り外します。

密閉容器から新しい DOT 4 のブレーキフルードを、上限ラインまでリザーバに補充します。

ダイアフラムとダイアフラムサポートリングをフルードリザーバにセットします。

新しいリザーバーキャップをセットし、ネジ部を慎重に回してしっかりとキャップを締め付けます。

Daytona 675、Daytona 675 R 、Street Triple R



1. **フロントブレーキフルードリザーバ、上限 / 最大ライン**
2. **下限 / 最低ライン**
3. **安全クリップ**

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、(リザーバが水平の状態で) 上限 / 最大ラインと下限/最低ラインの間になるようにしなければなりません。

安全クリップを取り外します。

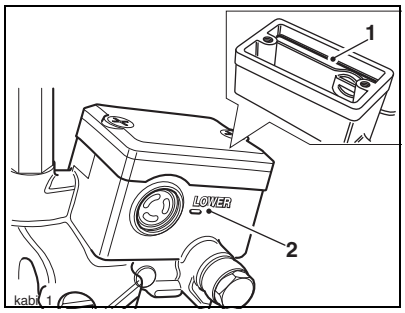
リザーバカバーを取り外します。

密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。

ダイアフラムシールが適切に取り付けられていることを確かめ、タンクカバーを再度取り付けます。

安全クリップを取り付けます。

Street Triple



1. フロントブレーキフルードリザーバ、上限ライン
2. 下限ライン

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、常に、上限と下限を示す2本の線の間になくてはなりません（リザーバは水平の状態で）。

フロントフルードの場合、タンクボディー前面にある窓で液面レベルをチェックします。

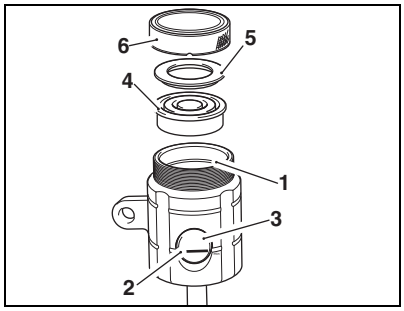
フルードレベルを調整するには、キャップのねじをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置を書きとめて、カバーを取り外します。

密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。

ダイアフラムシールがキャップとタンクボディーの間に適切に置かれていることを確かめながら、カバーを再度取り付けます。キャップの留めねじを締めます。

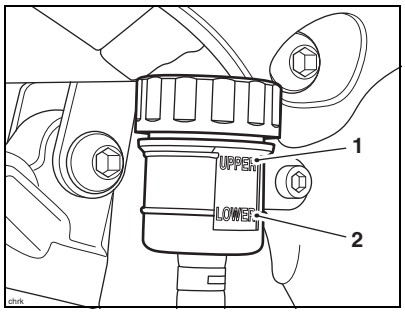
リアブレーキフルードのレベル点検と調整

Daytona 675 R と Street Triple R (装着されている場合)



1. 上限ライン
2. 下限ライン
3. 点検窓
4. ダイアフラム
5. ダイアフラムサポートリング
6. リザーバキャップ

全モデル



1. **上限ライン**
2. **下限ライン**

⚠ 警告

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく下がっていた場合は、走行前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談し、アドバイスを受けてください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。

ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。イグニッションを ON ポジションにした状態でブレーキレバーを引いたり、リアブレーキペダルを踏んだりしてもブレーキライトが点灯しない場合、正規 Triumph ディーラーに不具合の点検と修理を依頼してください。

⚠ 警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

ステアリング / ホイールベアリング

⚠ 注意

点検中にモーターバイクが倒れて負傷することのないように、モーターバイクがしっかりと適切な支えの上に固定されていることを確認してください。それぞれのホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になり、支えから落下して怪我のもととなりかねません。

支えのブロックが、サンプに損傷を与えない場所に置かれていることを確かめてください。

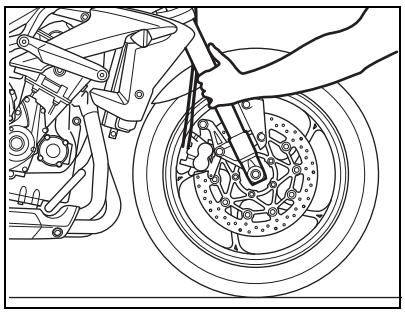
ステアリングの点検

定期整備表の指示に従って、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの状態の点検と注油を行なってください。

注記：

- **ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。**

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検



ステアリングの遊びの点検

点検

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの前に立ってフロントフォークの下側を持ち、前後に動かしてみます。ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに遊びがある場合は、運転する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検と、あれば故障の修理を依頼してください。

⚠ 警告

調整が不適切だったり、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクのコントロールが失われ、事故を引き起こしかねません。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

ホイールベアリングの点検

フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの横に立って、フロントホイールの上部を静かに左右にゆすります。

走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumphディーラーに依頼してください。

ジャッキの位置を変え、リアホイールも同じ手順で点検します。

⚠ 警告

フロント又はリアホイールベアリングに磨耗や損傷のある状態で運転することは危険であり、操縦性と安定性が損なわれて事故につながる恐れがあります。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

フロントサスペンション

フロントフォークの点検

それぞれのフォークに損傷のしるしがないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。
- 動きが滑らかでなく、過度な硬さが感じられる場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。
- サスペンションを調整すると、サスペンションの動きが変わります (Daytona 675、Daytona 675 R および Street Triple R のみ)。

⚠ 警告

サスペンションに欠陥や損傷のある状態でモーターバイクを運転することは危険であり、コントロールが失われて事故につながりかねません。

⚠ 警告

サスペンションユニットは、どの部分であっても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

フロントサスペンションの調整 - Street Triple

Street Triple では、フロントサスペンションを調整することはできません。

注記：

- **Street Triple R は、フロントサスペンションを標準設定にした状態で工場から出荷されます。標準設定については、該当するサスペンション設定一覧表を参照してください。**
- **設定値表の値は参考値です。ライダーの体重や好みによって設定値は異なります。サスペンション調整についての詳細は以下に記載されています。**

フロントサスペンション設定一覧表ー Daytona 675 のみ

積載状態		スプリングプリロード[1]	伸側減衰[2]	低速ストローク時の圧側減衰[2]	高速ストローク時の圧側減衰[1]
単独走行	サーキット	7.5	8	6	3
	標準 / スポーツ	7.5	12	12	3
	コンフォート	7.5	14	14	3.5
ライダーと同乗者		7.5	12	12	3

[1] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回す回数。
[2] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数。

フロントサスペンション設定一覧表ー Daytona 675 R のみ

積載状態		スプリングプリロード[1]	伸側減衰[2]	圧側減衰[2]
単独走行	サーキット	4	7	10
	標準 / スポーツ	4	14	16
	コンフォート	4	20	20
ライダーと同乗者		4	14	16

[1] 反時計回りに回しきった位置から時計回りに回す回数。
[2] 時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとする。

フロントサスペンション設定一覧表 - Street Triple R

積載状態		スプリングプリロード[1]	伸側減衰[2]	圧側減衰[2]
単独走行	サーキット	7.5	7	7
	標準 / スポーツ	7.5	10	10
	コンフォート	7.5	12	12
ライダーと同乗者		7.5	10	10

[1] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回す回数。
[2] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数。

Daytona 675 と Daytona 675 R

サスペンションを標準のスポーツ設定にすれば、通常の単独走行時に快適な乗り心地と優れたハンドリング特性が得られます。

Street Triple R

Street Triple R の場合、標準 / スポーツ設定にすると、スポーツ走行向きのハンドリング特性となり、乗り心地が若干損なわれます。前ページのフロントサスペンション設定一覧表に記載されているのは、推奨設定値です。

⚠ 警告

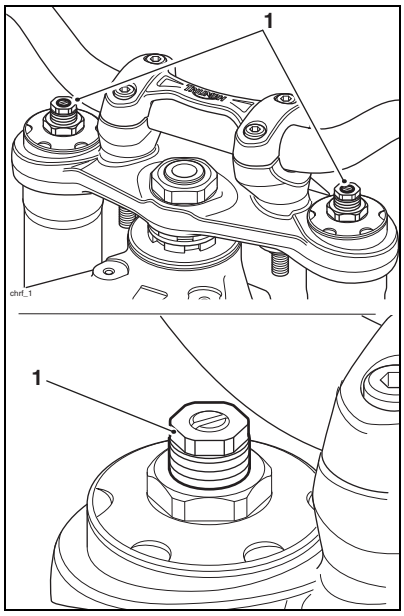
両方のフォークを同じように調整する場合、両方のアジャスターを同じ位置に設定してください。左右の設定が異なると、ハンドリング特性に著しい変化が生じ、制御不能となり事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

フロントとリアのサスペンションのバランスを適切な状態に保ってください。サスペンションのバランスが悪いと、ハンドリング特性に著しい変化が生じ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。詳細についてはフロントとリアのサスペンション設定一覧表を参照していただくか、正規販売店にお問い合わせください。

フロントサスペンションの調整

スプリングプリロード - Daytona 675 と Street Triple R



1. **Street Triple R のスプリングプリロードアジャスター**

スプリングプリロードアジャスターは、それぞれのフォークの最上部にあります。

スプリングプリロードを増加させるときはアジャスターを時計方向に回し、減少させるときは反時計方向に回して調整します。

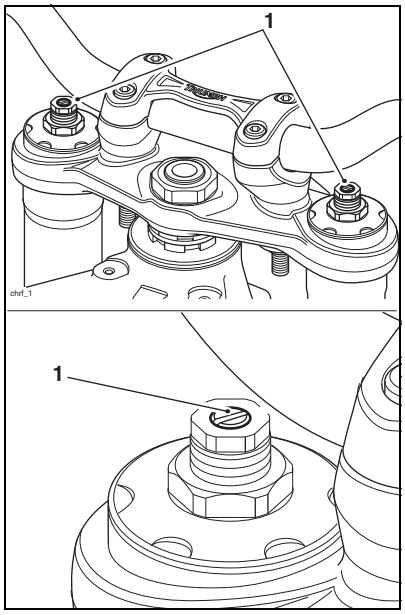
プリロードアジャスターの設定は、必ず両方のフォークとも同じ設定にしてください。

注記：

- **フォーク上面に突き出した目盛りの線の本数が、両側とも同じになるようにしてください。**

伸側減衰の調整 - Daytona 675 と Street Triple R

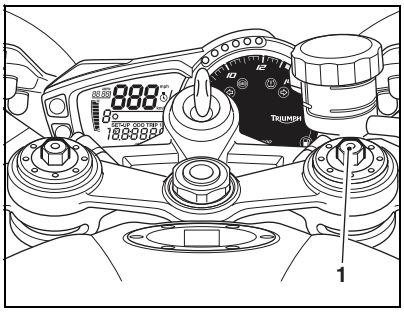
伸側減衰アジャスターは、それぞれのフォークの上端に付けられています。



1. Street Triple R の伸側減衰アジャスター

伸側減衰力を変更するには、スロット付きアジャスターを時計回りに回転させて伸側減衰力を強くするか、反時計回りに回転させて弱くします。完全にねじ込んだ位置から回転させたときにカチッと鳴った回数を必ず数えて、両フォークとも同じ設定にしてください。

Daytona 675 R



1. Daytona 675 R の伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターは、右側フォークの最上部にあります。

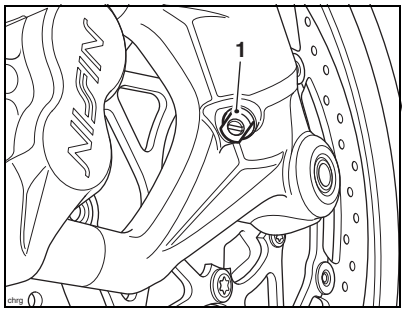
伸側減衰力の調整をする場合は、3 mm の六角棒スパナでアジャスターを時計回りに回すと伸側減衰力が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置からカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から 10 回カチッと音をたてた位置に伸側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

圧側減衰の調整 - Daytona 675 と Street Triple R

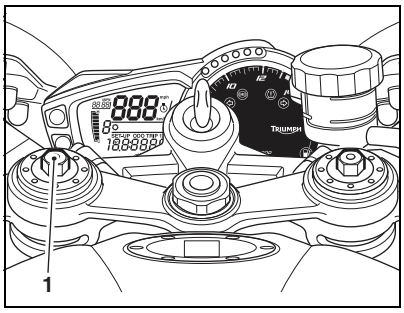
圧側減衰アジャスターは、両方のフォークの下端近くに、ホイールスピンドルに隣接して取り付けられています。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力を変更するには、スロット付きアジャスターを時計回りに回転させて圧側減衰力を強くするか、反時計回りに回転させて弱くします。完全にねじ込んだ位置から回転させたときにカチッと鳴った回数を必ず数えて、両フォークとも同じ設定にしてください。

Daytona 675 R



1. 圧側減衰アジャスター

圧側減衰アジャスターは、左側フォークの最上部にあります。

圧側減衰力の調整をする場合は、3 mm の六角棒スパナでアジャスターを時計回りに回すと圧側減衰力が増加し、反時計回りに回すと減少します。時計回りに回しきった位置からカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

注記：

- **本モーターサイクルは、時計回りに回しきった位置から 15 回カチッと音をたてた位置に圧側減衰を設定した状態で工場から出荷されます。**

リアサスペンション

リアサスペンションの点検

ショックアブソーバーに損傷やオイル漏れがないか点検します。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

注記：

- **Street Triple は、リアサスペンションを標準設定にした状態で工場から出荷されます。標準設定については、該当するサスペンション設定一覧表を参照してください。**
- **Daytona 675 と Street Triple R は、リアサスペンションを標準設定にした状態で工場から出荷されます。標準設定についてはそれぞれ該当するサスペンション設定一覧表に記載されています（*94* ページ参照）。**
- **Daytona 675 R は、サスペンションを標準のスポーツ設定にした状態で工場から出荷されます。標準スポーツ設定については該当するサスペンション設定一覧表に記載されています（*120* ページ参照）。**
- **設定値表の値は参考値です。ライダーの体重や好みによって設定値は異なります。サスペンション調整についての詳細は以下に記載されています。**

⚠ 警告

フロントとリアのサスペンションのバランスを適切な状態に保ってください。サスペンションのバランスが悪いと、ハンドリング特性に著しい変化が生じ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。詳細についてはフロントとリアのサスペンション設定一覧表を参照していただくか、正規販売店にお問い合わせください。

リアサスペンション設定一覧表－ Daytona 675 のみ

積載状態		伸側減衰[2]	低速ストローク時の圧側減衰[2]	高速ストローク時の圧側減衰[1]
単独走行	サーキット	7	7	3
	標準 - スポーツ	12	12	3
	コンフォート	14	14	3.5
ライダーと同乗者		12	12	3

[1] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回す回数。
[2] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数。

リアサスペンション設定一覧表 - Daytona 675 R のみ

積載状態		伸側減衰[1]	圧側減衰[1]
単独走行	サーキット	10	9
	標準 - スポーツ	16	16
	コンフォート	20	20
ライダーと同乗者		16	16

[1] 時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数
最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとする。

リアサスペンション設定一覧表 - Street Triple R のみ

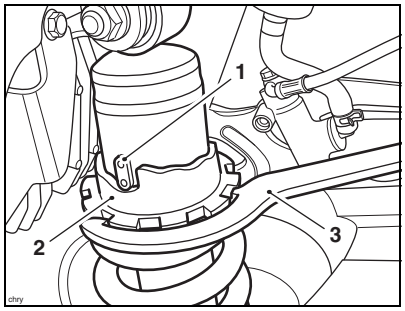
積載状態		伸側減衰[1]	圧側減衰[1]
単独走行	サーキット	7	7
	標準 - スポーツ	9	9
	コンフォート	12	12
ライダーと同乗者		9	9

[1] 完全にねじ込んだ位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数。

スプリングプリロードの調整 - Street Triple

リアサスペンションで調整できるのはプリロードだけです。

リアサスペンションのスプリングプリロードの設定値を変えるには、まずツールキットの調整ツールをアジャスターリングに差し込みます。スプリングプリロードを大きくするときはアジャスターリングを時計方向に回し、小さくするときは反時計方向に回します。プリロードアジャスターは1に設定された状態で工場から出荷されます。



1. ペグ
2. 1 の位置
3. スパナ

リアサスペンションの調整 - Daytona 675、675 R、Street Triple R

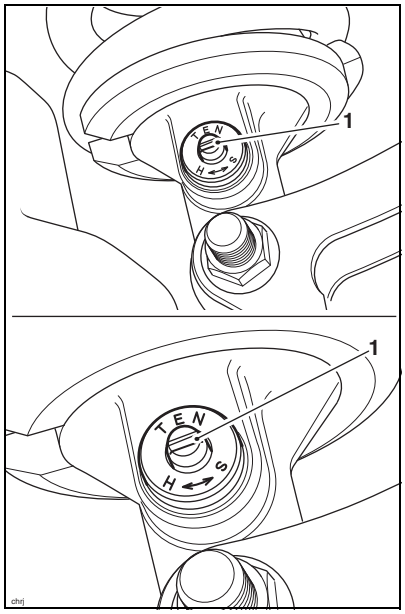
リアサスペンションユニットは、伸側減衰と圧側減衰の両方の調整が可能です。

サスペンション推奨設定値

アジャスター設定値は、アジャスターを時計方向にいっぱいまで回した位置を1として、そこから数えます。アジャスターの位置は1から5までです。1に設定すると、スプリングプリロードは最小になります。

乗員	サスペンションプリロード設定
ライダーのみ	1 の位置
ライダーと同乗者	5 の位置

伸側減衰の調整 - Street Triple R

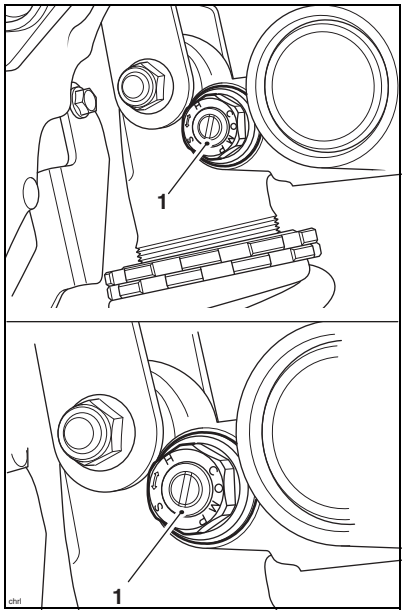


1. 伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターは、モーターサイクルの左側、リアサスペンションユニットの最下端にあります。

伸側減衰の設定を調整する場合は、アジャスターを時計方向に回すと伸側減衰が増加し、反時計方向に回すと減少します。

圧側減衰の調整 - Street Triple R

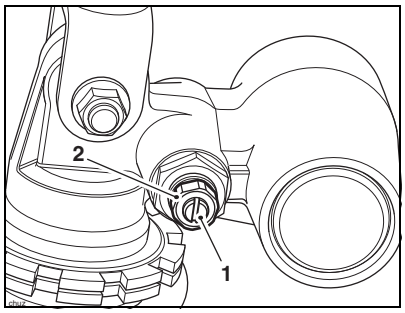


1. 圧側減衰アジャスター

圧側減衰アジャスターは、リアサスペンションユニットリザーバの隣りにあります。

圧側減衰の設定を調整する場合は、アジャスターを時計方向に回すと圧側減衰が増加し、反時計方向に回すと減少します。

低速ストローク用と高速ストローク用の圧側減衰 - Daytona 675



1. 低速ストロークアジャスター
2. 高速ストロークアジャスター

低速ストローク時および高速ストローク時の圧側減衰を調整する各アジャスターは、リアサスペンションリザーバの近くにあります。

低速ストローク時の圧側減衰の調整

低速ストローク時の圧側減衰力を調整するには、スロット付きアジャスターを時計回りに回転させて減衰力を強くするか、または反時計回りに回転させて弱くします。必ず、完全にねじ込んだ位置からカチッと音がする回数を数えてください。

高速ストローク時の圧側減衰の調整

高速ストローク時の圧側減衰力を調整するには、アジャスターを時計回りに回転させて減衰力を強くするか、または反時計回りに回転させて弱くします。必ず、完全にねじ込んだ位置から回転させた回数を数えてください。

注記：

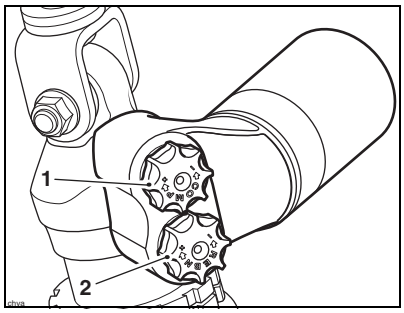
- **低速ストロークアジャスターは高速ストロークアジャスターと一緒に回転します。しかし、それによって低速ストローク時の圧側減衰の調整が変化することはありません。**

⚠ 警告

ライダーがリアサスペンションユニットのスプリングプリロードを調整することはできません。

スプリングプリロードを調整しようとすると、危険な走行状態に陥る可能性があり、コントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

Daytona 675 R



1. **圧側減衰アジャスター**
2. **伸側減衰アジャスター**

圧側減衰の調整

圧側減衰アジャスターの色はゴールドで、リアサスペンションユニットの頂部に、リアサスペンションユニットリザーバに隣接して取り付けられています。

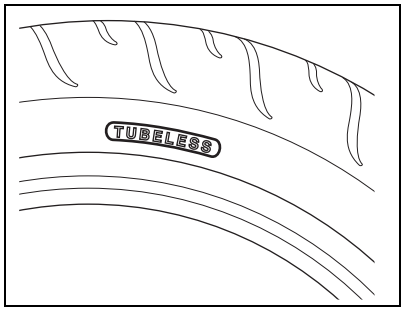
圧側減衰の設定を調整するには、アジャスターを時計回りに回転させて減衰力を強くするか、反時計回りに回転させて弱くします。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

伸側減衰の調整

伸側減衰アジャスターの色は黒で、リアサスペンションユニットの頂部に、リアサスペンションユニットリザーバに隣接して取り付けられています。

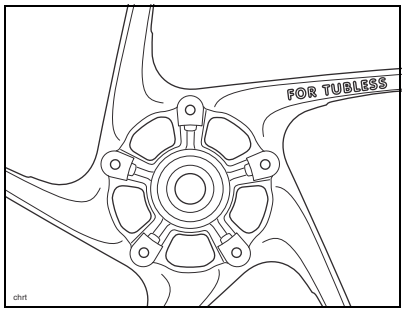
伸側減衰の設定を調整する場合は、アジャスターを時計方向に回すと伸側減衰が増加し、反時計方向に回すと減少します。時計回りに回しきった位置から反時計回りに回してカチッと音がする回数を必ず数えてください。最初の停止位置（カチッと音がする位置）をゼロとして数えます。

タイヤ



典型的なタイヤマーク

本モーターサイクルにはチューブレスタイヤ、チューブレス用のバルブとホイールリムが装備されています。必ず「TUBELESS」（チューブレス）のマークのついたタイヤとチューブレスバルブを「TUBELESS」のマークのついたリムに取り付けてください。



ホイールのマーク

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧を適正にすることで、高い安定性と快適な乗り心地がもたらされ、タイヤの寿命も延びます。必ず走行前のタイヤ冷間時にタイヤ空気圧を点検してください。タイヤ空気圧は日常的に点検し、必要に応じて調整します。適正なタイヤ空気圧については、「仕様」の章を参照してください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（装着されている場合）

計器パックに表示されるタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表示を選択した時点の空気圧です。運転中にタイヤが温められるとタイヤ内の空気が膨張して空気圧が上がるため、計器盤に表示された空気圧とタイヤ冷間時に設定した空気圧が異なる場合があります。Triumph 社は、このような空気の膨張を考慮して冷間時のタイヤ空気圧を規定しています。

タイヤ空気圧の調整は、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して必ず冷間時に行ってください。計器盤に表示された空気圧を見て調整してはいけません。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不適切な場合、トレッドが異常に磨耗し、安定性が低下するため、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

空気圧が低すぎると、タイヤがリムからずれたり外れたりすることがあります。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗が早まります。

空気圧は低すぎても高すぎても危険であり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤの磨耗

タイヤのトレッドが摩耗するにつれ、タイヤはパンクしやすくなったり故障しやすくなったりします。したがって、タイヤを摩耗限界まで使用することはお勧めできません。

トレッドの深さ推奨最小値

定期整備表したがって、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下表の許容最小限度まであるいはそれ以上磨耗しているタイヤがあれば交換します。

時速 130 km/h 以下	2 mm
時速 130 km/h 超	リア 3 mm フロント 2 mm

⚠ 警告

サーキット以外の場所では、法定制限速度を超えるスピードでモーターサイクルを運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターサイクルで高速走行できるのは、定められたコースで行われるロードレースやサーキットのみです。また、高速走行が可能なのは、高速走行に必要とされるテクニックを修得し、本モーターサイクルのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーだけです。その他の状況での高速走行は危険であり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険です。トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

チューブレスタイヤがパンクすると、大抵の場合、空気は非常にゆっくりと漏れていきます。タイヤがパンクしていないか必ず念入りに点検してください。また、タイヤに切り傷がないか、釘や何かとがったものが刺さっていないか点検してください。パンクしたタイヤや損傷したタイヤで走行すると、モーターサイクルの安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ホイールリムにへこみや変形がないか点検してください。ホイールやタイヤに損傷や欠陥がある状態で走行するのは危険であり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤの交換やタイヤの安全点検については、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

タイヤの交換

Triumph 製のモーターサイクルはすべて、そのモデルに最も適したタイヤの組み合わせでタイヤを認可するために、さまざまな走行条件で徹底的にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、認可されたタイヤを認可された組み合わせで使用しなければなりません。認可されていないタイヤを使ったり、認可タイヤを認可されていない組み合わせで使ったりすると、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。ABS が装備されているモデルの場合、認可されていないタイヤを取り付けるとホイール速度の違いが生じ、ABS コンピューターの機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。

認可タイヤの組み合わせの詳細については、「仕様」の章を参照してください。タイヤの取り付けとバランス調整は、安全かつ効果的にタイヤの取り付けを行うための必要なトレーニングを受け、技術を習得している正規Triumphディーラーにご依頼ください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS 装着モデルのみ)

⚠ 注意

タイヤ空気圧センサーの取付位置を示すラベルが、ホイールリムに貼り付けられています。タイヤ交換時に、タイヤ空気圧センサーを傷つけないように注意してください。タイヤの取り付けは必ず正規 Triumph ディーラーに依頼し、その際、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることをディーラーに伝えてください。

⚠ 警告

ABS が装備されているモデルの場合、ABS コンピューターは、フロントとリアホイールの相対速度を比較することによって作動します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイール速度が変化し、ABS が作動しなくなる恐れがあります。そのため通常なら ABS が機能するはずの状況下でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

パンクしたタイヤは交換してください。パンクしたタイヤを交換しなかったり、パンクを修理したタイヤで走行したりすると、安定性が損なわれ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブ式タイヤを取り付けないでください。ビードが固定されず、タイヤがリムの上でスリップするため、タイヤ空気圧が急激に低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れることは絶対にやめてください。インナーチューブを入れるとタイヤ内部の摩擦によって熱が発生するため、チューブが破裂してタイヤ空気圧が急速に低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

縁石にぶつかった後などでタイヤが損傷した疑いがある場合は、正規 Triumph ディーラーでタイヤの内側と外側の点検を受けてください。タイヤの損傷は外側からでは見えないことがあります。タイヤに損傷がある状態でモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

タイヤの交換が必要なときは、正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。正規 Triumph ディーラーにて、認定リストの中から正しい組み合わせのタイヤを選択し、タイヤメーカーの指示にしたがって取り付けを致します。

タイヤを交換したあとは、タイヤがリムに固定されるまで時間がかかります(約 24 時間)。その間は慎重に走行してください。タイヤがしっかり固定されないと、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤ交換直後のハンドリングは、摩耗したタイヤのハンドリングとは異なります。ライダーが新しいハンドリング特性に慣れるためには、十分な走行距離(約 160 km)が必要です。

取り付けから 24 時間後にタイヤ空気圧を点検・調整し、タイヤがきちんと固定されているか確認してください。必要に応じて調整してください。

取り付け後 160 km 走行した時点で、同様の点検・調整を行ってください。

⚠ 警告

タイヤがきちんと固定されていなかったり、タイヤ空気圧の調整が不適切であったり、ハンドリング特性に慣れていない状態で運転したりすると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモメーター上で使用したタイヤは損傷していることがあります。タイヤの外表面からは損傷が見えないこともあります。ローリングロードダイナモメーター上で使用したタイヤは必ず交換してください。損傷したタイヤをそのまま使用すると、安定性が損なわれ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

モーターサイクルの安全で安定した操縦性に必要なのは、正確なホイールバランスです。ホイールバランスウエイト取り外したり変えたりしてはいけません。ホイールバランスが不適切になると、安定性が損なわれ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤを交換した後など、ホイールバランスの調整が必要な場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

自己接着型のウエイト以外は使用しないでください。クリップ式ウェイトを使用するとホイールやタイヤが損傷することがあり、タイヤ空気圧が低下して制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生させる時があります；火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

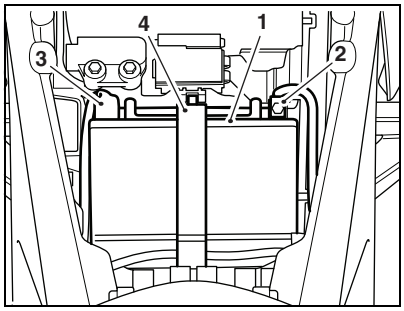
⚠ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーにジャンプリードを付けたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。そのようなことをすると火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故を起こす危険があります。

バッテリーの取り外し

全モデル



1. **バッテリー（Street Triple を図示）**
2. **マイナス（黒）端子**
3. **プラス（赤）端子**
4. **バッテリーストラップ**

ライダーシートを取り外します。

バッテリーストラップを外します。

最初にマイナス（黒）の方からバッテリーのリード線を外します。

バッテリーをケースから出してください。

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーの処分

万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してくれます。

バッテリーの整備

乾いた清潔な布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があって有毒であり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管だけしている場合に電圧チェックや定期的な充電が必要なだけです。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外してください。

バッテリーの放電

⚠ 注意

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。

バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール（ECM）メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が増早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

モーターサイクル保管時と使用頻度の低いモーターサイクルのバッテリー放電

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されているメーカーの指示書に従ってください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合、バッテリーの充電を行ってください（*120*ページ参照）。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化を発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされておりません。

バッテリーを常にフルに充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェックまたはバッテリーの充電に関する詳しいことは、貴地の Triumph ディーラーにご連絡ください。

⚠ 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します；火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

⚠ 注意

充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が12.7 V以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。必ずバッテリー充電器のメーカーの指針に従ってください。

長期（2週間以上）に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumphが承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーをバッテリーケースに入れます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。

プラスの端子に保護キャップをかぶせます。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

ライダーシートを再装備します。

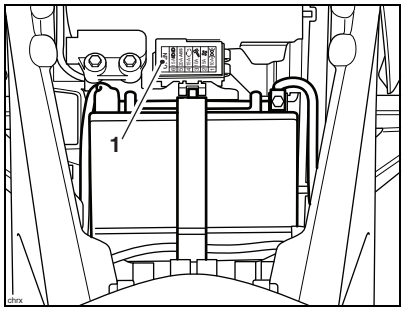
ヒューズボックス

ヒューズの識別

ヒューズが切れると、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、どのヒューズが切れたか特定できます。ヒューズが切れていないか点検するときは、下表を参考にしてどのヒューズが切れたかを突き止めてください。

表内のヒューズ番号は、イラスト内のヒューズボックスカバーに記載されている番号と同じです。スペアヒューズはメインヒューズに対して直角に置かれており、スペアヒューズを使った場合は補充する必要があります。

Daytona 675 と Daytona 675 R



1. ヒューズボックス

ヒューズボックスはライダーシートの下にあります。

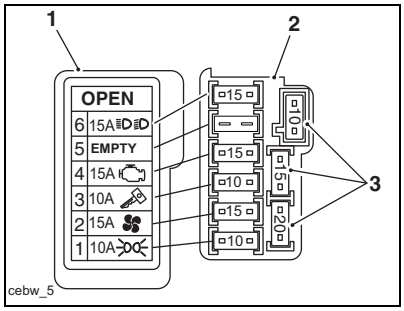
ヒューズボックスの作業をするときは、ライダーシートを取り外します。

⚠ 警告

ヒューズが切れたときは、必ず、(ヒューズボックスのカバーに明記されている) 正しい定格の新品のヒューズと交換してください。絶対に既定の定格を超えたヒューズを使用してはいけません。不適切なヒューズを使用すると電気系統に問題が生じて、モーターサイクルが損傷し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ヒューズボックス - ABS 非搭載の Daytona 675

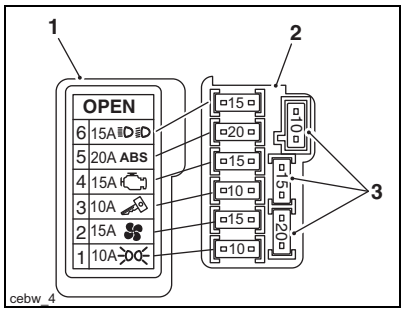
保護回路	位置	定格 (アンペア)
副灯	1	10
冷却ファン	2	15
イグニッションスイッチ、スターター回路	3	10
エンジン管理	4	15
未使用	5	
ディプおよびメインビームヘッドライト、スターターリレー	6	15



1. **ヒューズボックスカバー**
2. **ヒューズボックス**
3. **スペアヒューズ**

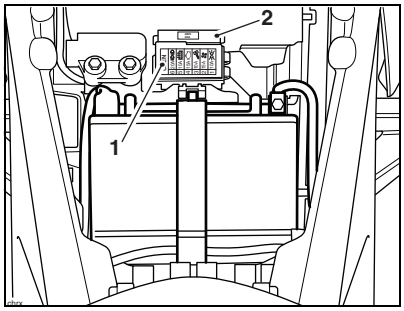
ヒューズボックス - ABS 搭載の Daytona 675

保護回路	位置	定格（アンペア）
副灯	1	10
冷却ファン	2	15
イグニッションスイッチ、スターター回路	3	10
エンジン管理	4	15
ABS	5	20
ディプおよびメインビームヘッドライト、スターターリレー	6	15



1. **ヒューズボックスカバー**
2. **ヒューズボックス**
3. **スペアヒューズ**

Street Triple と Street Triple R



1. **メインヒューズボックス**
2. **ABS ヒューズボックス（装着されている場合）**

ヒューズボックスはシートの真下にあります。

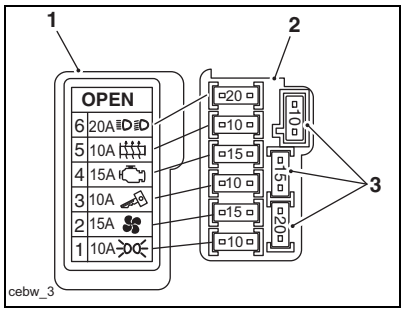
ヒューズボックスの作業をするときは、シートを取り外します。

⚠ 警告

ヒューズが切れたときは、必ず、（ヒューズボックスのカバーに明記されている）正しい定格の新品のヒューズと交換してください。絶対に既定の定格を超えたヒューズを使用してはいけません。不適切なヒューズを使用すると電気系統に問題が生じて、モーターサイクルが損傷し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ヒューズボックス - Street Triple と Street Triple R

保護回路	位置	定格(アンペア)
副灯	1	10
冷却ファン	2	15
イグニッションスイッチ、スターター回路	3	10
エンジン管理	4	15
ヒートグリップ	5	10
ディプおよびメインビームヘッドライト、スターターリレー	6	20



1. ヒューズボックスカバー
2. ヒューズボックス
3. スペアヒューズ

注記：

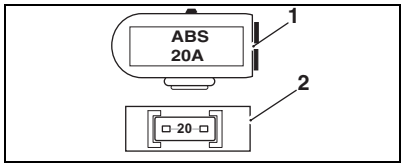
- スターターソレノイドには予備として 30 A のヒューズがあり、ライダーシートの真下で、直接ソレノイドに取り付けられています。

ABS ヒューズボックス - Street Triple と Street Triple R の ABS 搭載モデル

ABS ヒューズボックスは、メインヒューズボックスに取り付けられています。

ABS ヒューズボックスの作業をするには、シートを取り外す必要があります。

保護回路	位置	定格(アンペア)
ABS	1	20



1. ヒューズボックスカバー
2. ヒューズボックス

ライト

ヘッドライト

⚠ 警告

走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、路面の前方を十分遠くまで照らせるようビームを調整してください。ヘッドライトが正しく調整されていないと、視界が損われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

走行中には絶対ヘッドライトビームを調整しないでださい。

走行中にヘッドライトビームの調整を試みた場合、バランスを崩して事故を引き起こしかねません。

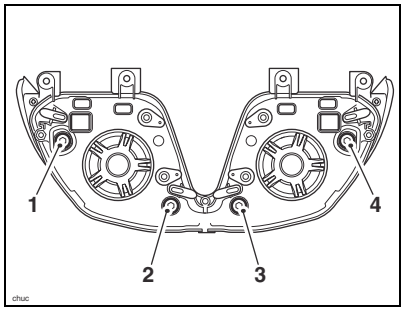
⚠ 注意

定められたコースでモータバイクを運転する場合、目につくヘッドライト外面にテープを貼るように言われます。

テープを貼ると、ヘッドライトの外面が熱を帯びてゆがみます。ヘッドライトが変形しないようにするため、定められたコースで運転する時にテープを貼る際、必ずヘッドライトを切ってください。

ヘッドライトの調整 - Daytona 675 と Daytona 675 R

各ヘッドライトは、それぞれのヘッドライトの裏側にある、上下調整用ネジと左右調整用ネジを使って調整できます。



1. **左右調整用ネジ（左側）**
2. **上下調整用ネジ（左側）**
3. **上下調整用ネジ（右側）**
4. **左右調整用ネジ（右側）**

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

それぞれのヘッドライトにある上下調整用ネジを反時計方向に回すとヘッドライトビームが上に向き、時計方向に回すと下に向きます。

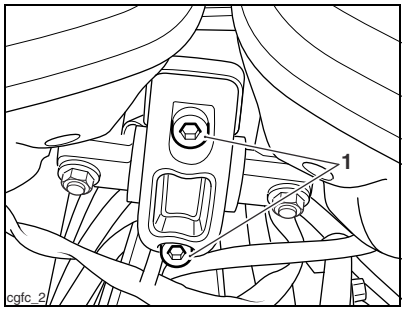
右側のヘッドライトの場合は、左右調整用ネジを反時計方向に回すとヘッドライトビームが左を向き、時計方向に回すと右を向きます。

左側のヘッドライトの場合は、左右調整用ネジを反時計方向に回すとヘッドライトビームが右を向き、時計方向に回すと左を向きます。

ビームの設定が完了したら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

ヘッドライトの調整 - Street Triple と Street Triple R

ヘッドライトの調整 －上下方向



1. 上下ビームアジャスターボルト

ヘッドライトビームを上下方向に調整するときは、左右のヘッドライトを同時に調整することしかできません。左右別々の調整はできません。

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

クランプボルトをゆるめて、ヘッドライトをある程度動かせるようにします。

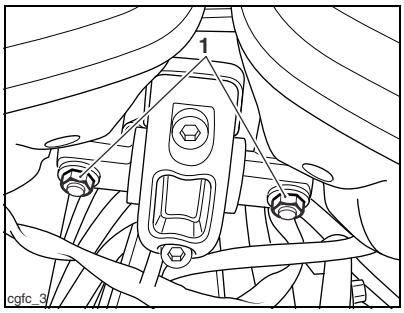
ヘッドライトの位置を調整して、望ましいビーム設定にします。

前側のクランプボルトから、**15 Nm** で締め付けます。

ヘッドライトビームが正しく調整されたか確認します。

ビームの設定が完了したら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

ヘッドライトの調整 －左右方向



1. ヘッドライト取り付けナット

左右方向のヘッドライトビームは、左右のヘッドライトで個別に調整することができます。どちらのヘッドライトも、同じ手順で調整します。

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

ヘッドライト取り付けナットをゆるめます。

ヘッドライトの水平位置を左右方向に調整して、望ましいビーム設定にします。

ナットを **30 Nm** で締め付けます。

もう一方のヘッドライトも同じ手順で調整します。

ヘッドライトビームが正しく調整されたか確認します。

ビームの設定が両方とも完了したら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

ヘッドライトバルブの交換 – Daytona 675 と Daytona 675 R

⚠ 注意

認可されていないヘッドライトバルブを使用すると、ヘッドライトレンズを損傷する場合があります。

Triumphパーツカタログに掲載されている、Triumph 提供の純正ヘッドライトバルブを使用してください。

ヘッドライトバルブの交換は、必ず正規 Triumph ディーラーにご依頼ください。

ヘッドライトバルブを交換するときに、ヘッドライトを取り外す必要はありません。

⚠ 警告

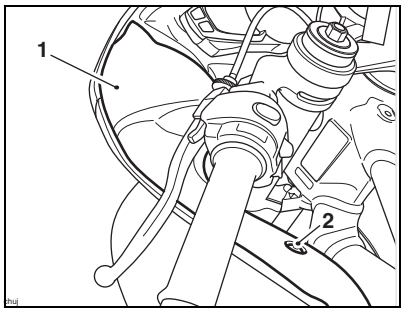
使用中はバルブが高温になります。必ず、バルブが十分冷えてから取り扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたりガラスが汚れたりした場合は、再び使用する前にアルコールで拭いてください。

バルブの交換：

ライダーシートを取り外します。

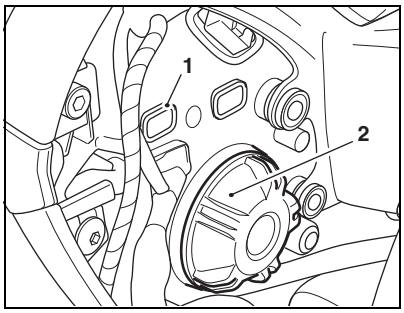
バッテリーのリード線を、マイナス（黒）から先に取り外します。

ネジを外してインフィルパネルを取り外します。



1. インフィルパネル
2. ネジ

ヘッドライトのバルブカバーを反時計方向に回してヘッドライトから取り外します。

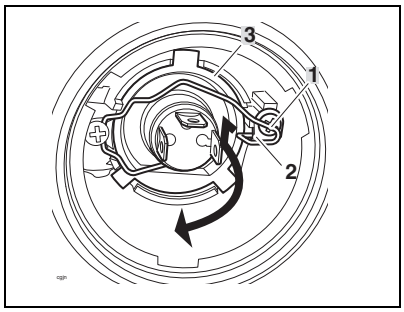


1. ヘッドライトユニット（左側を図示）
2. バルブカバー

バルブリテーナーからマルチプラグを分離してください。交換するバルブのバルブカバーを反時計方向に回して、バルブから取り外します。

バルブからマルチプラグを抜きます。

下図のように、バルブリテーナーをヘッドライトアッセンブリーのフックから外し、バルブから遠ざけるように回転させます。



1. **バルブリテーナー（図は右側）**
2. **バルブリテーナーフック**
3. **バルブ**

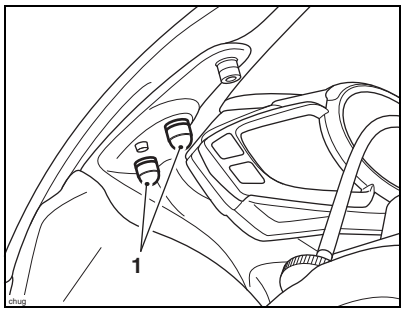
バルブをバルブリテーナーから取り外します。

取り付けは、取り外したときと逆の手順で行ないます。

ポジションランプのバルブ交換 – Daytona 675 と Daytona 675 R

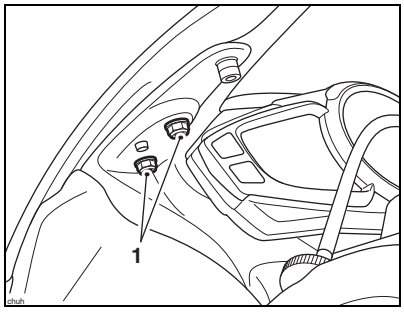
ポジションランプはヘッドライトの中央に取り付けられています。

ポジションランプのバルブを交換するときは、ミラーの固定具からゴムカバーを取り外します。



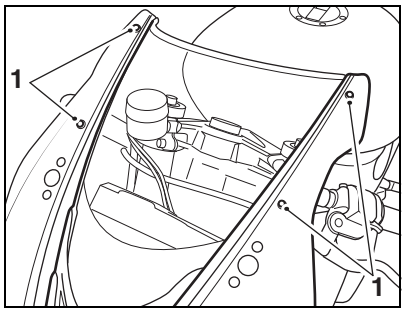
1. **ゴムカバー（左側を図示）**

ミラーの固定具を外してミラーを両方とも取り外します。



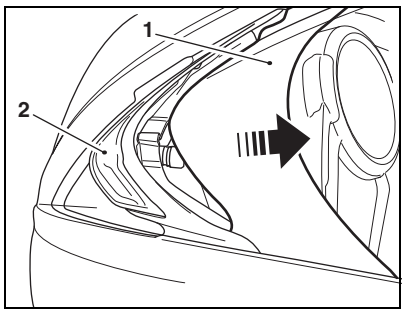
1. **ミラーの固定具（左側を図示）**

ウィンドスクリーンからネジ4個を取り外します。



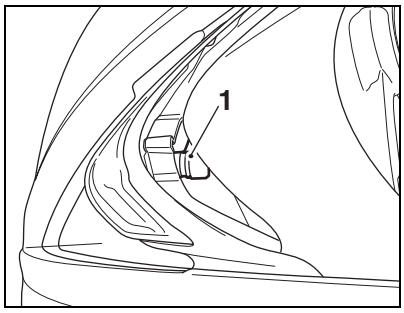
1. ネジ

ウィンドスクリーンを後方にずらしてポジションライトのバルブホルダーに手が届くようにします。



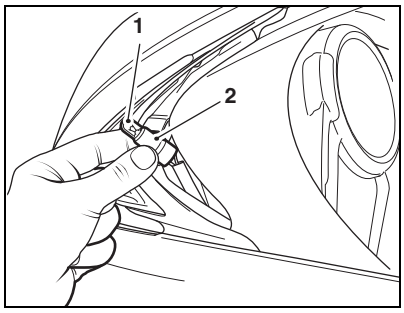
1. ウィンドスクリーン
2. コックピット

ヘッドライトからバルブホルダーを取り外します。



1. バルブホルダー

バルブを抜きます。



1. バルブホルダー
2. バルブ

取り付けは、取り外したときと逆の手順で行ないます。

ウィンドスクリーンの固定具を **3 Nm** で締め付けます。

ミラーの固定具を **8 Nm** で締め付けます。

ヘッドライトバルブの交換 - Street Triple と Street Triple R

⚠ 注意

認可されていないヘッドライトバルブを使用すると、ヘッドライトレンズを損傷する場合があります。

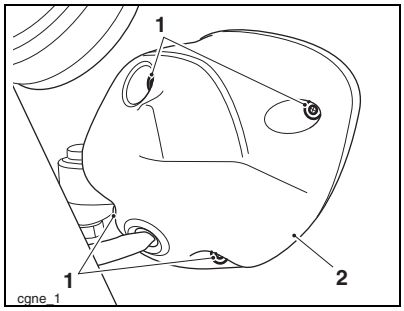
Triumphパーツカタログに掲載されている、Triumph 提供の純正ヘッドライトバルブを使用してください。

ヘッドライトバルブの交換は、必ず正規 Triumph ディーラーにご依頼ください。

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

ヘッドライトを支えたまま固定具を外し、ボウルからヘッドライトを取り外します。

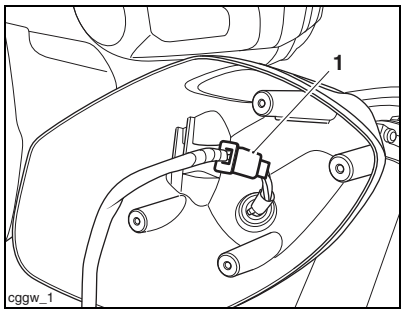


1. 固定具
2. ヘッドライトボール

⚠ 警告

バルブは使用中は熱くなります。必ず、電球が冷えるまで十分時間をかけてから、扱ってください。バルブのガラス部分に触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした場合は、アルコールで拭き取ってください。

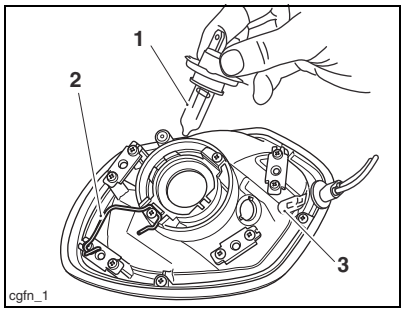
マルチピンコネクターをメインハーネスから外し、ヘッドライトを取り外します。



1. マルチピンコネクター

マルチピン電気配線コネクターをバルブから外し、ゴムカバーを取り外します。

ワイヤリテーナーをクリップから離し(ネジは外しません)、バルブをライトユニットから外します。



1. **ヘッドライトバルブ**
2. **バルブクリップ**
3. **ポジションランプバルブ**

ポジションランプバルブの取り外し：

ワイヤーを引っ張らずに、バルブホルダーをソケットからゆっくり外します。バルブをそっと上に引っ張って、ホルダーから外します。

バルブの取り付けは両方とも、取り外し手順を逆に行なってください。

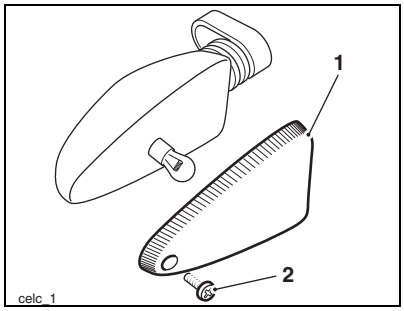
ヘッドライトの固定具を **3 Nm** で締め付けます。

⚠ 注意

バッテリーを再接続するときは、プラス（赤）のリード線から先に接続します。

方向指示灯

バルブの交換



1. **インジケーターレンズ**
2. **固定ネジ**

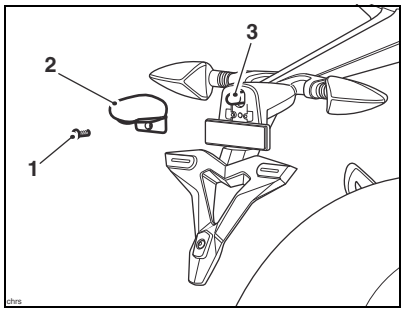
インジケーターライトのレンズは、ライトのレンズに付いているネジで固定されています。

ネジを緩めてレンズを取り外し、バルブ交換作業を行います。

ライセンスプレートライト

バルブの交換

固定具を外し、ライセンスプレートライトのレンズを取り外します。



1. 固定具
2. レンズ
3. バルブ

バルブを交換し、レンズを再び取り付け、固定具を 3 Nm で締め付けます。

リアライト

リアライトの交換

リアライトユニットは、密封式で保守不要の LED ユニットです。

洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。

クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック：キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたり、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗い布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざらした道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗い布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- 計器類
- ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- 燃料タンクの下
- ヘッドストックベアリング
- ヘッドライト上の吸気ダクト。

⚠ 注意

吸気ダクトに吹きつけた水がエアボックスとエンジンに浸入し、損傷を与える可能性があります。

⚠ 注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

注記：

- **アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。**

洗車後

ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。

ピボット、ボルト、ナット類に注油します。

モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。

エンジンを始動させ、5分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。

乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。

⚠ 警告

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

シートケア

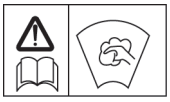
⚠ 注意

化学薬品や高圧スプレー洗浄機でシートをクリーニングすることは避けてください。化学薬品や高圧洗浄機を使用すると、シートカバーを傷める可能性があります。

シートを美しく保つためには、石鹸水を含ませたスポンジかクリーニング用の布で、シートを洗浄してください。

ウィンドスクリーンの洗浄

Daytona 675 と Daytona 675 R



ウィンドスクリーンは、中性石鹸または中性洗剤と、ぬるま湯を使用して洗浄します。洗浄後はよくすすいでから柔らかい布で水分を拭き取ります。

⚠ 注意

窓用洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、または強溶剤であるアルコール、アセトン、四塩化炭素などを使用すると、ウィンドスクリーンが損傷します。これらの製品をウィンドスクリーンに接触させることは絶対にやめてください。

傷や酸化が除去できず、ウィンドスクリーンの透明度が低下した場合は、ウィンドスクリーンを交換する必要があります。

⚠ 警告

モーターサイクルの走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとすることは絶対にやめてください。ハンドルから手を離すと制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

損傷やひっかき傷のあるウィンドスクリーンでモーターサイクルを運転すると、ライダーの前方の視界が十分に確保できません。前方がよく見えない状態で走行することは危険であり、負傷事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 注意

バッテリー液等の腐食性化学物質は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。ウィンドスクリーンに腐食性化学物質を接触させることは絶対にやめてください。

塗装されていないアルミニウム部品

一部モデルのブレーキやクラッチレバー、ホイール、エンジンカバー、トップヨーク、ボトムヨーク等は、その外観を保つために正しい方法で清掃を行わなければなりません。お客様のモーターサイクルのコンポーネントで、どれが未塗装のアルミニウム部品かが分からない場合は、正規販売店にお問い合わせください。

研磨剤や腐食成分を含まない、専用ブランドのアルミニウムクリーナーを使ってください。

アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。

整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。

注記：

- **水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。**

洗浄

水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られる強アルカリ性洗剤は使用しないでください。残留物が残るからです。

柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。

排気装置を徹底的にすすいでください。

サイレンサーに石鹸水や水が入らないようにしてください。

乾燥

排気装置を柔らかい布で拭いて、できる限り水分を取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。水滴の跡が残ります。

保護

排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect」を表面にすり込みます。

⚠ 注意

シリコンを含む製品を使うとクロムの変色を招くことがありますので、使わないでください。同様に、研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

このページは意図的に空白にしてあります

保管

保管前の準備

モーターバイクを完全に清掃し、乾燥させます。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。

⚠ 警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

シリンダーからスパークプラグを外し、エンジンオイルをシリンダーごとに数滴（5 cc）垂らします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取付け、**12 Nm** のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します（*90* ページ参照）。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（*151* ページ参照）。

両輪が地面から浮き上がるように、モーターバイクのスタンドを立てます。（これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください。）

塗装されていない金属面に防錆油（市場には多くの製品が出回っているので、貴地の代理店に問い合わせてください）をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

チェーンをチェックし、調整します（*102* ページを参照）。

冷却装置は、クーラント（Triumph 提供の HD4X ハイブリッド OAT クーラントは、事前に混合してあるので希釈は不要です）と蒸留水を50%ずつ混合した溶液で充填します（*92* ページ参照）。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。保管中のバッテリーは、隔週に一度のペースで緩速充電（1 アンペア以下）してください（*131* ページ参照）。

モーターバイクは、ひんやりとして乾燥し、直射日光が射さず、一日の温度変化が小さい場所に保管します。

モーターバイクにカバーをかけ、ほこりやごみが積もらないように適切な多孔性カバーをしてください。プラスチックのような通気性のない、熱や湿気のこもりやすい材質の被覆が施された材質の物は避けてください。

保管後の走行準備

バッテリーを再度取り付けます（*92* ページ参照）。

4ヶ月以上乗らなかったモータバイクの場合、エンジンオイルを交換してください（*90*ページ参照）。

日常の安全点検の項に記載されている項目をすべてチェックします。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを取り付けて**12 Nm**で締め付けたら、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（*151*ページ参照）。

車体全体をくまなくきれいにします。

ブレーキをチェックし、調整します。

低速でモーターバイクを試運転します。

仕様

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
寸法			
全長.	2045 mm	2055 mm	2055 mm
全幅.	695 mm	740 mm	740 mm
全高.	1112 mm	1190 mm	1190 mm
軸間距離.	1375 mm	1410 mm	1410 mm
シート高.	Daytona 675 - 820 mm Daytona 675 R - 830 mm	800 mm	820 mm
重量			
湿重量.	184 kg	182 kg	182 kg
最大車載重量. . . .	195 kg	195 kg	195 kg
エンジン			
タイプ.	直列3 気筒	直列3 気筒	直列3 気筒
排気量.	674.8 cc	674.8 cc	674.8 cc
ボア x ストローク. .	76 x 49.58 mm	74 x 52.3 mm	74 x 52.3 mm
圧縮比.	13.10:1	12.85:1	12.85:1
シリンダナンバー. .	左から右へ	左から右へ	左から右へ
シリンダーの順番. .	左側が1	左側が1	左側が1
点火順.	1-2-3	1-2-3	1-2-3
始動方式.	電動スターター	電動スターター	電動スターター

仕様

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
性能			
最大出力. . . . . (95/1/EC) (標準)	94.12 kW (128.0 PS) @ 11,750 rpm	78.1 kW (106.2 PS) @ 11,750 rpm	78.1 kW (106.2 PS) @ 11,750 rpm
最大出力. . . . . (95/1/EC) (オプション)	該当なし	70 kW (95.2 PS) @ 11,200 rpm	該当なし
最大トルク. . . . . (標準)	74 Nm @ 11,900 rpm	68 Nm @ 9,750 rpm	68 Nm @ 9,750 rpm
最大トルク. . . . . (オプション)	該当なし	66.6 Nm @ 8,350 rpm	該当なし
潤滑			
潤滑.	圧力潤滑 (ウェットサンプ方式)	圧力潤滑 (ウェットサンプ方式)	圧力潤滑 (ウェットサンプ方式)
エンジンオイル容量：			
ドライフィル. . . .	3.6 リッター	3.6 リッター	3.6 リッター
オイル / フィル. . . ター交換	3.2 リッター	3.2 リッター	3.2 リッター
オイル交換のみ. . .	3.0 リッター	3.0 リッター	3.0 リッター

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
クーリング			
クーラントタイプ. .	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
水 / 不凍剤比. . . .	50 対 50（Triumph が事前に調合して提供）	50 対 50（Triumph が事前に調合して提供）	50 対 50（Triumph が事前に調合して提供）
クーラント容量. . .	2.10 リッター	2.24 リッター	2.24 リッター
サーモスタットオ. . ープン (公称)	71° C	71° C	71° C
燃料システム			
タイプ.	電子燃料噴射	電子燃料噴射	電子燃料噴射
インジェクター. . .	ソレノイド操作式	ソレノイド操作式	ソレノイド操作式
燃料ポンプ.	サブマージ電動型	サブマージ電動型	サブマージ電動型
燃料圧（公称）. . .	3.5 バール	3.5 バール	3.5 バール
燃料			
タイプ.	無鉛 95 RON	無鉛 91 RON	無鉛 91 RON
タンク容量.	17.4 リッター	17.4 リッター	17.4 リッター

仕様

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
イグニッション			
点火装置.	デジタル誘導式	デジタル誘導式	デジタル誘導式
電子レブリミター. . (r/min)	14,400 (r/min)	13,000 (r/min)	13,000 (r/min)
スパークプラグ. . .	NGK CR9EIA - 9	NGK CR9EK	NGK CR9EK
スパークプラグギ. . ャップ	0.9 mm	0.7 mm	0.7 mm
許容ギャップ. . . .	+0.00/-0.1 mm	+0.05/-0.1 mm	+0.05/-0.1 mm
トランスミッション			
トランスミッショ. . ンタイプ	6速、常時噛合式	6速、常時噛合式	6速、常時噛合式
クラッチ.	湿式多版	湿式多版	湿式多版
ファイナルドライ. . ブチェーン	RK Oリング	RK Oリング	RK Oリング
プライマリドラ. . . イブ比	1.848:1 (46/85)	1.848:1 (46/85)	1.848:1 (46/85)
歯車比：			
ファイナルドラ . . . . イブ比	3.133:1 (15/47)	2.937:1 (16/47)	2.937:1 (16/47)
1速.	2.615:1 (16/37)	2.615:1 (16/37)	2.615:1 (16/37)
2速.	1.857:1 (21/39)	1.857:1 (21/39)	1.857:1 (21/39)
3速.	1.565:1 (23/36)	1.565:1 (23/36)	1.565:1 (23/36)
4速.	1.350:1 (20/27)	1.350:1 (20/27)	1.350:1 (20/27)
5速.	1.238:1 (21/26)	1.238:1 (21/26)	1.238:1 (21/26)
6速.	1.136:1 (22/25)	1.136:1 (22/25)	1.136:1 (22/25)

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
タイヤ			
タイヤ空気圧 (冷寒時) :			
フロント.	2.35 バール	2.35 バール	2.35 バール
リア.	2.48 バール	2.90 バール	2.90 バール
フロントサイズ. . .	120/70 ZR 17	120/70 ZR 17	120/70 ZR 17
リアサイズ.	180/55 ZR 17	180/55 ZR 17	180/55 ZR 17

⚠ 警告

推奨されたタイヤだけを指定の組み合わせで使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。混用すると、モーターバイクのコントロールが失われて事故を招く結果になりかねません。

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
認定タイヤ :			
フロント用オプ. . . ション 1	Pirelli Diablo Super Corsa SP2012	Pirelli Diablo Rosso Corsa	Pirelli Diablo Rosso Corsa
リア用オプショ. . . ン 1	Pirelli Diablo Super Corsa SP2012	Pirelli Diablo Rosso Corsa	Pirelli Diablo Rosso Corsa
フロント用オプシ. . ョン 2	Metzeler Racetec K3	Metzeler M5 Interact	Metzeler M5 Interact
リア用オプシ. . . . ョン 2	Metzeler Racetec K3	Metzeler M5 Interact	Metzeler M5 Interact

仕様

	Daytona 675 および 675 R	Street Triple	Street Triple R
認定タイヤ（つづき）：			
フロント用オプション 3	Pirelli Diablo Rosso Corsa	Dunlop Qualifier II	Dunlop Qualifier II
リア用オプション 3	Pirelli Diablo Rosso Corsa	Dunlop Qualifier II	Dunlop Qualifier II
フロント用オプション 4	Bridgestone BT016 Pro	Bridgestone BT016 Pro	Bridgestone BT016 Pro
リア用オプション 4	Bridgestone BT016 Pro	Bridgestone BT016 Pro	Bridgestone BT016 Pro
電装品			
バッテリータイプ	YTX9 - BS	YTX9 - BS	YTX9 - BS
バッテリー定格	12 V、8 Ah	12 V、8 Ah	12 V、8 Ah
オルタネーター	12 V、33.5 A @ 4,000 rpm	12 V、33.5 A @ 4,000 rpm	12 V、33.5 A @ 4,000 rpm
ヘッドライト	2 x 12 V 55/60 W、H4 ハロゲン	2 x 12 V、55/60 W、H4 ハロゲン	2 x 12 V、55/60 W、H4 ハロゲン
テール / ブレーキライト	LED	LED	LED
方向指示灯	12 V、10 W	12 V、10 W	12 V、10 W
フレーム			
すくい角	22.9°	24.2°	23.2°
トレール	87.2 mm	99.3 mm	94.4 mm

	全モデル
締付トルク	
オイルフィルター. .	10 Nm
オイルドレンプラグ.	25 Nm
スパークプラグ. . .	12 Nm
リアホイールス. . . ピンドル	110 Nm
チェーンアジャス. . ターロックナット	27 Nm
フルードと潤滑剤	
エンジンオイル. . .	API SH （またはそれ以上）**および** JASO MA の仕様に適合する半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 のモーターサイクル用エンジンオイルを使用。例としては、Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）。Castrol Power RS Racing 4T 10W-40（完全合成）として販売されている場合もある。
ブレーキクラッ. . . チフルード	DOT 4 ブレーキクラッチフルード
クーラント.	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
ベアリングと. . . . ピボット	NLGI 2 仕様を満たしたグリース
ドライブチェーン. .	O リングチェーンに適したチェーンスプレー

仕様

このページは意図的に空白にしてあります

索引（あいうえお順）

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）
警告灯 49

あ

アクセサリー
　Dロックの収納 61
アクセサリー、積載条件、同乗者 . . 77
安全 5
　整備 / 装備 9
　駐車 8
　日常点検 63
　燃料と排気ガス 5
　ハンドルとフットレスト 7
　部品とアクセサリー 8
　ヘルメットと防護服 7
　モーターバイク 5
　ライディング 6

い

イグニッション 154
　キー 50
　スイッチ / ステアリングロック . . 51

え

エンジン
　エンジンの始動 66
　エンジンの停止 66
　仕様 151
　シリアル番号 20
　発車 67
エンジンオイル 88
　オイルとオイルフィルターの
　交換 90
　オイルとフィルターの処分 . . . 91
　オイルレベルの点検 88
　等級と仕様 91

き

ギア
　ギアチェンジ 68
　ギアチェンジライト 38
　ギアポジションディスプレイ . . .45
　クイックシフター 68

く

クーラント温度計. 45
クラッチ. 101
　調整 101
　点検 101
クリーニング. 143
　乾燥 147
　シートケア 145
　準備 144
　洗車後 145
　洗浄 147
　注意すべき部分 144
　塗装されていないアルミニウ
　ム部品 146
　排気装置 147
　保護 147

け

計器盤. 24
　オドメーター 29
　スピードメーター 27
　スピードメーターとオドメーター. . 25
　タコメーター 27
　単位の変更 35
　時計の調節 37
　トリップコンピューター 27
　トリップメーター 30
警告
　警告・注意・注記 1
　警告ラベル 2
警告灯. 47
警告ラベルの位置. 12
警告ラベルの位置 - Daytona 675 . .10

索引（あいうえお順）

こ

高速走行の際の注意 74

し

シート . . . . . .
　ライダーシート　Daytona 675 と Daytona 675 R. 60
　ライダーシート　Street Triple と Street Triple R 59
　リアシート　Daytona 675 と Daytona 675 R. 60
シートケア 61
シートロック 59
締付トルク 157
車体識別番号 20
重量 151
潤滑 152
仕様 151
　タイヤ 155

す

スタンド 58
　サイドスタンド 58
ステアリング / ホイールベアリング . . 112
　点検 112
　ホイールベアリングの点検 . . . 113
スロットルコントロール 98
　調整 100
寸法 151

せ

性能 152
洗車
　ウィンドスクリーン Daytona 675. 145

た

タイヤ 124
　空気圧 125
　交換 126
　トレッドの深さ最小値 125
タイヤ空気圧モニタリングシステム
　TPMS 表示部. 35
　センサー ID 番号 34
　センサーバッテリー. 35
　タイヤ空気圧警告灯 49
タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）. 46
タイヤ空気圧モニタリングシステム（装着されている場合). 125
タイヤの交換
　タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS 装着モデルのみ）. . 127

つ

ツールキット. 62

て

電装品. 156

と

ドライブチェーン. 102
　潤滑 102
　たるみ調整 103
　たるみ点検 103
　磨耗点検 104
トランスミッション. 154

な

慣らし運転. 62

ね

燃料. 153
燃料計. 46
燃料システム. 153
燃料の条件. 56
　燃料タンクへの給油 57
　燃料の等級 56
　フューエルタンクキャップ 57

は

バッテリー 129
充電 131
処分 130
整備 130
取り付け 132
取り外し 129

ひ

左ハンドルスイッチ 55
パスボタン 55
ヘッドライトディップスイッチ . 55
ホーンボタン 55
方向指示器スイッチ 55
ヒューズボックス 132
ABS 搭載の Daytona 675. 134
ABS 非搭載の Daytona 675. . . . 133
Street Triple と
Street Triple R. 135
Street Triple と
Street Triple R の
ABS 搭載モデル 135
ヒューズの識別 132

ふ

部品の名称 14
Daytona 675. 14
Street Triple. 17
フルードと潤滑剤 157
ブレーキ 106
ABS（アンチロックブレーキシ
ステム). 71
ABS の解除 32
サーキットモード 31
ディスクブレーキフルード . . . 108
パッドの磨耗補正 107
フルードレベル 108
ブレーキ操作 69
ブレーキレバーアジャスター
Daytona 675 R 53
ブレーキレバーアジャスター
Street Triple、Street Triple R、
Daytona 675 52
磨耗点検 106
ライトスイッチ 111
リアブレーキフルードの
レベル点検と調整 110
フレーム. 156
フロントサスペンション. 114
圧側減衰の調整
Daytona 675 R 118
圧側減衰の調整
Street Triple R 118
スプリングプリロード
Street Triple R 116
伸側減衰の調整
Daytona 675 R 117
伸側減衰の調整
Street Triple R 117
フォークの点検 114
フロントサスペンション設定一
覧表 Daytona 675 のみ 115
フロントサスペンション設定一
覧表 Daytona 675 R のみ 115
フロントサスペンション設定一
覧表 Street Triple R のみ . . . 115
フロントサスペンションの調整 -
Street Triple 114

へ

ヘッドライト. . . . . .
左右方向の調整 137

索引（あいうえお順）

ほ

方向指示灯 142
保管
　保管後の走行準備 150
　保管前の準備 149

み

右ハンドルスイッチ 54
　エンジンストップスイッチ . . . 54
　スターターボタン 54

ら

ライセンスプレートライト 143
ライト 136
　ヘッドライト 136
　ヘッドライトの調整 Daytona . . 136
　ヘッドライトの調整
　Street Triple 137
　リアライト 143
ラップタイマー 41

り

リアサスペンション 119
　圧側減衰の調整 -
　Street Triple R 122
　スプリングプリロードの調整 -
　Street Triple 121
　点検 119
　伸側減衰の調整 -
　Street Triple R 122
　リアサスペンション設定一覧表 -
　Daytona 675 のみ 120
　リアサスペンション設定一覧表 -
　Daytona 675 R のみ 120
　リアサスペンション設定一覧表 -
　Street Triple R のみ 120

れ

冷却装置 92
　クーラントレベルの調整 94
　クーラントレベルの調整
　Street Triple 97
　クーラントレベルの点検 93
　交換 98
　腐食防止剤 92